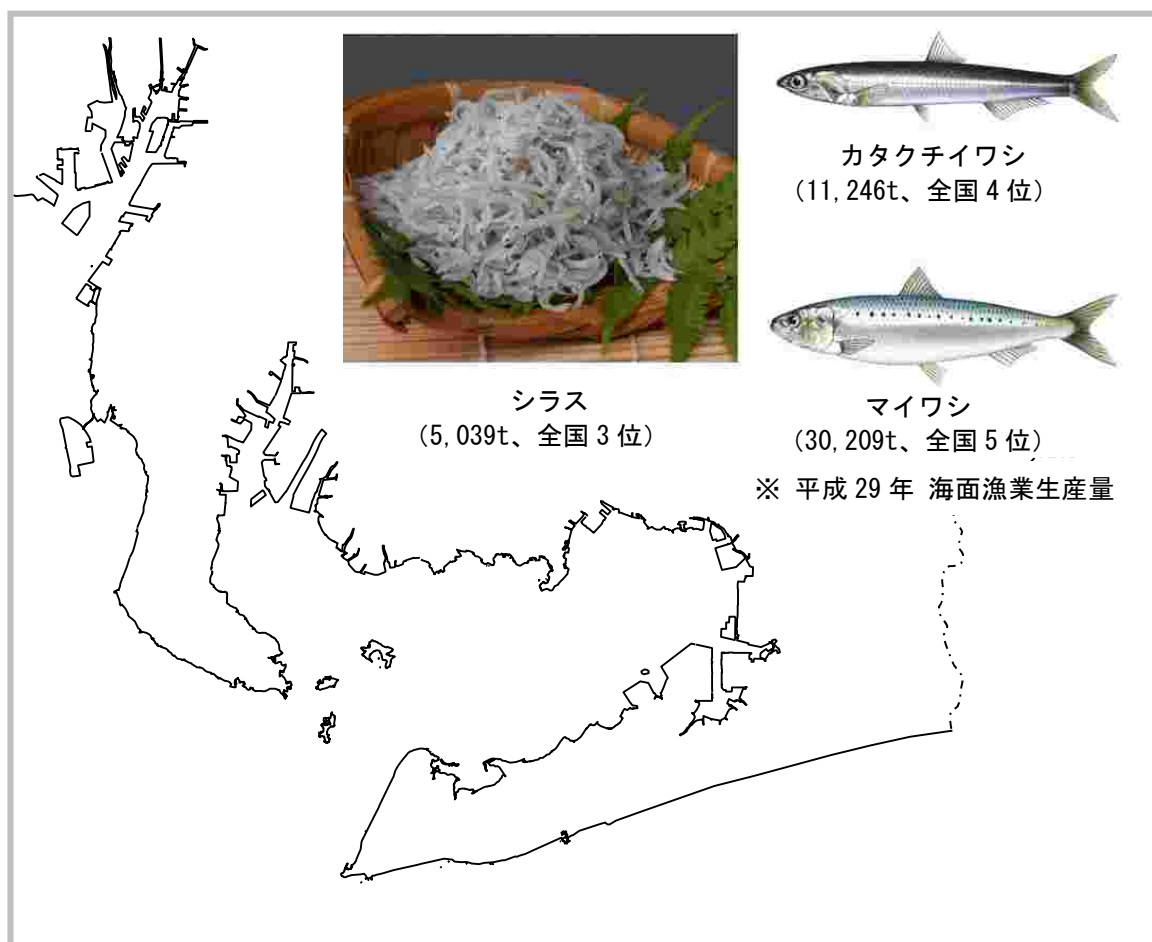


水産業の動き

2019



食と緑の基本計画 2020 の施策体系

食と緑が支える
県民の豊かな暮らし

柱1 競争力の高い農林水産業の展開による食料等の安定的な供給の確保

- (1) あいちの強みを生かした技術による品質や生産性の向上
 - ア 幅広い分野の先端技術等を活用した技術の開発と普及
 - イ 幅広い需要に応える戦略的な品種の開発と普及
- (2) マーケットインの視点に立った生産・流通の改善と需要の拡大
 - ア 多様なニーズに対応した生産・流通面の改善
 - イ 県内外に向けた戦略的な需要の拡大
 - ウ 農林水産物等の輸出の促進
- (3) 意欲ある人が活躍できる農業の実現
 - ア 多様な担い手の確保・育成
 - イ 優良農地の確保と集積・集約化の推進
 - ウ 農業生産基盤整備の推進
- (4) 資源を生かす林業の実現
 - ア 木材の安定供給
 - イ 生産を担う人材の確保・育成
 - ウ 林業生産基盤の充実
- (5) 持続可能で活力ある水産業の実現
 - ア 漁業生産基盤の機能強化
 - イ 持続的な漁業生産の確保
 - ウ 活力ある担い手の確保・育成
- (6) 食品の安全・安心の確保と環境への配慮
 - ア 食品の安全・安心の確保に向けた取組の強化
 - イ 環境に配慮した取組の推進

柱2 農林水産業への理解の促進と食料等の適切な消費の実践

- (1) 農林水産業を理解し身近に感じる活動の推進
 - ア 農林水産業への関心と理解を深める取組の推進
 - イ 幅広い世代に対する農林漁業体験の機会の提供
- (2) 食育の推進による健全な食生活の実践
 - ア 若い世代を中心とした生涯にわたる食育の推進
 - イ 食を通じた農林水産物や環境への理解と食文化の継承

柱3 自然災害に強く緑と水に恵まれた生活環境の確保と元気な地域づくり

- (1) 災害に強く安全で快適な生活環境の確保
 - ア 農山漁村地域の強靱化に向けた防災・減災対策の推進
 - イ 快適な生活環境の確保
- (2) 森林・農地・漁場の有する多面的機能の発揮
 - ア 多面的機能を適切に発揮させる森林・農地・漁場の保全・整備の推進
 - イ 地域で取り組む森林・農地・漁場の保全活動の推進
- (3) 農林水産業を核とした元気な地域づくり
 - ア 地域の特性を生かした農山漁村の活性化
 - イ 都市及び都市近郊における農業の振興

はじめに

伊勢湾・三河湾は、古来より魚介類の宝庫として知られ、我々の祖先も古くから、豊かな海の恵みを享受してきました。現在でも本県は、総生産量こそ全国中位ではありますが、多くの魚種において全国有数の産地となっており、沿岸域を中心に特色ある水産業が営まれています。

多種多様な水産物を供給する本県の水産業は、豊かで健康的な日本型食生活の構築や食文化の継承など、県民の皆様の暮らしに重要な役割を果たしています。

水産業を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、沿岸の各種開発に伴う漁場の喪失や漁場環境の悪化、産地魚価の低迷や後継者不足等の諸問題に加え、近年では新たな課題として、漁場の栄養塩不足等による資源の減少も顕著となり、漁業者や漁業団体の経営は大変厳しいものとなっています。

県ではこのような課題に対処するため、平成28年3月に策定した「食と緑の基本計画2020」に基づき、活力ある水産業の実現のための諸施策を推進しているところです。

本書は、各種施策を効果的に実施するための基礎資料とするとともに、広く関係者に利用していただくため、県内水産業の動向を総合的にとりまとめたもので、昭和36年度から刊行を続けており、平成22年度からは電子データで公表しています。

皆様に、本県水産業に対する理解を深めていただくとともに、水産業振興の一助としてご活用いただければ幸いです。

令和元年12月

愛知県農業水産局長

主な統計用語の説明

1 漁業経営体

(1) 海面

漁業及び養殖業を含みます。調査期日（最新数値は平成30年11月1日）前1年間に、利潤又は生活の資を得るため販売を目的として、水産動植物の採捕又は養殖の事業を行った世帯または事業所をいいます。（ただし、年間の海上作業従事日数が30日未満の個人経営体は除かれています。）経営体は、5年に1回の漁業センサスで調査されています。

(2) 内水面（養殖業）

調査期日（最新数値は平成30年11月1日）前1年間に、利潤又は生活の資を得るために内水面において販売を目的として計画的かつ持続的に投餌または施肥を行い、養殖用または放流用種苗の養成もしくは成魚を養成した世帯及び事業所をいいます。なお、調査対象は主要4魚種（ます類、あゆ、こい、うなぎ）のみです。5年に1回の漁業センサスで調査されています。

2 漁業就業者

海面漁業及び養殖業を含みます。調査期日（平成30年11月1日）現在満15歳以上で、過去1年間に漁業の海上作業に30日以上従事した人をいいます。5年に1回の漁業センサスで調査されています。

3 生産量

(1) 海面

海面漁業漁獲量、海面養殖業収獲量の総称で、乗組員の船内食用、自家用、自家加工用、販売活餌等を含みます。全ての水産動植物の採捕時の原形重量であり、藻類は採捕時の生重量、貝類は殻付の重量です。

(2) 内水面漁業

河川・湖沼において採捕された水産動植物の量をいいます。本県の数値は、天然産種苗の採捕量及び自家用を含むほか、漁業権が設定されている全ての河川・湖沼における組合員・遊漁者の採捕量を含みます。一方、全国数値は18年以降、販売を目的として漁獲した数量となり、21年から、漁業権等が設定された年間漁獲量50t以上の河川及び湖沼並びに国の施策上毎年の調査が必要な河川及び湖沼（108河川21湖沼）に限定され、本県内の調査対象河川は主要河川（本県は4河川）のみです。なお、貝類の数値は内水面漁業生産統計調査の数値を用いています。

(3) 内水面養殖業

内水面養殖業経営体が食用を目的に収獲した量をいいます。自家用を含みますが種苗販売量は含めません。なお、調査対象は主要4魚種（ます類、あゆ、こい、うなぎ）のみです。

4 産出額

調査で得られた魚種別生産量に、魚種別産地市場価格を乗じて算出したものです。生産者の手取価格ではなく、販売手数料、輸送費等の販売諸経費を控除せず、また歩戻しを含めない、いわゆる産地市場価格です。平成27年度数値から、国の統計用語が「生産額」から「産出額」に改められました、内容は従前と同じです。

なお、内水面の産出額は15年の統計から調査対象外となったため、県水産課が生産量と全国平均単価により推計しています。

5 水産加工品（加工水産品）

水産動植物を主原料（50%以上）として製造された食用加工品及び生鮮冷凍水産物をいいます。なお、平成13年調査から生鮮冷凍水産物のうち海産ほ乳類及び塩蔵品等、並びに寒天、油脂、飼肥料の調査が中止されました。

記号

「-」：事実のないもの 「0」：単位に満たないもの 「…」 事実不詳又は調査を欠くもの
「x」：統計法の規定により、秘密保護上統計数値を公表しないもの

[水産業動向編]

目 次

1 愛知の水産業

- 愛知県水産業の主要指標 1
- 県内産業のなかの水産業 2
 - ＜主要な問題の解説＞本県水産業の全国位置 3

2 漁業経営

- 漁業経営体の動向 4
 - ＜主要な問題の解説＞漁業就業者数、漁家経済 5
- 水産業協同組合の動向 6
 - ＜主要な問題の解説＞沿海漁協の経営規模、漁業金融 7

3 漁業生産の基盤

- 漁船・漁港の動向 8
 - ＜主要な問題の解説＞漁船海難の動向と対策、海難の発生状況、
漁場整備事業、漁村活性化総合対策事業 9
- 漁場環境の動向 10
 - ＜主要な問題の解説＞貧酸素水塊と苦潮、総量削減計画 11
- 資源保護増大の動向 12
 - ＜主要な問題の解説＞栽培漁業基本計画、資源管理型漁業の推進、
漁獲可能量制度 13

4 漁業生産

- 漁業総生産の動向 14
 - ＜主要な問題の解説＞漁業生産量の推移、漁業産出額の推移 15
- 海面漁業生産の動向 16
 - ＜主要な問題の解説＞魚種別漁獲量、魚種別産出額 17
- 海面養殖生産の動向 18
 - ＜主要な問題の解説＞29年度のり養殖の概要 19
- 内水面生産の動向 20
 - ＜主要な問題の解説＞内水面漁業の振興策、内水面養殖業の振興策、
主要養殖業の動向 21

5 流通加工

- 水産物流通の動向 22
 - ＜主要な問題の解説＞水産物の輸出入、水産物の消費 23

6 技術の開発・普及	
○試験研究の動き	24
<主要な問題の解説>ダム堆積砂を用いたアサリ漁場造成試験	25
7 時の話題	
○水産政策の改革について	26・27
○日間賀島の玄関口（渡船ターミナル）が完成しました	28・29
○三河湾における栄養塩類の低下と回復に向けた取り組み	30・31
○平成30年のトリガイの豊漁について	32・33
[資料編]	34～60

1 愛知の水産業

愛知県水産業の主要指標

区 分	単 位	愛 知 県			全 国		備 考
		24年 (2012)	29年 (2017)	29年/24年	29年 (2017)	29年/24年	
海面漁業経営体(A)	経営体	(H25)2,348	(H30)1,924	81.9	(H30)79,067	83.7	漁業センサス(*1)
海面個人経営体(B)	経営体	(H25)2,261	(H30)1,849	81.8	(H30)74,526	83.3	漁業センサス(*1)
(漁家率B/A)	%	96	95	—	94	—	
海面漁業就業者数	人	(H25)4,319	(H30)3,373	78.1	(H30)151,767	83.9	漁業センサス(*1)
内水面養殖経営体	経営体	(H25)290	(H30)214	73.8	(H30)2,704	86.4	漁業センサス(*1)
漁船総隻数	隻	5,584	4,682	83.8	237,503	88.1	漁船統計表
海水動力船	隻	5,315	4,481	84.3	224,575	88.4	漁船統計表
海水無動力船	隻	53	33	62.3	3,735	80.0	漁船統計表
淡水動力船	隻	101	85	84.2	6,311	85.0	漁船統計表
淡水無動力船	隻	115	83	72.2	2,882	80.2	漁船統計表
漁業総生産量	t	95,959	90,985	94.8	4,306,130	88.5	全国値には捕鯨を含まない
海面漁業	t	75,171	69,970	93.1	3,258,020	86.7	
海面養殖業	t	15,496	13,746	88.7	986,056	94.9	
(のり生産枚数)	千枚	398,591	345,317	86.6	7,845,680	89.0	
内水面漁業	t	178	123	69.1	25,215	76.5	愛知県は県水産課調べ
内水面養殖業	t	5,114	7,146	139.7	36,839	108.5	きんぎよは含まない
きんぎよ	千尾	13,504	5,987	44.3	—	—	県水産課調べ(*2)
漁業総産出額	百万円	37,119	39,598	106.7	1,575,488	111.1	全国値には捕鯨を含む(*3)
海面漁業	百万円	18,502	12,632	68.3	962,768	105.2	
海面養殖業	百万円	4,453	5,105	114.6	497,926	120.5	
内水面漁業	百万円	386	330	85.5	19,849	110.1	愛知県は県水産課調べ
内水面養殖業	百万円	13,778	21,531	156.3	94,945	133.6	愛知県はきんぎよ(県水産課調べ)を含む(*4)

資料：特に注釈があるもの以外は農林水産統計（稼働量調査、海面漁業生産統計調査、内水面漁業生産統計調査）

(*1)：19年から漁業センサス年のみの公表となり、25年と30年の数値で表記。

(*2)：前年12月1日から当該年11月30日までの集計値。

(*3)：小数第1位を四捨五入することにより、合計値と一致しないことがある。

(*4)：愛知県の内水面の産出額については、県水産課が全国平均単価を基に推計した。

県内産業のなかの水産業

●水産業の純生産は 158 億円

あいちの県民経済計算によると、28年度の県内全産業の純生産は25兆5,017億円で、前年度に比べ1.0%減少しました。

このうち水産業は約158億円で前年度に比べ3.0%増加し、全産業に占める割合は0.06%、第1次産業に占める割合は12.1%となっています（A図）。

●水産業就業者は全産業就業者の0.1%

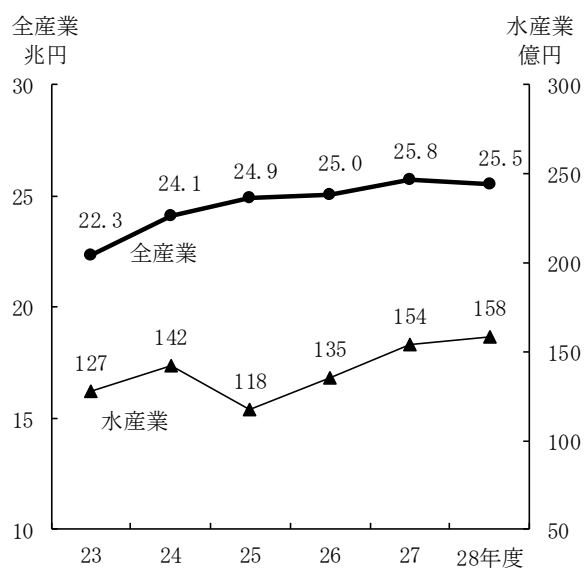
あいちの県民経済計算によると、28年度的全産業の就業者数（従業地ベース）は3,825千人で前年度並み、第1次産業は72.5千人で前年度に比べ2.1%の減少となっています。

このうち水産業の就業者数は3.84千人で、前年度に比べ2.4%減少しており、水産業就業者数の全産業に占める割合は0.10%、第1次産業に占める割合は5.3%となっています（B図）。

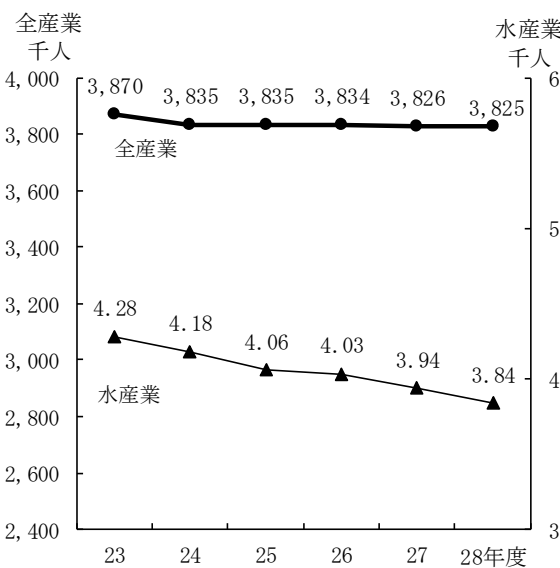
●水産業就業者1人当たりの純生産は約413万円

28年度的全産業の就業者1人当たりの純生産は667万円で前年度に比べ1.0%減少しました。一方、水産業では413万円で前年度に比べ5.6%増加しており、第1次産業全体の181万円の約2.3倍となっています（C図）。

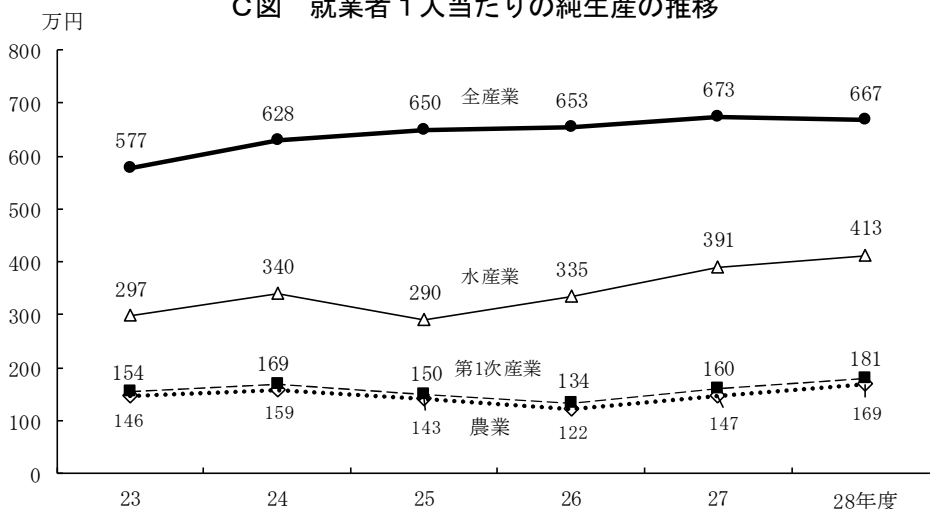
A図 純生産の推移



B図 就業者数の推移



C図 就業者1人当たりの純生産の推移



(資料 あいちの県民経済計算 (A~C図))

〈主要な問題の解説〉

〈本県水産業の全国位置〉

海面漁業・養殖業において本県の生産量は全国で第17位、産出額は第27位となっていますが(A表)、多くの漁業種類や魚種で上位を占めているのが特色です。

漁業種類別では、小型底びき網、船びき網、採貝・採藻等が盛んで、これらの生産量は全国的にもトップレベルにあります。

魚種別では、くろだい・へだい、あさり類、あゆ養殖が第1位、くるまえび、うなぎ養殖、きんぎょ養殖が第2位、しらす、にぎす類、すずき類、がざみ類が第3位となっています。全国シェアでは、うなぎ養殖が27.6%、あさり類が23.1%、あゆ養殖が22.9%、くるまえびが19.9%と高くなっています(B表)。

A表 愛知県水産業の全国順位(29年)

海面漁業・養殖業生産量*1			海面漁業・養殖業総産出額		
順位	県名	(t)	順位	県名	(億円)
全国		4,244,076	全国		14,606
1位	北海道	821,375	1位	北海道	2,752
2位	長崎	340,173	2位	長崎	1,057
3位	茨城	295,345	3位	愛媛	851
4位	宮城	249,746	4位	宮城	819
5位	静岡	204,950	5位	鹿児島	776
6位	青森	182,027	6位	青森	641
7位	三重	180,615	7位	静岡	604
8位	愛媛	142,461	8位	三重	507
9位	島根	133,374	9位	兵庫	499
10位	千葉	128,628	10位	高知	497
17位	愛知	83,716	27位	愛知	177

*1 茨城県は海面養殖業が秘匿値のため、海面漁業のみの数値。

(資料 海面漁業生産統計調査)

B表 主要な漁業種類・品目の全国順位(29年)

漁業種類・品目	1位	2位	3位	4位	5位	全国	本県シェア(%)
小型底びき網(t)	北海道 243,856	愛媛 8,284	兵庫 7,741	愛知 6,800	石川 3,981	317,378	2.1%
船びき網(t)	愛知 43,238	三重 25,275	広島 11,332	愛媛 11,029	兵庫 11,018	177,002	24.4%
採貝・採藻(t)	北海道 51,627	愛知 10,801	千葉 4,033	福岡 3,725	青森 3,189	97,001	11.1%
かたくちいわし(t)	長崎 30,318	愛媛 13,090	三重 12,324	愛知 11,246	広島 9,582	145,715	7.7%
まいわし(t)	茨城 153,618	三重 48,604	千葉 46,866	島根 40,867	愛知 30,209	500,015	6.0%
しらす(t)	兵庫 9,589	静岡 5,226	愛知 5,039	茨城 3,775	愛媛 3,687	50,855	9.9%
にぎす類(t)	石川 846	新潟 430	愛知 426	島根 308	高知 194	2,832	15.0%
あなご類(t)	島根 508	長崎 496	宮城 439	愛知 269	茨城 216	3,422	7.9%
くろだい・へだい(t)	愛知 356	大阪 348	兵庫 305	広島 210	香川 199	3,149	11.3%
すずき類(t)	千葉 1,469	兵庫 645	愛知 458	神奈川 308	宮城 262	6,626	6.9%
くるまえび(t)	愛媛 69	愛知 64	福岡 46	大分 37	熊本 23	322	19.9%
がざみ類(t)	宮城 714	福岡 247	愛知 219	愛媛 121	大分 108	2,232	9.8%
あさり類(t)	愛知 1,635	福岡 1,513	北海道 1,312	静岡 968	熊本 730	7,072	23.1%
のり養殖(千枚)	佐賀 1,784,825	兵庫 1,484,568	福岡 1,423,840	熊本 1,123,015	愛知(7位) 345,317	7,845,680	4.4%
うなぎ養殖(t)	鹿児島 8,562	愛知 5,780	宮崎 3,262	静岡 1,705	高知 603	20,979	27.6%
あゆ養殖(t)	愛知 1,156	和歌山 1,034	岐阜 967	滋賀 491	栃木 325	5,053	22.9%
きんぎょ養殖(千尾)	奈良 64,257	愛知 5,987	-	-	-	-	-

注) きんぎょ養殖は県水産課調べ。

愛知県きんぎょは、28年12月1日から29年11月30日までの集計値のため、単純比較はできない。

(資料 海面漁業生産統計調査、内水面漁業生産統計調査、県水産課調べ)

2 漁業経営

漁業経営体の動向

●海面漁業経営体は1,924経営体（2018年漁業センサス）

30年の海面漁業経営体数（養殖業を含む・年間の海上作業日数が30日未満のものを除く）は1,924経営体となっています。主な漁業種類別では最も多いのが採貝・採藻の536経営体で27.9%を占め、以下小型底びき網388経営体（20.2%）、刺網193経営体（10.0%）が上位を占めています（A図）。

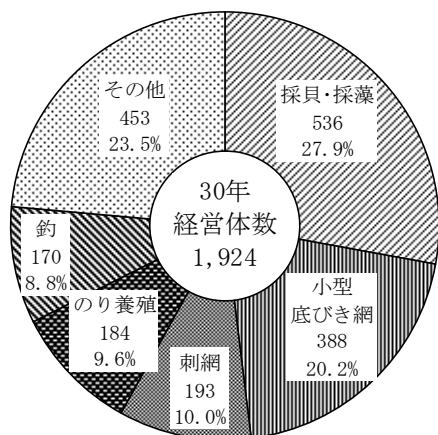
海面漁業経営体数は、5年前に比べ424経営体（18.1%）の減となっています（B図）。

（注：19年以降は漁業センサス年のみ公表となった。）

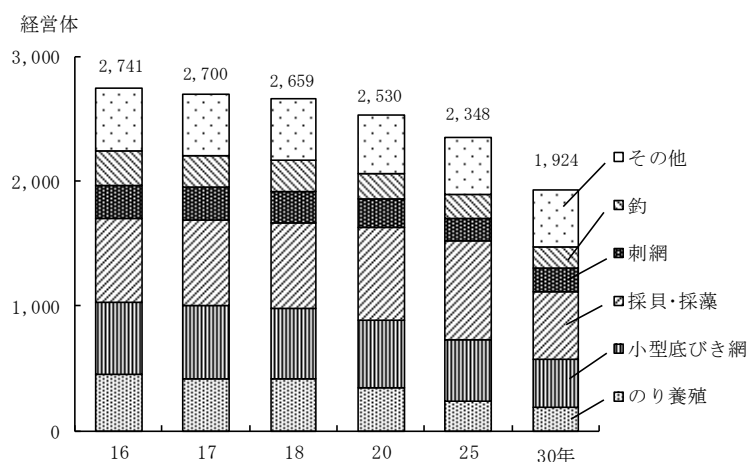
●内水面養殖業経営体数は261経営体（県水産課調べ）

29年のきんぎょを含めた内水面養殖業の経営体数は261経営体となり、5年前に比べ39経営体（13.0%）の減少となっています（C図、D図）。

A図 海面漁業・養殖業種類別経営体数の構成比

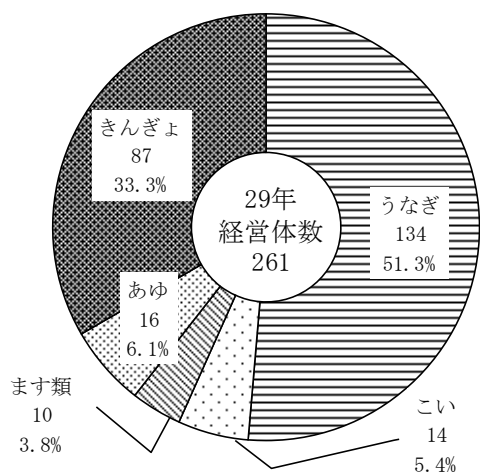


B図 海面漁業・養殖業種類別経営体数（30日未満を除く）の推移

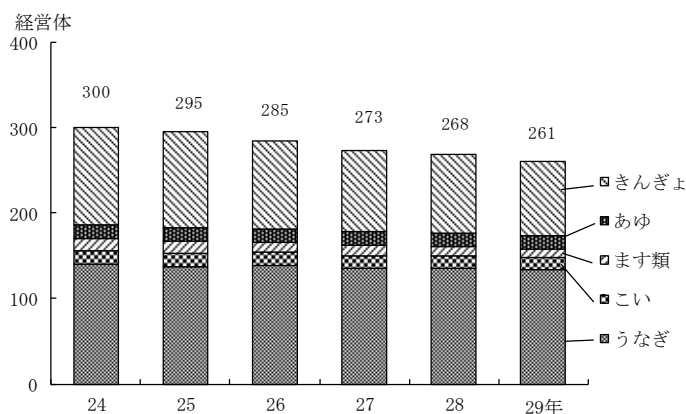


（資料 稼動量調査及び漁業センサス（A、B図））
19年以降は漁業センサス年のみ公表となった。

C図 内水面養殖業種類別経営体数の構成比



D図 内水面養殖業種類別経営体数の推移



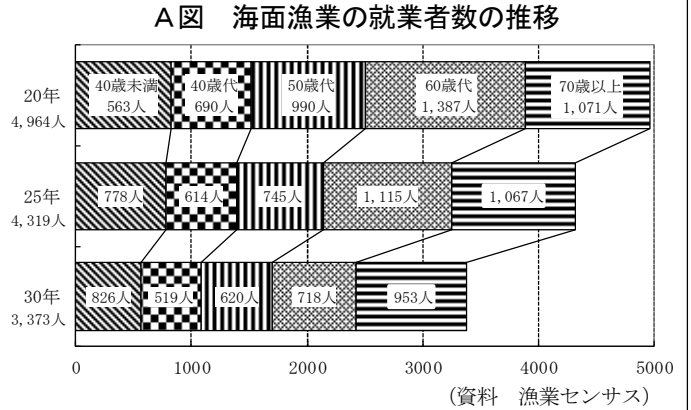
（資料 県水産課調べ（C、D図））

＜主要な問題の解説＞

＜漁業就業者数＞

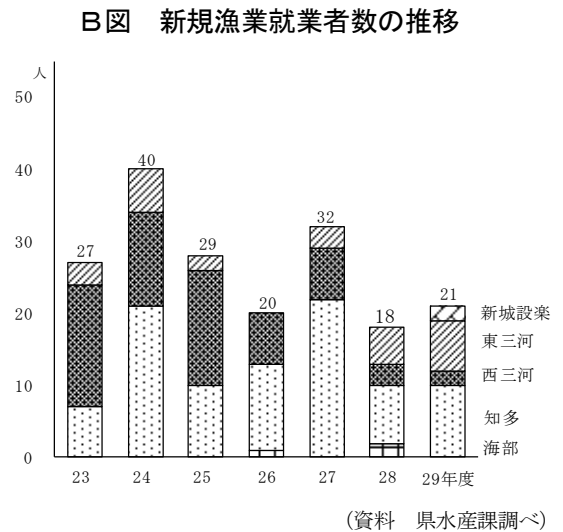
2018年（第14次）漁業センサスによると、30年の愛知県の海面漁業の就業者数は3,373人で、5年前の4,319人と比べると946人（21.9%）減少しています（A図）。

就業者の年齢別内訳は、50歳以上の層が約7割を占め、中でも70歳以上は953人で全体の28.3%を占めており、漁業就業者の高齢化が年々深刻となっています。



＜新規漁業就業者数＞

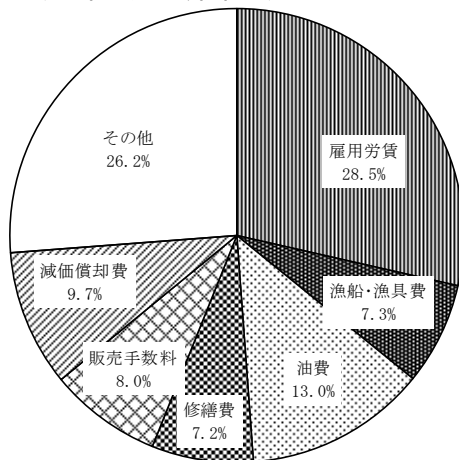
水産課では、各漁業協同組合の協力により新規漁業就業者の調査を毎年行っています。その結果によると、29年度は全県で21人の新規就業者があり、内訳は知多地区が10人、西三河地区が2人、東三河地区が7人、新城設楽地区が2人となっています（B図）。新規就業者は減少傾向にあり、昨今の求人倍率の高さから漁業後継者が他の職業に就くケースが多く、人手の確保が課題となっています。



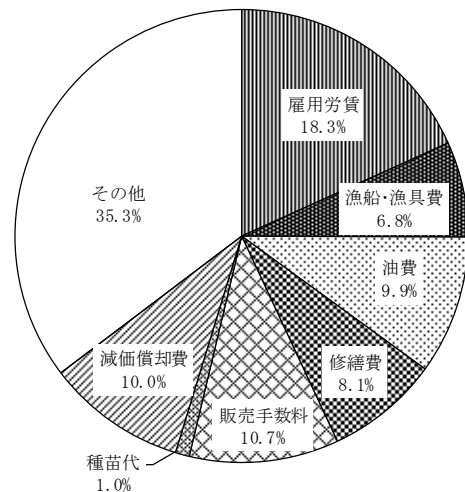
＜漁家経済＞

国の漁業経営調査によると、漁労支出に占める項目別の構成は、漁船漁業（太平洋中区）においては雇用労賃が最も多く28.5%、次いで油費13.0%、減価償却費9.7%等となっています。東海2県ののり養殖業では、雇用労賃が18.3%と最も多く、次いで販売手数料10.7%、減価償却費10.0%等となっています（C図、D図）。

C図 漁船漁業（個人経営体）の漁労支出構成比（29年：太平洋中区）



D図 のり養殖業（個人経営体）の漁労支出構成比（29年：東海2県；愛知・三重）



（資料 漁業経営調査（C、D図））

水産業協同組合の動向

●組合員数、販売事業取扱高ともに減少傾向

水産業協同組合法に基づいて設立された組合は、昭和 35 年の 134 組合をピークに、解散や合併によって減少し、平成 31 年 1 月 1 日現在の組合数は 54、連合会 3 となっています。単位組合の組合員数は平成元年度 (32,830 人) 以降、毎年減少しており、29 年度には 15,680 人となっています (A 表)。このうち沿海漁協の正組合員数は 2,887 人で、10 年前に比べ 36.1% 減少しています (A 図)。

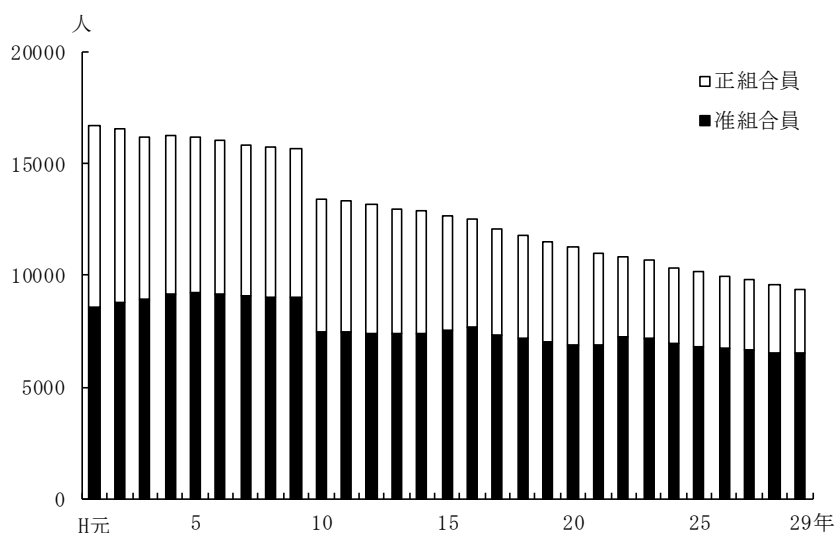
沿海漁協の主要事業である販売事業の取扱高は、高度経済成長とともに増加しましたが、平成 2 年の 378 億円をピークに減少傾向にあり、29 年は 138 億円となっています (B 図)。

A 表 本県の水産漁協同組合の概況

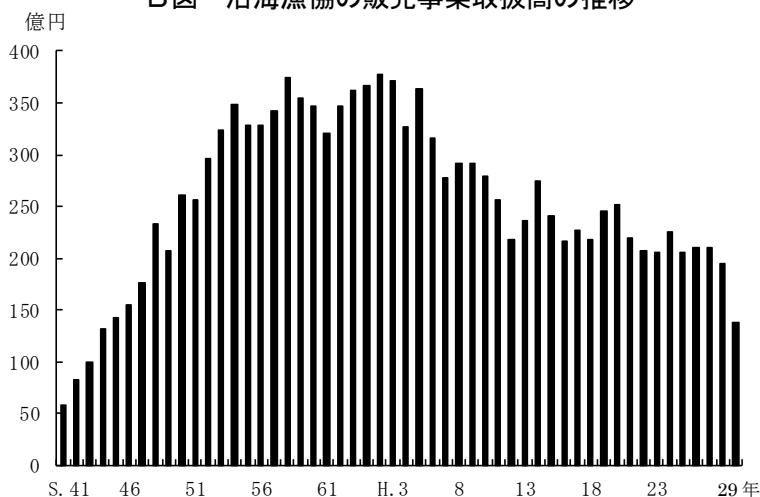
年度	区分	沿海漁業 協同組合	内水面漁業 協同組合	業種別漁業 協同組合	水産加工業 協同組合	漁業生産組 合	計	連 合 会	
29	組合数	22	19	8	-	5	54	3	
	組 合 員 数	正	2,887	4,839	531	-	51	8,308	92
		准	6,482	718	172	-	-	7,372	1
		計	9,369	5,557	703	-	51	15,680	93

(資料 県調べ)

A 図 沿海漁協の組合員数の推移



B 図 沿海漁協の販売事業取扱高の推移



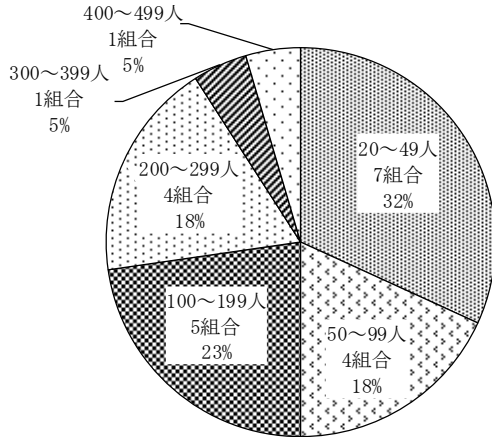
(資料 県調べ (A, B 図))

〈主要な問題の解説〉

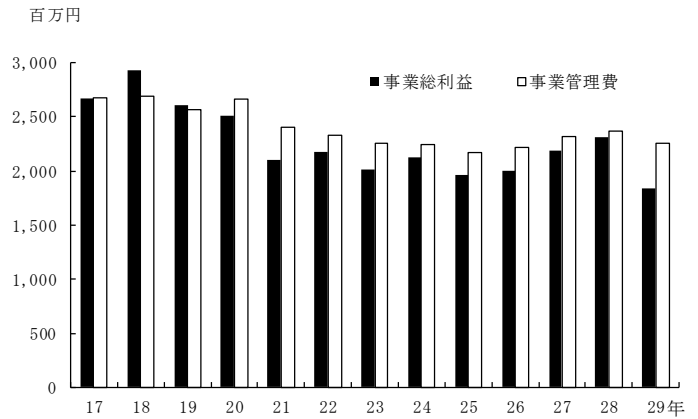
〈沿海漁協の経営規模〉

本県では正組合員数が 200 人未満の小規模な組合が全体の 73%を占めています（A図）。また、事業管理費の大幅な削減が困難な状況にあり、事業管理費が事業総利益を上回るなど漁協経営が厳しい状況が続いています（B図）。後継者不足や高齢化の進行、魚価の低迷、水産資源の減少など、漁協経営を取り巻く環境が厳しさを増していることから、早急に将来を見越した経営基盤の強化が必要となっています。

A図 正組合員数別の組合割合



B図 事業総利益と事業管理費の推移

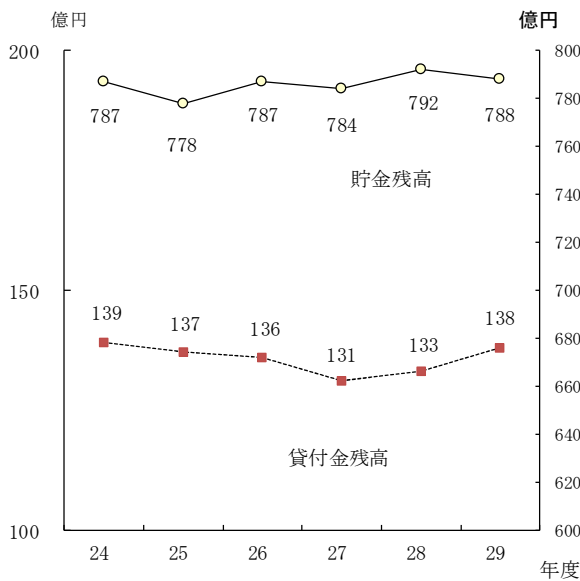


〈漁業金融〉

漁協等の系統団体は、漁業生産活動に必要な資金融資を行うことにより、漁業にとって重要な役割を果たしています。29 年度末における漁協貯金の残高は、対前年度比 0.6%減の 788 億円、貸付残高は同 3.5%増の 138 億円でした（C図）。

県では、漁業近代化資金、漁業振興資金、沿岸漁業改善資金の 3 種類の制度資金を設け、利子補給などにより漁業経営の支援を行っています（A表）。

C図 漁協の貯金及び貸付金残高の推移



A表 制度資金の概要

区分 資金	融資機関	利率		目的
		貸付利率	利子補給率	
漁業近代化資金	信漁連	年 0.20% 【20t 以上 漁船】 年 0.25%	年 0.70 ～1.30% 【20t 以上 漁船】 年 1.25%	経営の近代化等に 必要な漁船、 漁具、養殖施設 等の取得促進
漁業振興資金	信漁連	年 1.5～ 1.9%	—	短期の運転資金 等
沿岸漁業改善資金	県（窓口 は信漁連）	無利子		沿岸漁業従事者 等が漁業経営の 健全な発展、漁 業生産力の増大 等を図るため

(31 年 3 月 31 日現在)

(資料 県調べ (A～C図))

3 漁業生産の基盤

漁船・漁港の動向

●漁船隻数はやや減少

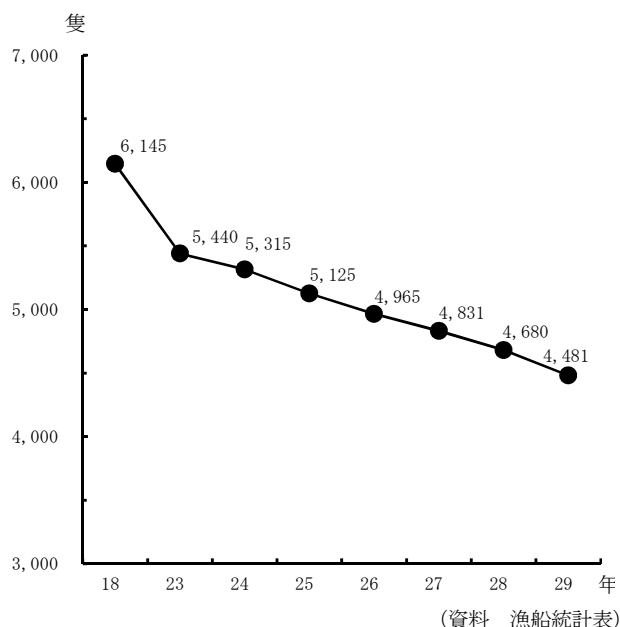
29年の海水動力漁船の隻数（漁船統計表、29年12月31日現在）は、前年に比べ199隻減少して 4,481隻となっています（A図）。

●漁港への陸揚量

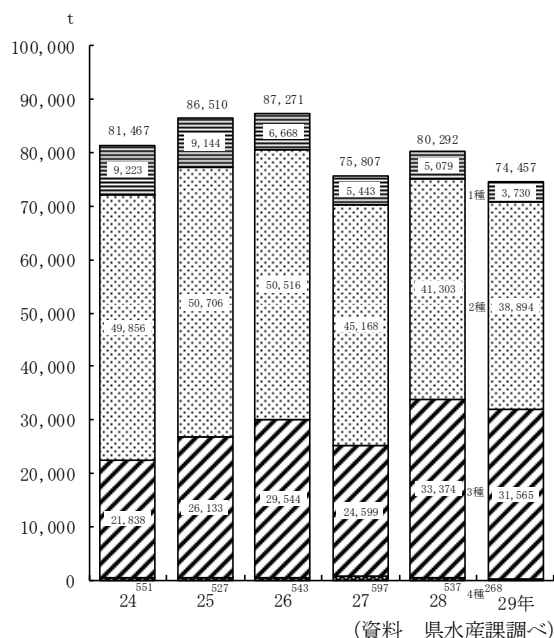
本県の指定漁港は、第1種漁港（利用範囲が地元の漁業を主とするもの）が17港、第2種（利用が第1種より広く第3種に属さないもの）が13港、第3種（利用が全国的なもの）が3港、第4種（避難港等）が1港であり、このうち11港が県管理、23港が市町管理漁港です。漁港における29年の陸揚量は、74,457tと前年から7.3%減少しました（B図）。

漁港は長期計画により整備を図っており、現在は平成29年度から始まった第4次漁港漁場長期計画（H29～R3年度）に基づき整備を実施しています（A表）。

A図 海水動力漁船隻数の推移



B図 漁港における陸揚量の推移



A表 第4次漁港漁場整備長期計画等に基づく整備計画（H29～R3年度）

事業名	港数	漁港地区名
水産流通基盤整備事業	1	師崎
水産生産基盤整備事業	2	知柄、赤羽根
水産物供給基盤機能保全事業 (保 全 工 事)	23	鬼崎、小鈴谷、上野間、豊浜、師崎、篠島、日間賀、大井、大浜、寺津、栄生、味沢、一色、衣崎、佐久島、宮崎、西幡豆、知柄、形原、三谷、福江、赤羽根、伊川津
漁港施設機能強化事業	8	鬼崎、豊浜、師崎、篠島、日間賀、栄生、佐久島、西幡豆
漁港機能増進事業等	8	豊浜、篠島、日間賀、一色、知柄、大浜、形原、三谷
計	延 42	

〈主要な問題の解説〉

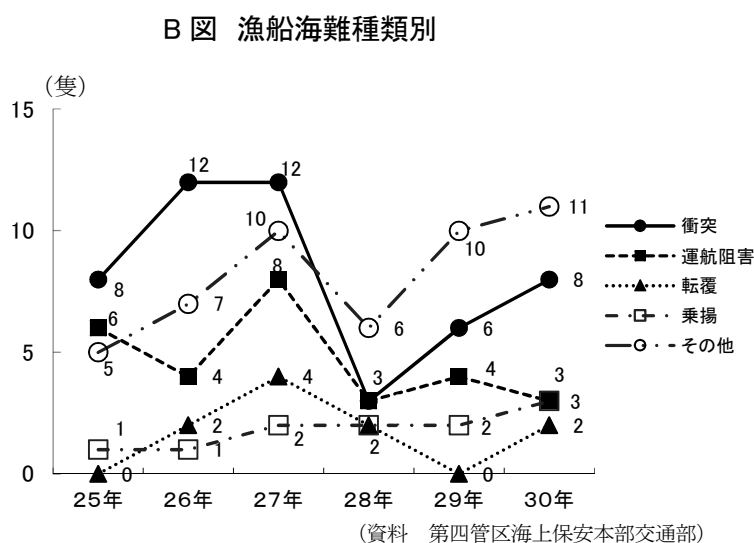
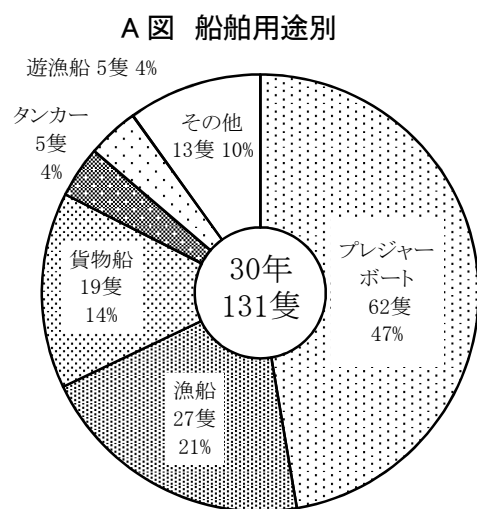
〈30年の漁船海難の動向と対策〉

愛知・三重県の両沿岸及び沖合海域で30年1月1日から12月31日までの1年間に131隻の船舶事故が発生しました（A図）。そのうち漁船の事故は27隻と全体の21%で、プレジャーボートに次ぐ多さとなっています。

また、漁船の海難種類別で見ると衝突が8隻で最も多く、次いでバッテリー過放電や燃料欠乏等からなる運航阻害や乗揚がそれぞれ3隻となっています（B図）。

県では、このような海難を防止するため、会議や講習会等の場で作業時の見張りの徹底やライフジャケットの着用等の海難防止策の普及啓発を行っています。また、漁業無線を使った安全操業や安全航行への呼びかけも実施しています。

〈海難の発生状況〉



〈漁場整備事業〉

14年度に施行された漁港漁場整備法に基づき、漁港事業と一体となった漁場整備事業が行われています。本県では、内湾から外海まで県域全体の水産資源増大と漁場環境改善を図るため「あさりとさかな漁場総合整備事業」を行っており、30年度はあさり漁場となる干潟・浅場を三河湾（西尾市及び田原市地先）で5.3ha造成するとともに、渥美外海のさかな漁場となる魚礁を1,710空³m製作しました。

〈漁村活性化総合対策事業〉

漁村活性化総合対策事業は、漁業・漁村を取り巻く厳しい環境や食の安心安全等に関わる課題に対応する施設の重点的な整備により、力強い漁業生産地づくりを推進し水産物の安定供給を図るための県単独補助事業です。4つの事業種目によりきめ細かい支援を行い、漁村の活性化を図っています。

A表 30年度実施件数

事業種目	実施件数	実施内容（施設）
防災対策推進事業	-	
地先漁場生産力向上事業	1	漁場の耕耘・整地
衛生管理強化事業	4	水産物荷さばき施設、水産物鮮度保持施設
就労環境改善事業	2	水産物加工処理施設、運搬施設
合計	7	

漁場環境の動向

●30年度の赤潮発生は30件

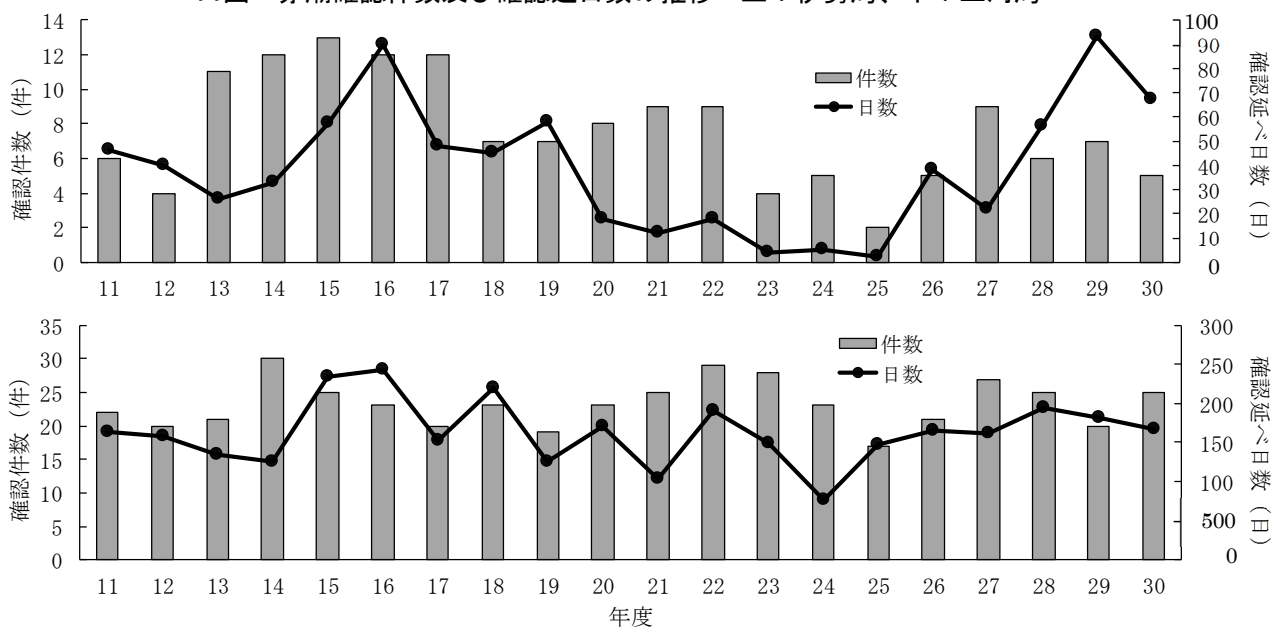
赤潮は、植物プランクトンが異常繁殖し、海水が赤色等に変色する現象で、のり養殖の色落ちや、底層の貧酸素化の要因となっています。

30年度の赤潮確認件数は伊勢湾で5件、三河湾で25件の合計30件でした。確認延日数は伊勢湾で67日、三河湾で167日の合計234日でした。赤潮確認件数、確認延日数は年度により変動しているものの、伊勢湾、三河湾ともに経年的に明確な減少傾向は認められません（A図）。

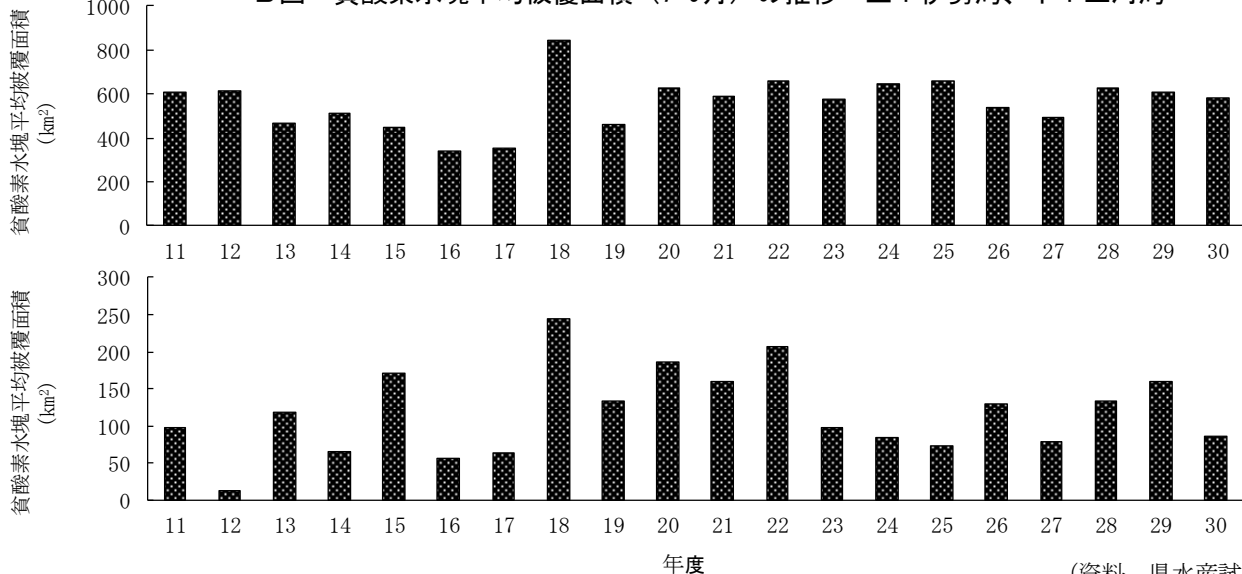
●30年度の貧酸素水塊平均被覆面積

表層で発生した赤潮に由来する植物プランクトンの死骸等が沈降し、腐敗・分解することにより、酸素が消費され、底層では酸素が減少した水塊（＝貧酸素水塊：溶存酸素飽和度が30%以下の水塊と定義）が形成されます。貧酸素水塊に覆われた海底の面積（＝貧酸素水塊被覆面積）の30年7～9月の平均は伊勢湾が580.5 km²、三河湾が86.7 km²でした（B図）。貧酸素水塊平均被覆面積は年度により変動しているものの、伊勢湾、三河湾の面積の半分近くを占めることも珍しくなく、経年的に明確な減少傾向は認められません。

A図 赤潮確認件数及び確認延日数の推移 上：伊勢湾、下：三河湾



B図 貧酸素水塊平均被覆面積（7-9月）の推移 上：伊勢湾、下：三河湾



(資料 県水産試験場調べ)

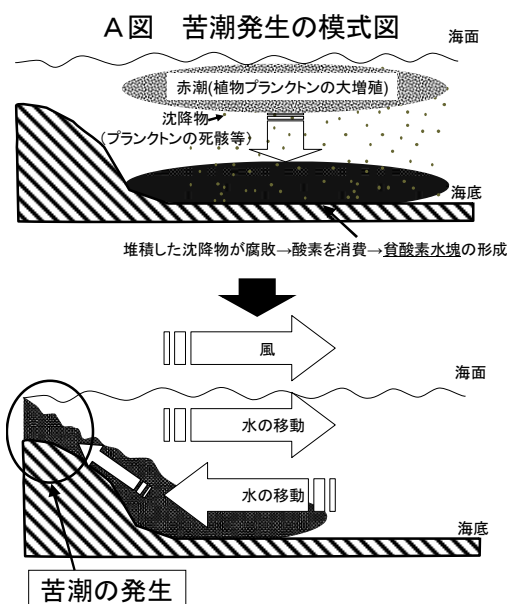
＜主要な問題の解説＞

＜貧酸素水塊と苦潮＞

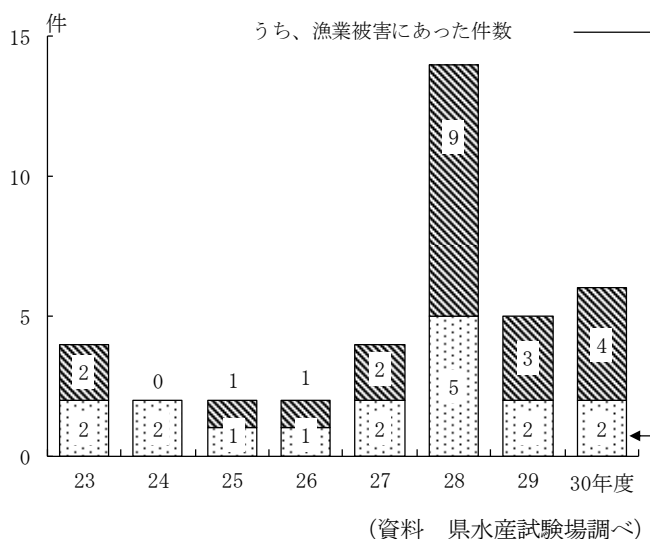
伊勢湾や三河湾では、毎年6月頃から10月頃にかけて、「貧酸素水塊」が海底を広く覆う現象が発生します。

貧酸素水塊は、生物が生息できる海域を狭め、時には風にあおられ岸近くに「苦潮」となって押し寄せて漁業被害を引き起こします（A図）。本県では、毎年苦潮が確認されています。30年度の苦潮確認件数は6件でしたが、多い年には10件を超える苦潮が確認されています。

また、アサリ稚貝が大量に発生する豊川河口の六条潟では、しばしば苦潮による稚貝の大量死が発生しています。最近では、23年8月下旬、28年9月下旬に発生した苦潮によりアサリ稚貝がそれぞれ約2,000トン、約1,700トンが死んだと推計されました。



B図 苦潮確認件数の推移



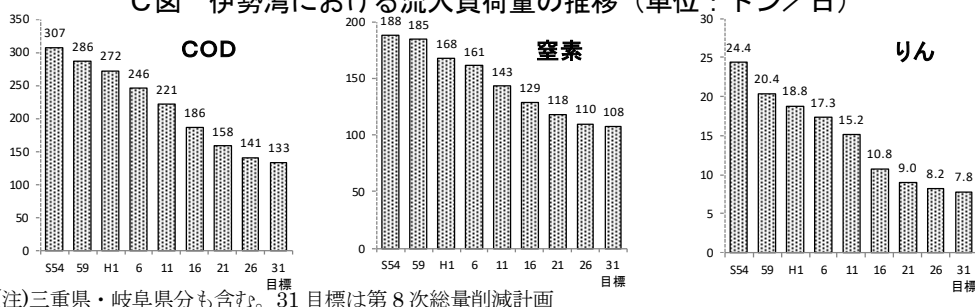
＜総量削減計画＞

伊勢湾（三河湾を含む）は、水質汚濁防止法に基づき、陸域からの流入負荷（COD、窒素、りん）の総量削減を図る地域に指定されており、29年6月には、31年度を目標とする愛知県の第8次の総量削減計画が策定されています。

この計画に基づき、県内の事業所には厳しい排水規制がかけられており、昭和55年の第1次計画策定以来、流入負荷量は年々低下しており、26年実績値は昭和54年実績値に比べ、CODは46%、窒素は59%、りんは59%となっています（C図）。

また、県の総量削減計画では、懸濁物質及びプランクトンの海域中からの効率的な取出しに寄与するアサリ漁獲の安定化や、「きれいな海」、「豊かな海」、「親しめる海」という視点から里海再生を推進することが、汚濁負荷量の総量の削減及び水環境の改善に関し必要な事項として位置付けられています。

C図 伊勢湾における流入負荷量の推移（単位：トン/日）



資源保護増大の動向

●栽培漁業の推進

水産資源の維持増大を図るため、県では昭和53年10月に開設した愛知県栽培漁業センターにおいて放流用の種苗を生産・供給し、漁業者による栽培漁業の取組を推進しています（A表）。

本県の栽培漁業は昭和54年度のくるまえば、あわび、あゆに始まり、60年度からくろだいとがざみ、平成5年度からはなまこ、更に17年度からはとらふぐとよしえびの種苗生産を開始し、30年度からは資源造成が図られたくろだい（放流用）の生産を休止してとらふぐ、がざみを増産して重点化を行い、栽培漁業の一層の推進を図っています。

A表 栽培漁業センター産種苗の供給実績

魚種	供給先	年度				
		26	27	28	29	30
くるまえば（千尾） （全長1.5～2.0cm）	常滑市	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
	西尾市（旧一色町）	2,800	2,800	2,800	2,800	4,500
	西尾市（旧幡豆町）	2,800	2,800	2,800	2,800	—
	西尾市（三河湾）	2,200	2,200	2,200	2,200	3,300
	田原市（旧渥美町）	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200
	試験用	100	—	—	—	—
計		20,100	20,000	20,000	20,000	20,000
がざみ（千尾） （甲幅0.5～0.8cm）	常滑市	170	170	170	170	170
	南知多町	330	330	330	330	330
	西尾市（旧一色町）	100	100	100	100	—
	西尾市（旧幡豆町）	400	400	400	400	500
	田原市（旧渥美町）	400	400	400	400	500
	蒲郡市	100	100	100	100	100
計		1,500	1,500	1,500	1,500	1,600
よしえび（千尾） （全長1.1～1.7cm）	常滑市	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
	南知多町	1,500	1,500	2,000	2,000	2,000
	西尾市（旧一色町）	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
	試験用（ノブリス幼生等）	—	—	6	—	—
計		4,000	4,000	4,506	4,500	4,500
とらふぐ（千尾） （全長3.5～4.5cm）	南知多町	130	130	130	130	130
	西尾市（旧一色町）	—	—	—	—	40
計		130	130	130	130	170
くろだい（千尾） （全長2.5～3.5cm）	西尾市（旧一色町）	25	25	25	25	—
	西尾市（旧吉良町）	10	10	10	10	—
	西尾市（旧幡豆町）	20	20	20	20	—
	田原市（旧渥美町）	50	50	50	50	—
	養殖用	10	10	10	10	10
計		115	115	115	115	10
あわび（千個） （殻長1.0～2.0cm）	師崎漁協	60	60	60	60	60
	篠島 "	60	65	65	60	65
	日間賀島 "	60	60	60	60	60
	豊浜 "	60	60	60	60	60
	渥美、片名、愛知外海漁協他	32.5	35.5	35.5	35.5	35.5
計		272.5	280.5	280.5	275.5	280.5
なまこ（千尾） （全長0.5～1.0cm）	南知多町	380	380	380	380	380
	西尾市（旧一色町）	35	35	35	35	35
	西尾市（旧吉良町）	25	25	25	25	25
	西尾市（旧幡豆町）	50	50	50	50	50
	蒲郡市	10	10	10	10	10
	田原市（旧渥美町）	200	200	200	138	200
試験用	2	—	—	—	—	
計		702	700	700	638	700
あゆ（千尾） （全長3.0～3.9cm） （全長4.0～5.0cm）	愛知県鮎養殖漁協等	400	500	500	500	500
		1,502	1,500	1,500	1,500	1,500
計		1,902	2,000	2,000	2,000	2,000

〈主要な問題の解説〉

〈栽培漁業基本計画〉

県では沿岸漁場整備開発法に基づき栽培漁業基本計画を策定し、栽培漁業の一層の推進を図っています。現在は令和3年度を目標年次とする第7次栽培漁業基本計画が策定されています。

(第7次栽培漁業基本計画のポイント)

- 資源造成型栽培漁業を一層推進する。
- 都道府県の区域を越えて回遊する広域種については、太平洋南海域栽培漁業推進協議会において策定された「効率的かつ効果的な種苗生産及び種苗放流に関する計画(広域プラン)」を踏まえ、種苗生産や放流等を実施するよう努める。

〈資源管理型漁業の推進〉

水産資源を増やす取組だけではなく、獲りすぎないように漁獲をコントロールする資源管理型漁業の推進も重要です。漁業者は、休漁期間や定期休漁日の設定や網目の制限など様々な自主的な取組を定めた「資源管理計画」を作成し、資源管理に取り組んでいます(A表)。

A表 資源管理計画の一覧表

No.	資源管理計画名	計画参加者数	No.	資源管理計画名	計画参加者数
1	大濱漁協中型まき網漁業	3	18	片名漁協あなご籠漁業	4
2	愛知県ぱっち網漁業者組合イカナゴ	21	19	三谷漁協小型機船底びき網(渥美外海板びき網)漁業	1
3	愛知県ぱっち網漁業者組合イワシ類	21	20	西三河漁協一色支所小型機船底びき網(渥美外海板びき網及び改良備前網)漁業	27
4	愛知県しらす・いかなご船びき網連合会イカナゴ	85	21	西三河漁協吉良支所及び幡豆漁協さし網漁業	3
5	愛知県しらす・いかなご船びき網連合会イワシ類	86	22	蒲郡漁協西浦支所小型機船底びき網(渥美外海板びき網及び改良備前網)漁業	9
6	蒲郡漁協西浦支所小型機船底びき網(えびけた網)漁業	5	23	幡豆漁協小型機船底びき網(改良備前網)漁業	4
7	蒲郡漁協形原支所小型機船底びき網(えびけた網)漁業	2	24	師崎漁協あなご籠漁業	3
8	蒲郡漁協形原支所小型機船底びき網(渥美外海板びき網及び改良備前網)漁業	5	25	東幡豆漁協小型機船底びき網(改良備前網)漁業	1
9	豊浜漁協小型機船底びき網(渥美外海板びき網)漁業	5	26	西三河漁協吉良支所採貝(長柄まんが)漁業	6
10	伊勢湾海域における小型機船底びき網(まめ板網)漁業	163	27	西三河地区採貝(腰まんが)漁業	156
11	愛知外海漁協しらす機船びき網漁業	7	28	西三河地区小型機船底びき網(貝けた網(水流噴射式けた網))漁業	89
12	東幡豆漁協小型機船底びき網(貝けた網及びえびけた網)漁業	7	29	鬼崎漁協小型機船底びき網(貝けた網(水流噴射式けた網))漁業	40
13	幡豆漁協小型機船底びき網(渥美外海板びき網)漁業	4	30	常滑漁協小型機船底びき網(貝けた網(水流噴射式けた網))漁業	26
14	幡豆漁協小型機船底びき網(貝けた網及びえびけた網)漁業	7	31	小鈴谷漁協小型機船底びき網(貝けた網(水流噴射式けた網))漁業	29
15	日間賀島漁協小型機船底びき網(渥美外海板びき網)漁業	11	32	西三河漁協一色支所小型機船底びき網(貝けた網及びえびけた網)漁業	5
16	三谷漁協小型機船底びき網(貝けた網及びえびけた網)漁業	2	33	片名漁協かに籠漁業	5
17	西三河漁協吉良支所小型機船底びき網(渥美外海板びき網、貝けた網及びえびけた網)漁業	6	34	篠島漁協小型機船底びき網(手繰第二種餌料びき網)漁業	17
			計		865

(平成31年3月31日現在)

〈漁獲可能量制度〉

漁獲可能量とは、法に基づき特定の魚種ごとに国が定める、年間に漁獲できる総量であり、通称TAC (Total Allowable Catch) と呼ばれています。漁獲可能量の管理対象には平成31年4月1日現在で8魚種が指定され、このうち本県ではマイワシなど4魚種が管理対象となっています。

B表 本県に定められた漁獲可能量

魚種名	クロマグロ		マアジ	マイワシ	マサバ及びゴマサバ
	30kg 未満	30kg 以上			
管理期間	H31.4~R2.3	H31.4~R2.3	H31.1~R1.12	H31.1~R1.12	H30.7~R1.6
本県への配分量	0.1t	1.0t	若干量	43,000t	若干量

4 漁業生産

漁業総生産の動向

●漁業・養殖業の総生産量は6.5%減少

29年の海面及び内水面の漁業・養殖業の総生産量は90,985 tで、前年（97,313t）に比べ6.5%減少しました（A図）。

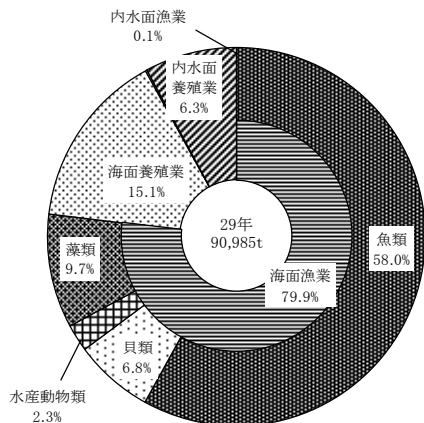
このうち、海面漁業は69,970 tで前年に比べ10.0%減少しており、海面養殖業は13,746 tで3.1%の増加となりました。また、内水面漁業は123 tで前年に比べ15.2%減少し、内水面養殖業は7,146 tで16.6%増加しています（C図）。

●漁業・養殖業の総産出額は3.2%増加

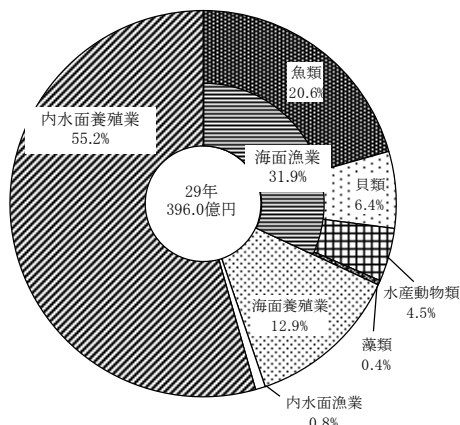
29年の漁業・養殖業の総産出額は396.0億円で、前年（383.8億円）に比べ3.2%増加しました（B図）。

この内訳をみると、海面漁業は126.3億円で前年に比べ12.3%の減少、海面養殖業は51.1億円で13.7%の増加、内水面漁業は3.3億円で0.6%の増加、内水面養殖業は215.3億円で12.4%の増加となっています（D図）。（内水面漁業・養殖業の産出額（推計）は魚種別の生産量に全国平均単価を乗じて求めています）

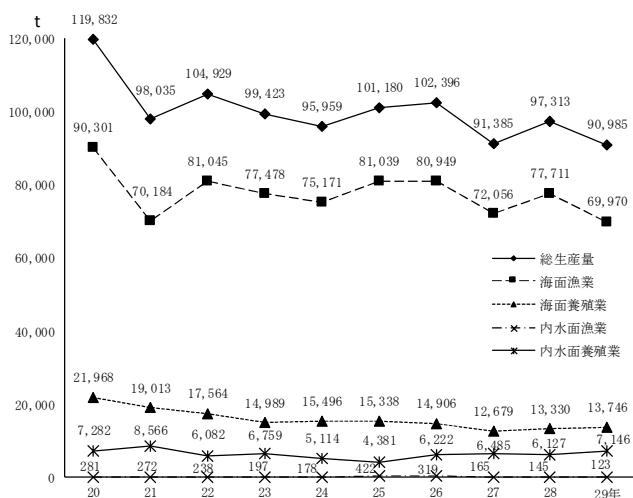
A図 漁業・養殖業の総生産量の内訳



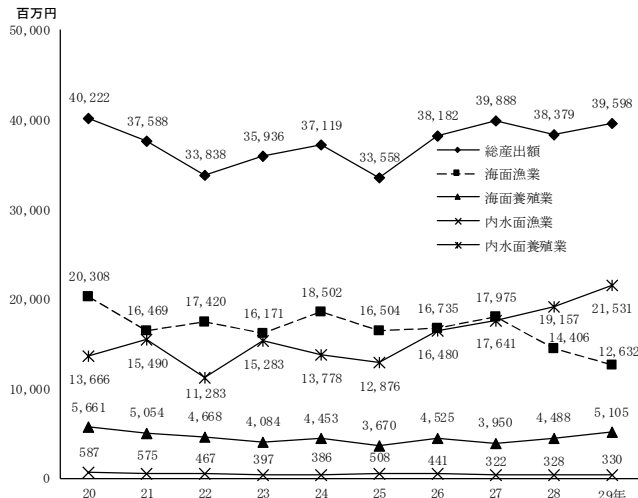
B図 漁業・養殖業の総産出額の内訳



C図 漁業・養殖業の総生産量の推移



D図 漁業・養殖業の総産出額の推移



内水面漁業および内水面養殖業の産出額は、県水産課が生産量に全国単価を乗じて求めた推計値。

内水面養殖業は産出額（D図）のみきんぎょを含む。きんぎょは県水産課調べ

（資料 海面漁業生産統計調査、内水面漁業生産統計調査、県水産課調べ（A～D図））

〈主要な問題の解説〉

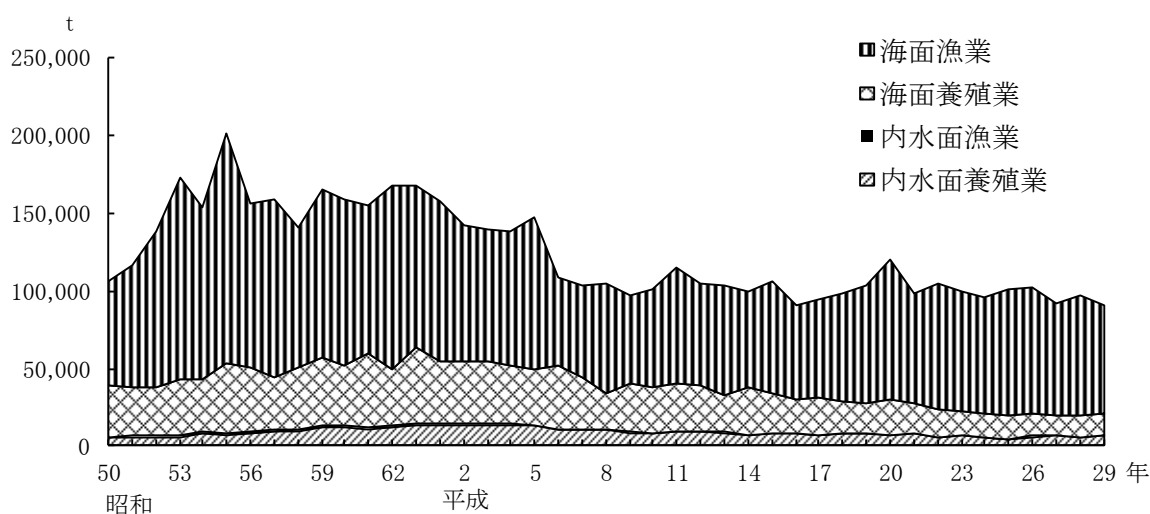
〈漁業生産量の推移〉

漁業・養殖業の総生産量は、まいわしの漁獲量が多かった昭和50年代から平成初期にかけては15万t前後でしたが、まいわしが急激に減少した平成6年以降は、10万t前後で横ばいに推移しています。内訳を見ると、海面漁業が全体の半分以上を占め、近年は横ばい傾向にあります。海面養殖業はのり養殖の経営体減少により一貫して減少傾向にあります。内水面養殖業も平成初期は減少傾向にありましたが、近年は横ばいで推移しています。（A図）。

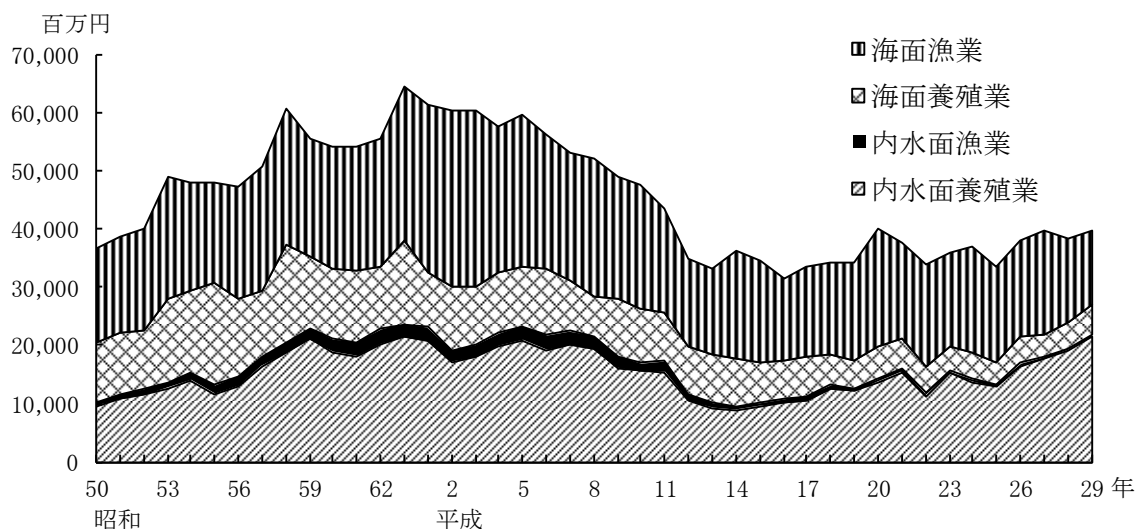
〈漁業産出額の推移〉

漁業総産出額は、昭和63年の645億円をピークに、平成初期は急激に減少しましたが、平成12年以降は横ばいないし増加傾向となり、近年は350～400億円で推移しています。内訳を見ると、海面漁業、海面養殖業、内水面養殖業ともに、昭和63年後から平成12年頃までの減少が大きく、平成不況に伴う魚価の低迷が大きな要因と考えられます。平成12年以降は海面漁業と内水面養殖業は増加傾向に転じていますが、海面養殖業は減少傾向が続いています。（B図）。

A図 海面・内水面漁業・養殖業生産量の推移



B図 海面・内水面漁業・養殖業産出額の推移



（資料 海面漁業生産統計調査、内水面漁業生産統計調査、県水産課調べ（A、B図））

海面漁業生産の動向

●海面漁業漁獲量は10.0%減少

29年の海面漁業の漁獲量は69,970 tで、前年（77,711 t）に比べ10.0%減少しました（A図）。

漁業種類別では、船びき網が43,238 tで最も多く、県全体の61.8%を占め、次いで、採貝・採藻が10,801 tで同15.4%となっています（B図）。

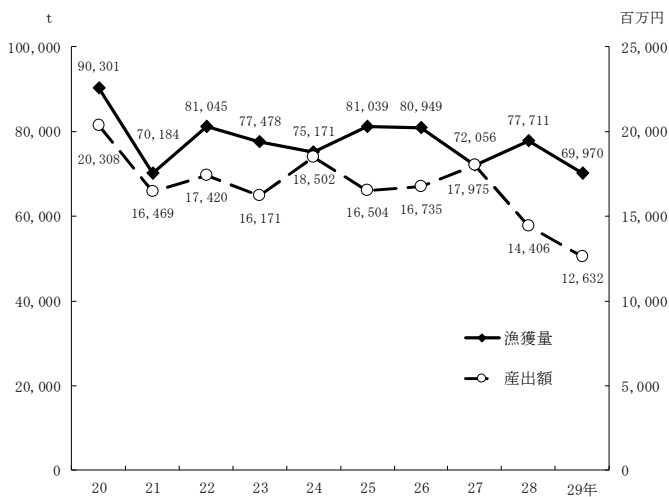
魚種別では、まいわしが30,209 tで同43.2%、かたくちいわしが11,246 tで同16.1%、しらすが5,039 tで同7.2%、あさり類が1,635 tで同2.3%を占めました。これら上位4魚種で全体の約3分の2となっています（C図）。

●海面漁業産出額は12.3%減少

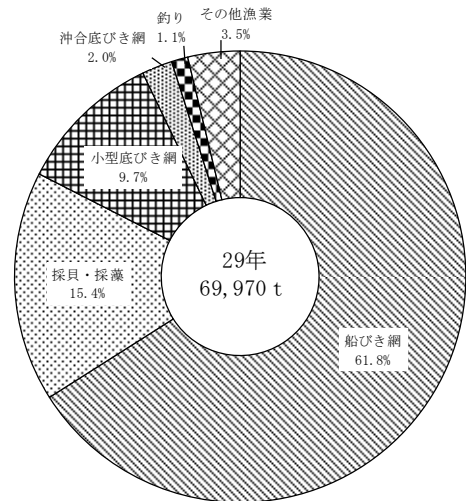
29年の海面漁業の産出額は126.3億円で、前年（144.1億円）に比べ12.3%減少しました（A図）。

魚種別に見ると、しらすが27.9億円で県全体の22.1%を占め、まいわしが13.0億円で同10.3%、次いで、あさり類が8.3億円で同6.6%となっています（D図）。

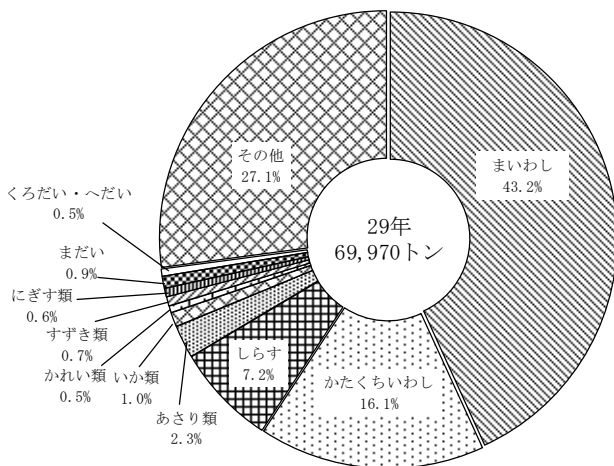
A図 海面漁業漁獲量及び産出額の推移



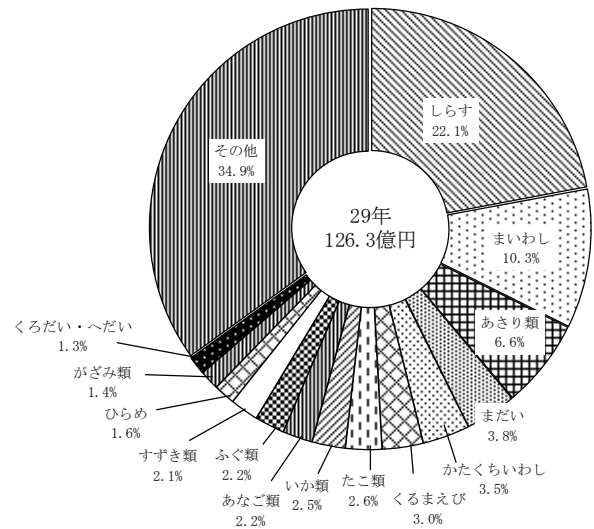
B図 海面漁業種類別漁獲量の構成



C図 海面漁業魚種別漁獲量の構成



D図 海面漁業魚種別産出額の構成



(資料 海面漁業生産統計調査 (A~D図))

〈主要な問題の解説〉

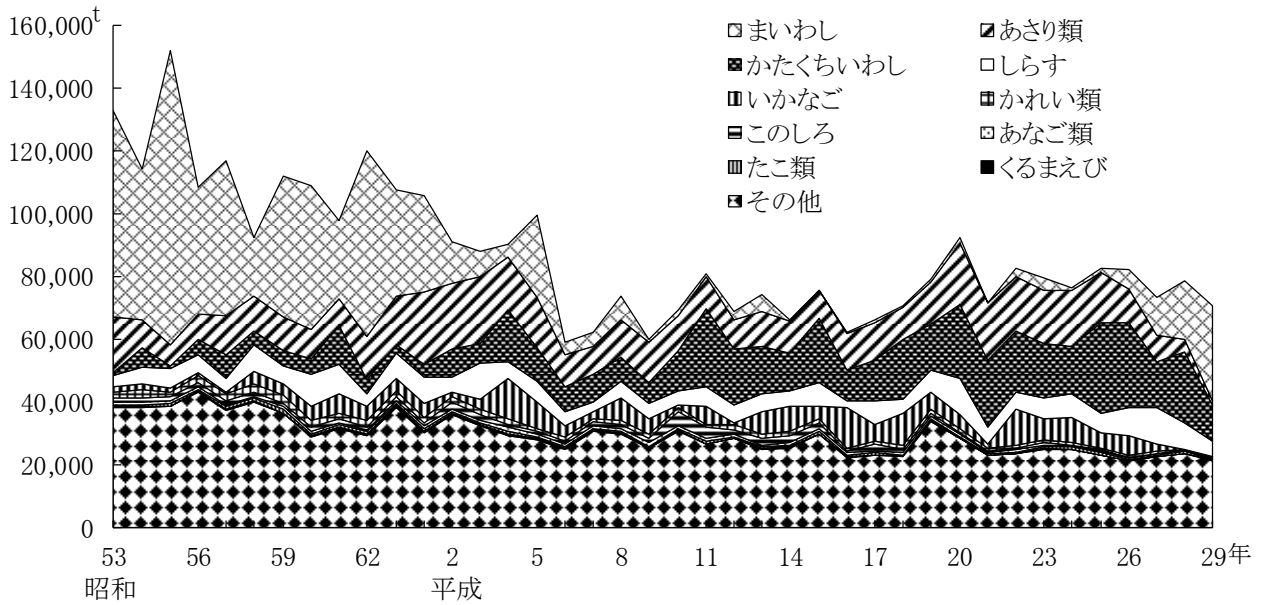
〈魚種別漁獲量〉

昭和50年代から60年代にかけてまいわしの漁獲量が非常に多く、最盛期には総漁獲量の半分以上を占めていました。平成6年以降まいわしは激減しましたが、代わってかたくちいわしが増えています。まいわしを除く漁獲量は、近年6万t前後で概ね安定しています。平成24年以降、あさりの漁獲量が減少しましたが、まいわしの漁獲量は再び増加に転じ、29年にはまいわしの漁獲量がかたくちいわしの漁獲量を抜いています（A図）。

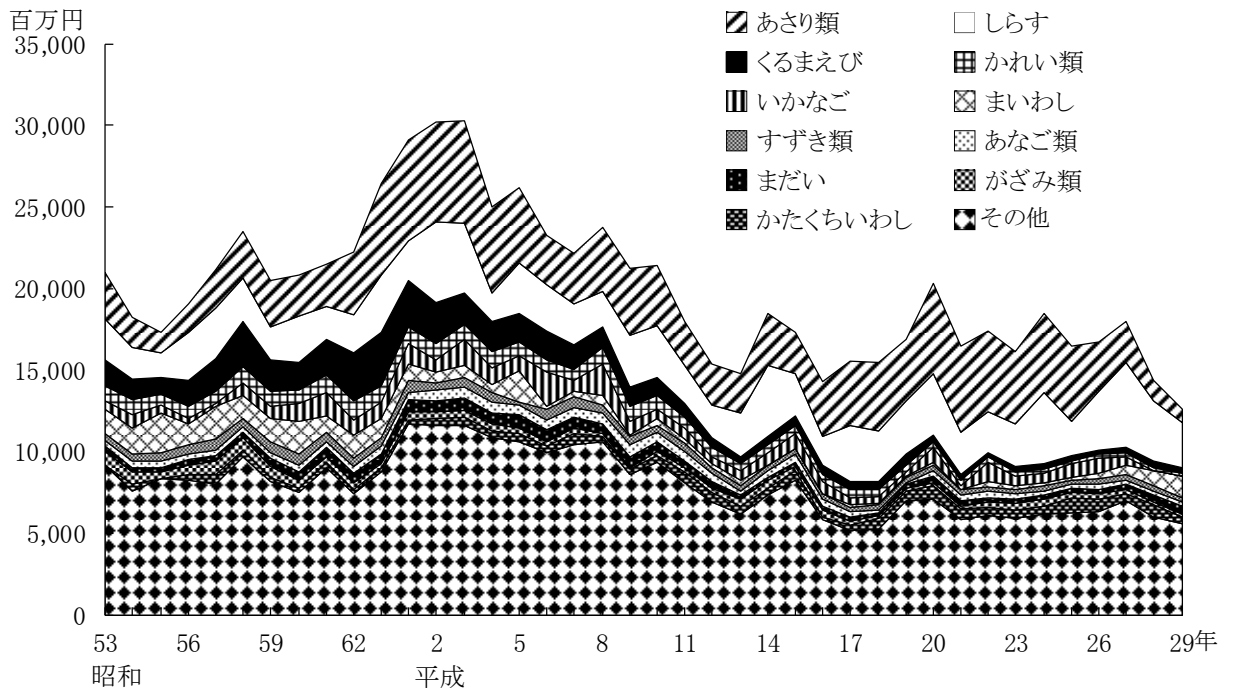
〈魚種別産出額〉

海面漁業の産出額は平成3年をピークに急激に減少し、その後12年以降は概ね安定しています。ピーク時に多くを占めたあさり類は大幅に減少しましたが、しらすは年による増減はあるものの概ね安定しています（B図）。

A図 海面漁業魚種別漁獲量の推移



B図 海面漁業魚種別産出額の推移



（資料 海面漁業生産統計調査（A、B図））

海面養殖生産の動向

●板のり生産枚数は1.5%増加（暦年）

29年の海面養殖業の収穫量は13,746 tで、前年に比べ3.1%増加しました。本県海面養殖業における収穫量のほとんどはのり養殖業で、29年（1～12月）における板のりの生産枚数は3億4,532万枚となり、前年に比べ1.5%増加しました（A表）。また、29年の板のり平均価格は1,395円と前年より15.5%高く、のり養殖産出額は48.2億円で17.3%増加しました（A表）。

地域別では、知多地区が3億9万枚で前年に比べ3.3%の増加、西三河地区が3,471万枚で9.7%の減少、東三河地区では968万枚で5.8%の減少となっています（B図）。

●養殖年では17.2%減少

板のり生産枚数を養殖年で比較すると、29年度（29年11月～30年5月）は2億9,173万枚となり、前年度に比べ17.2%の減少となりました。地区別では、知多地区が19.7%の減少、西三河地区が12.8%の減少、東三河地区が21.0%の増加となっています（C図）。

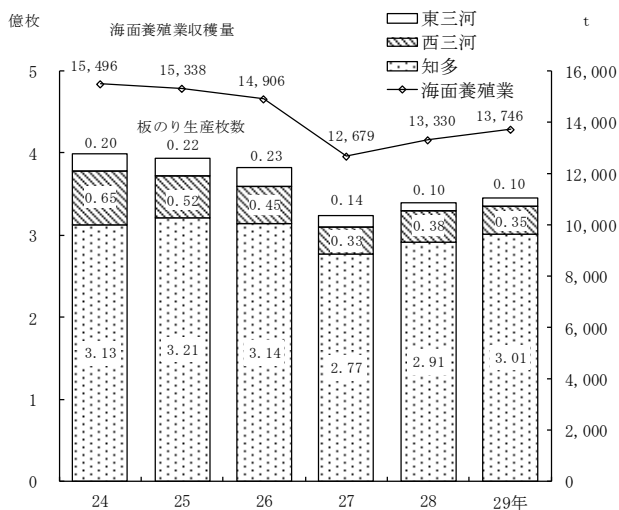
A表 板のり生産状況（暦年）

区分		年					
		24	25	26	27	28	29
生産枚数 (千枚)	くろのり	380,456	374,405	359,883	310,013	327,668	334,044
	まぜのり	4,016	3,175	3,228	2,307	3,455	x
	あおのり	14,119	16,539	19,192	11,116	8,975	x
	板のり計	398,591	394,118	382,303	323,436	340,099	345,317
産出額 (万円)	合計	404,200	327,700	417,300	354,400	410,700	481,700
板のり平均価格 (円/100枚)		1,014	832	1,092	1,096	1,208	1,395

(注)板のり平均単価は、ばらのり・生のりを含む。

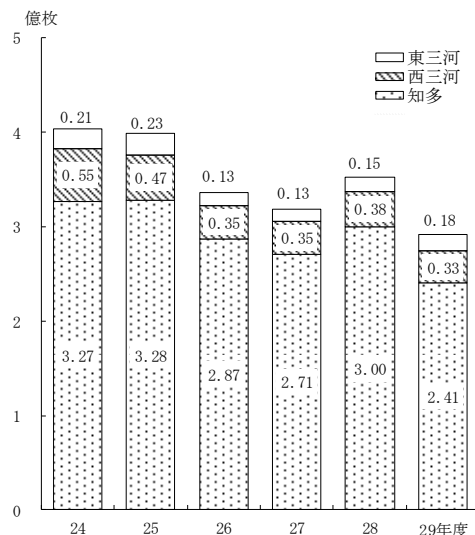
(資料 海面漁業生産統計調査)

B図 海面養殖業収穫量及び板のり生産枚数の推移（暦年）



(資料 海面漁業生産統計調査)

C図 板のり生産枚数の推移（養殖年度）



(資料 県水産課調べ)

〈主要な問題の解説〉

〈29年度（29年11月～30年5月）のり養殖の概要〉

1 養殖の経過

(1) 採苗状況

採苗は9月15日から始まり、各地区とも順調に終了しました。

(2) 育苗

育苗は知多地区で10月17日、西三河地区で10月24日、東三河地区で10月8日から始めました。養殖網の張り込み時期に台風が接近しましたが、張り込みを遅らせたり、避難入庫をすること等により対応しました。

(3) 秋芽網生産

漁期を通し、栄養塩が知多地区の島しょ部でやや少なかったものの、製品は概ね良質でした。あかぐされ病が知多西浜地区で散見されましたが、網の切り替え等により被害は限定的でした。一方、魚類やカモの食害被害が各地で見られ、囲網の設置や養殖網を沈める等の対策がとられました。

(4) 冷蔵網生産

年明け後、栄養塩が知多西浜地区の北部と西三河地区の一部を除いて減少し、色の悪い製品が見られるようになりました。その後も栄養塩は大きく回復することなく、早い地区では1月下旬から網揚げが始まりました。

多くの地区で魚類やカモの食害被害が見られましたが、被害は限定的で2月上旬には終息しました。

(5) 青のり生産

近年、東三河地区の青のりは、市場の評価が高くなっています。このため、当該地区の生産者は青のり養殖に力を入れており、青のりの最盛期を迎える2月以降の生産体制は黒のりから青のりに替わります。

A表 各地区の養殖経過（黒のり）

地区	陸上採苗開始	野外採苗開始	張り込み開始	摘採開始
知多地区	9月15日	—	10月17日	11月22日
西三河地区	9月24日	—	10月24日	11月27日
東三河地区	9月30日	10月10日	10月8日	12月10日

2 養殖生産の結果

黒のりの生産枚数は277,174千枚（前年比81%）、生産金額は3,193,738千円（前年比71%）となりました。経営体あたりでは生産枚数1,690千枚（前年比95%）、生産金額19,474千円（前年比101%）で前年並みでした。また、青のりの生産枚数は14,556千枚（前年比102%）、生産金額は169,437千円（前年比88%）となりました。市場価格は、28年は過去に見られないほど高騰しましたが、29年は落ち着きを取り戻しました。

B表 のり生産の推移

（単位：千枚・千円）

年度	経営体数 (黒のり)	生産枚数			生産金額			経営体当たり(黒のり)	
		黒のり	青のり	合計	黒のり	青のり	合計	生産枚数	生産金額
24	233	391,017	16,951	407,968	3,431,603	179,011	3,610,614	1,678	14,728
25	215	376,386	18,929	395,315	3,450,791	181,436	3,632,227	1,751	16,050
26	188	321,112	11,642	332,754	3,488,692	106,531	3,595,223	1,708	18,557
27	179	307,404	11,324	318,728	3,692,907	162,414	3,855,321	1,717	20,630
28	169	340,331	12,169	352,500	4,512,387	333,300	4,845,687	2,014	26,701
29	164	277,174	14,556	291,730	3,193,738	169,437	3,363,174	1,690	19,474
対前年比	97%	81%	120%	83%	71%	51%	69%	84%	73%
対前年比	83%	80%	102%	81%	86%	88%	86%	95%	101%

（資料 県水産課調べ）

内水面生産の動向

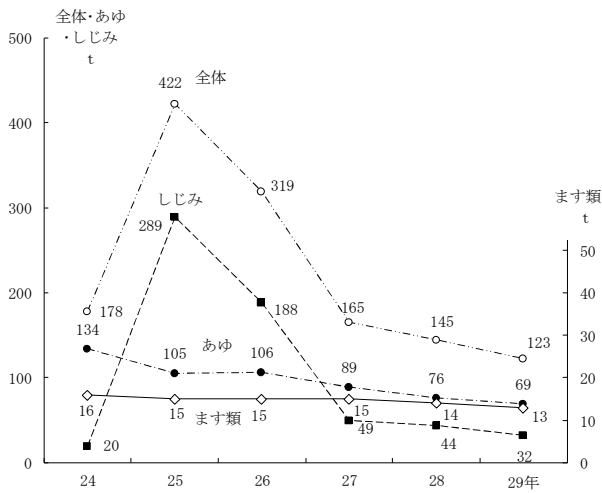
●内水面漁業漁獲量は123 t

29年の内水面漁業の漁獲量は123 tであり、前年に比べ15.2%の減少となりました。あゆの漁獲量は69 tで、前年から9.3%の減少となっています（A図）。また、内水面の遊漁の主体であるあゆの遊漁者数については、レジャーの多様化などによる遊漁の参加人口（全国）の減少と同様に、減少傾向となっています（B図）。

●内水面養殖業収穫量は7,146 t

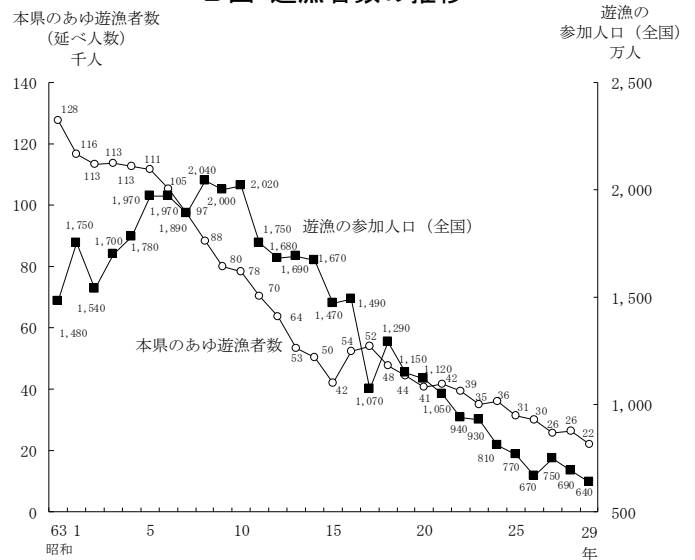
29年の内水面養殖業収穫量（観賞魚除く）は7,146 tであり、前年に比べ16.6%の増加となりました（C図）。あゆ養殖の収穫量は1,156 tであり（C図）、前年に比べ2.2%減少となりましたが、前年に続き全国1位となりました。29年の内水面養殖業の産出額は216億円であり、前年に比べ10.6%の増加となり、そのうちうなぎ養殖による産出額は192億円となっています（D図）。うなぎ養殖の収穫量は県内水面養殖業の約8割を占めており、29年は5,780 tで前年に比べ21.9%の大幅な増加となりました（D図）。

A図 内水面漁業魚種別漁獲量の推移



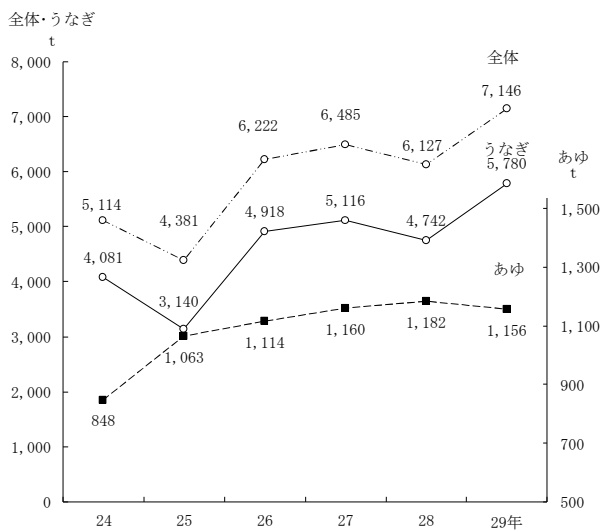
※しじみ漁獲量の集計方法は25年から変更

B図 遊漁者数の推移



※遊漁の参加人口は「釣り」を1年に1回以上行った人口
あゆ遊漁者数は昭和63年から調査を開始

C図 内水面養殖業魚種別収穫量の推移



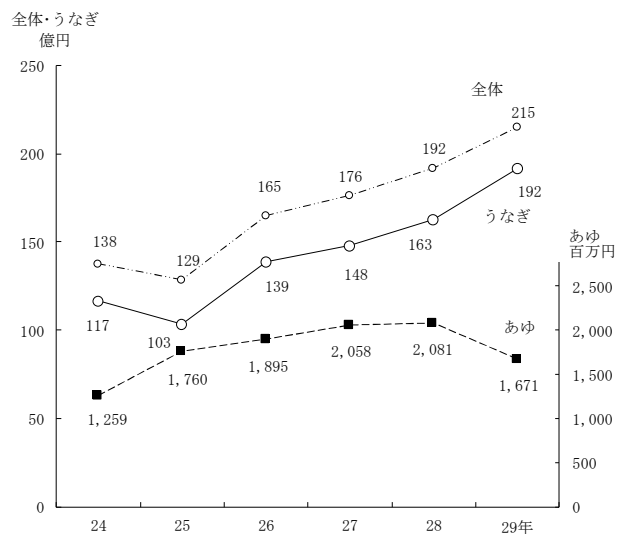
(資料 県水産課調べ (A図))

(資料 レジャー白書 (B図: 遊漁の参加人口 (全国)), 県水産課調べ (B図: 本県のあゆ遊漁者数))

(資料 内水面漁業生産統計調査 (C図))

(資料 県水産課調べ (D図))

D図 内水面養殖業魚種別産出額の推移



＜主要な問題の解説＞

＜内水面漁業の振興策＞

内水面漁業は、遊漁を通じた県民への憩いの場の提供や、健全な河川環境の確保など、山間地振興の一翼を担う公共的な役割を果たしています。

26年6月には「内水面漁業の振興に関する法律」が国会で成立しました。本県では、内水面漁業の主要魚種であるあゆについて、漁獲量増大のための種苗放流方法の検討を行うとともに、種苗の特性評価を行っています。また、子供達にあゆ等に関する出前授業や放流体験を実施するとともに、漁場保全活動等を通じて、河川の持つ多面的機能を発揮するための取組を支援していきます。

＜内水面養殖業の振興策＞

本県の内水面養殖業は、うなぎ及びあゆ養殖を中心に盛んに行われています。内水面養殖業の振興を図るため、養殖業者に対して魚病診断や水質検査等の養殖技術指導、薬剤耐性菌対策や食の安全性確保のための水産用医薬品の適正使用指導等を行っています。また、養殖魚の歩留向上、きんぎよの新品種開発やうなぎの人工種苗量産化等の試験研究もを行っています。

＜主要養殖業の動向＞

○うなぎ養殖業の動向

本県のうなぎ養殖は、西尾市一色町を中心とする西三河地区で盛んに行われており、29年は鹿児島に次いで、全国第2位の収穫量となっています。

24年と25年は、しらすうなぎ採捕量低迷により、種苗単価が上昇し、池入れ量が減少したため、収穫量も大きく減少しました。その後、種苗単価は低下しましたが、成鰻の品薄感等から、成鰻単価は高値で推移しています（A図）。

○あゆ養殖業の動向

本県のあゆ養殖は、豊川市を中心とする東三河地区で盛んに行われており、25年から全国第1位の収穫量となっております。これは、養殖業者の徹底した防疫対策が効果をあげたものと考えられます。

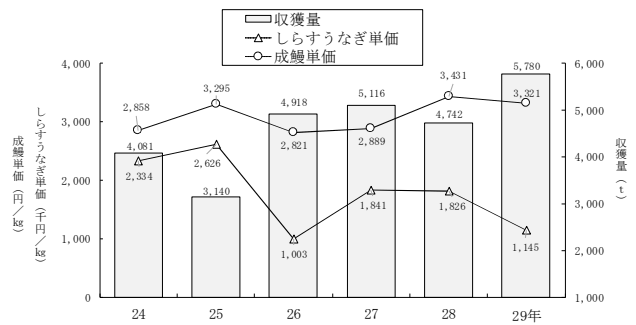
29年の収穫量は1,156tで前年の97.8%に減少し、産出額は16.7億円で前年の80.3%に減少しています（B図）。

○きんぎよ養殖業の動向

本県のきんぎよ養殖は、弥富市を中心とする海部地区で行われており、奈良県に次いで全国第2位の生産（販売）量となっています。また、他の生産県に比べ、養殖対象となる品種が20種類以上と多く、特に高級魚が多いことが特徴となっています。

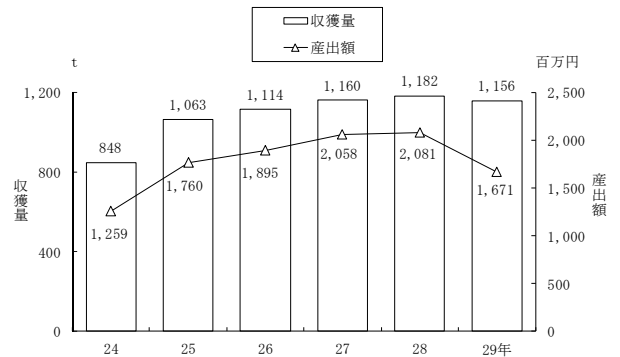
29年の生産量は5,987千尾で前年の70.5%に減少し、産出額も約3.3億円で前年に比べ22.6%減少しました（C図）。

A図 成鰻収穫量、しらすうなぎ単価及び成鰻単価の推移

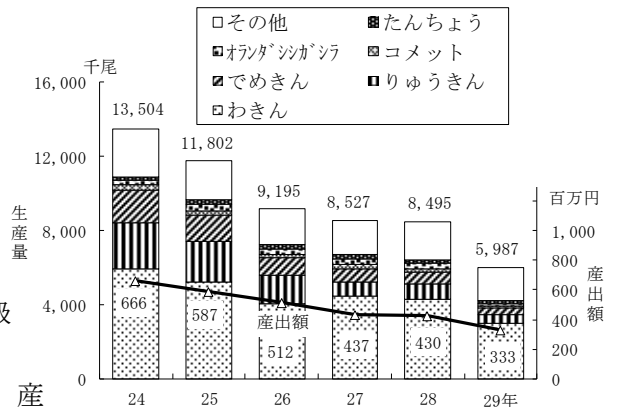


注) しらすうなぎ単価は、前年12月から当年4月までの平均単価
成鰻平均単価は、全国平均単価
(資料 内水面漁業生産統計調査、県水産課調べ)

B図 あゆ収穫量及び産出額の推移



C図 きんぎよ種類別生産量及び産出額の推移



(資料 内水面漁業生産統計調査、県水産課調べ)

5 流通加工

水産物流通の動向

●中央卸売市場・地方卸売市場の流通量約193千 t

本県の水産物を取扱う市場は、30年4月現在で中央卸売市場2、産地地方卸売市場13、消費地地方卸売市場6の計21市場があり、全市場において29年に取引された水産物は193千 t、1,457億円でした。前年（208千 t、1,533億円）と比べ数量で14,846 tの減少、金額では76億円の減少となっています。産地市場の取扱量は57千 tで、このうち県外へ移出された水産物は10千 t（17.5%）でした。消費地市場の取扱量は11千 tで、このうち県外から移入された水産物は4千 t（38.4%）でした（A図）。

●産地市場の平均単価は12.4%低下

29年の産地市場（愛知県内の産地地方卸売市場13市場平均）における生鮮魚の1kg当たりの平均単価は183円となり、前年に比べ26円（12.4%）低下しました。種類別では、魚類が84円で前年に比べ8円（8.7%）低下しています。貝類は525円で190円（56.7%）上昇していますが、これはアサリが減少し比較的単価の高い貝類の割合が増えたためと思われます（B図）。

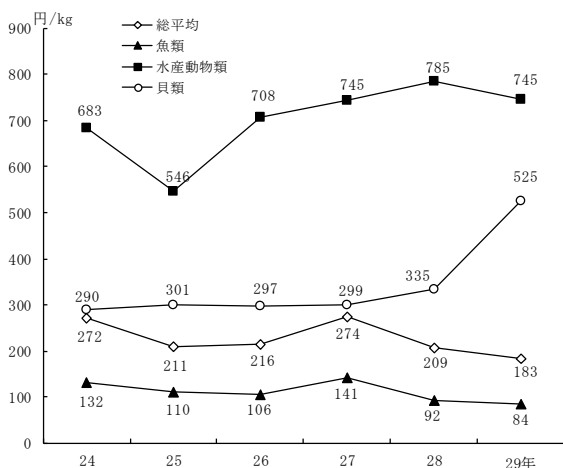
●消費地価格の総平均は5.4%上昇

消費地市場（名古屋市中央卸売市場）における水産物の1kg当たりの総平均価格（取扱金額／取扱数量）は984円で前年に比べ50円（5.4%）上昇しました。また、種類別では、生鮮水産物は965円で前年より36円（3.9%）、冷凍水産物は1,332円で121円（10.0%）、加工食料品は559円で9円（1.6%）、加工水産物は978円で59円（6.4%）上昇しました（C図）。

A図 29年の市場流通状況

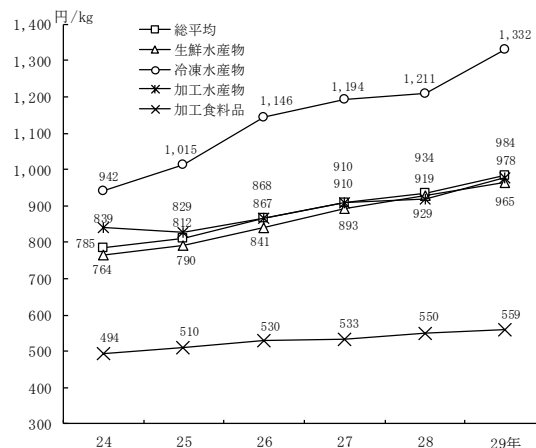
		0		20		40		60		80		100%	
産地市場 13市場 56,897t	出荷先	県内 46,918t (82.5%)						県外 9,979t (17.5%)					
	品目	生鮮魚介類 56,867t (99.9%)						水産加工品 29t (0.1%)					
消費地市場 6市場 11,223t	入荷先	県内 6,918t (61.6%)						県外 4,305t (38.4%)					
	品目	生鮮魚介類 3,009t (26.8%)		水産冷凍品 5,137t (45.8%)		水産加工品 3,076t (27.4%)							

B図 産地市場における水産物価格の推移



(資料 愛知県地方卸売市場年報)

C図 消費地市場（名古屋市中央卸売市場）における水産物価格の推移



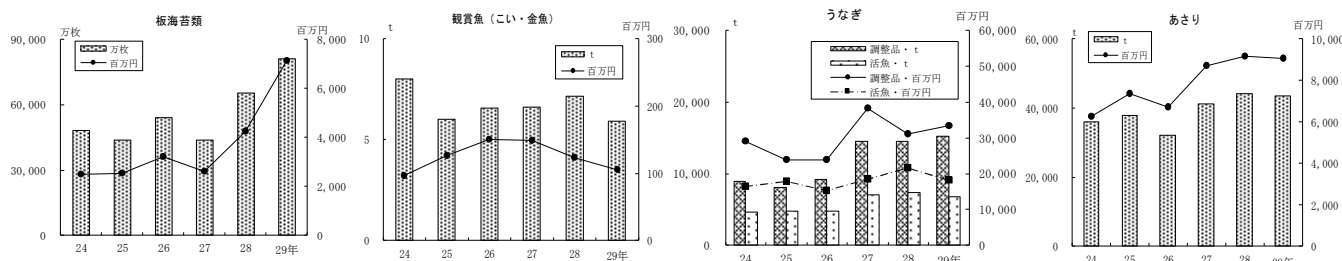
(資料 名古屋市中央卸売市場年報)

＜主要な問題の解説＞

＜水産物の輸出入＞

県水産業の主要品目について、近年の輸用量（全国）の推移を見ると（A図）、板海苔類、あさり、増加傾向にあります。観賞魚（こい、金魚）は、26年以降増加傾向にありましたが、29年は減少に転じました。うなぎは、27年以降増加しています。

A図 品目別の輸用量・輸入金額の推移



(資料 貿易統計)

＜水産物の消費＞

我が国における年間1人当たりの魚介類消費量は、減少傾向が続いており、10年前に比べて数量で32.2%、金額で12.3%減少しています。肉類が数量で24.2%、金額で21.3%増加しているのと対照的であり、消費者の魚離れが顕著になっています（A表）。

水産物は、カルシウムを始めとするミネラルのほか、不飽和脂肪酸であるDHA（ドコサヘキサエン酸）やEPA（エイコサペンタエン酸）等、人の健康に有益な機能成分を有し、魚介類をバランス良く消費することにより、健康増進が期待されることから、引き続き魚食普及に向けた取り組みが重要となっています。

A表 年間1人当たりの魚介類品目別家計消費の推移（全国）（単位：g）

	年	年				増減率 (%)	
		平成20 (2008)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	30/20	30/29
数量	生鮮魚介計	11,608	9,106	8,312	7,874	▲ 32.2	▲ 5.3
	鮮魚小計	10,515	8,299	7,556	7,167	▲ 31.8	▲ 5.1
	まぐろ	796	756	712	647	▲ 18.7	▲ 9.1
	あじ	540	408	376	313	▲ 42.1	▲ 16.8
	いわし	221	256	244	215	▲ 2.4	▲ 11.6
	かつお	350	326	269	273	▲ 21.8	1.5
	かれい	408	297	276	239	▲ 41.4	▲ 13.4
	さけ	990	918	835	841	▲ 15.0	0.8
	さば	422	323	304	324	▲ 23.2	6.6
	さんま	754	408	308	381	▲ 49.5	23.6
	たい	233	195	178	142	▲ 39.1	▲ 20.0
	ぶり	652	614	629	543	▲ 16.8	▲ 13.7
	いか	995	527	411	387	▲ 61.1	▲ 5.9
	たこ	221	231	234	181	▲ 18.2	▲ 22.7
	えび	641	466	449	452	▲ 29.4	0.7
	かに	237	163	147	120	▲ 49.3	▲ 18.5
	貝類小計	1,087	802	749	699	▲ 35.7	▲ 6.6
	あさり	355	294	285	237	▲ 33.3	▲ 17.0
	しじみ	100	94	91	96	▲ 4.0	5.9
	かき	198	158	168	157	▲ 20.8	▲ 7.0
ほたて	313	147	111	132	▲ 57.9	▲ 19.1	
塩干魚介計	3,168	2,608	2,549	2,331	▲ 26.4	▲ 8.5	
塩さけ	575	510	476	429	▲ 25.5	▲ 9.9	
(参考) 生鮮肉	13,256	15,787	16,038	16,459	24.2	2.6	
牛肉	2,165	2,148	2,208	2,254	4.1	2.1	
豚肉	5,850	6,829	6,976	7,221	23.4	3.5	

B表 年間1人当たりの魚介類品目別家計消費の推移（全国）（単位：円）

	年	年				増減率 (%)	
		平成20 (2008)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	30/20	30/29
金額	魚介類支出計	28,305	26,668	25,939	24,834	▲ 12.3	▲ 4.3
	生鮮魚介計	16,636	15,324	14,647	13,926	▲ 16.3	▲ 4.9
	鮮魚小計	15,131	14,097	13,467	12,805	▲ 15.4	▲ 4.9
	まぐろ	1,889	1,915	1,845	1,746	▲ 7.6	▲ 5.4
	あじ	527	460	438	383	▲ 27.3	▲ 12.5
	いわし	188	215	206	184	▲ 2.1	▲ 10.7
	かつお	552	542	468	472	▲ 14.4	0.9
	かれい	520	383	370	324	▲ 37.7	▲ 12.6
	さけ	1,348	1,560	1,507	1,579	17.2	4.8
	さば	373	322	316	328	▲ 11.9	3.7
	さんま	474	359	295	372	▲ 21.4	26.1
	たい	443	394	368	298	▲ 32.9	▲ 19.2
	ぶり	1,091	1,056	1,070	969	▲ 11.2	▲ 9.5
	いか	924	694	627	594	▲ 35.7	▲ 5.2
	たこ	415	471	478	408	▲ 1.5	▲ 14.5
	えび	1,159	1,041	1,012	951	▲ 17.9	▲ 6.0
	かに	648	575	583	472	▲ 27.2	▲ 19.0
	貝類小計	1,504	1,228	1,180	1,120	▲ 25.5	▲ 5.0
	あさり	344	306	298	247	▲ 28.3	▲ 17.2
	しじみ	137	136	133	133	▲ 2.8	0.3
かき	334	322	320	294	▲ 12.0	▲ 8.4	
ほたて	511	316	274	316	▲ 38.1	15.2	
塩干魚介計	5,326	4,868	4,816	4,589	▲ 13.8	▲ 4.7	
塩さけ	701	742	756	723	3.1	▲ 4.4	
魚肉練製品	3,003	2,922	2,903	2,763	▲ 8.0	▲ 4.8	
他の魚介加工品	3,340	3,555	3,573	3,556	6.5	▲ 0.5	
(参考) 生鮮肉	20,343	23,924	24,464	24,671	21.3	0.8	
牛肉	6,673	7,303	7,369	7,339	10.0	▲ 0.4	
豚肉	8,165	9,854	10,077	10,266	25.7	1.9	

資料：平成30年度水産白書（水産庁）より（総務省「家計調査」（二人以上の世帯（農林漁家世帯を除く）に基づき水産庁で作成）

6 技術の開発・普及

試験研究の動き

本県の農林水産業の振興を技術的に支援するため、28年3月に「愛知県農林水産業の試験研究基本計画2020」を策定しています。この基本計画(水産業部門)では、32年度を目標年度とし水産試験場が取組む重点研究目標や研究事項等を取りまとめています。

30年度に研究の進捗状況について中間評価を行った結果、研究事項(事項数22)のうち、計画どおり研究が進んでいるものは86%、概ね計画どおり研究が進んでいるものは5%、計画と比べやや研究が遅れているものは9%となりました。今後も、研究目標の達成に向け試験研究を推進していきます。なお、水産業部門の重点研究目標と中間評価時の主な研究成果については、以下のとおりです。

●水産業部門の重点研究目標と中間評価時点の主な研究成果

【幅広い分野の先端技術等を活用した技術の開発】

重点研究目標	中間評価時点の主な研究成果
多様な生態系を育む内湾環境の創出	目標：「貧酸素水塊や硫化水素が生物に及ぼす影響の解明及び被害軽減技術の開発」のうち「干潟・浅場造成に用いる新たな造成材の開発」 成果：砂利覆砂によりアサリの生息密度が増加すること、また、砂利を覆砂した試験区では、対照区に比べて秋冬季の稚貝の減少が少なく、最大5割程度、減少を軽減する効果があり、砂利覆砂による漁場造成の有効性が明らかとなった。
水産資源の合理的な漁獲による持続的利用	目標：「資源への影響を低減する小型底びき網の漁具及び曳網方法の開発」のうち「漁具の構造や網目の大きさ及び曳網速度による漁獲物組成や漁具抵抗の違いを解明」 成果：小型底びき網漁業では、ハンドロープの材質、袖網の目合い、曳網速度を変更し、これらを組み合わせることにより、漁獲対象となる魚の種類、形状や大きさの選択が可能であることがわかった。
環境変化に対応した増養殖技術による安定的な漁業生産の実現	目標：「環境変化に対応した種苗放流技術の開発」のうち「河口域の環境に対応したより効果的なヨシエビ種苗放流技術の開発」 成果：人工放流種苗と同サイズの天然ヨシエビ稚エビが矢作川河口域に分布していることが明らかとなった。また、河口から上流4km付近までの浅瀬がヨシエビ種苗の最適な放流場所と考えられた。
内水面水産資源の維持・増大と養殖技術の高度化	目標：「ウナギ資源増大のための放流技術の開発」のうち「放流ウナギの雌比率を高める技術の開発(5%→50%)」 成果：日間成長率を指標として養殖場から雌比率の高い放流群を選抜する手法を開発した。これにより放流魚群の雌比率を36%に向上させることができた。

【幅広い需要に応える戦略的な品種の開発】

重点研究目標	中間評価時点の主な研究成果
愛知の強みを生かした戦略的な品種開発による幅広い需要への対応	目標：「産地の競争力を高めるノリ及びキンギョの品種開発」のうち「キンギョの新品種・新系統の開発(1品種・系統)」 成果：水産試験場で開発したアルビノチョウテンガンと、透明な鱗が点在するサクラスイホウガンを掛け合わせたサクラアルビノチョウテンガンの開発を進めている。

〈主要な問題の解説〉

【ダム堆積砂を用いたアサリ漁場造成試験】

本県は全国でも有数のアサリの生産地として知られており、多くの漁業者がアサリを対象とした漁業に従事しています。本県のアサリは、過去20年間のピーク時には年間約2万トンの漁獲量がありましたが、25年頃から漁獲量が減少しており、最近の漁獲量はピーク時の10分の1程度まで減少しています。そこで、県内の各浜ではアサリ資源の回復を目指して、種苗の移植放流や被覆網の設置、漁場の耕耘などの取組が行われています。

アサリは、強い波浪等により地盤が移動し、度々掘り出されることで衰弱し、へい死することもあり、波浪の影響を受けやすい水深の浅い漁場では、地盤の安定性が重要な要素の1つと考えられることから、愛知県では27年10月に蒲郡市地先の干潟に、愛知県豊田市にある矢作ダムに溜まった、様々な大きさの礫を含む堆積砂を用いてアサリ漁場試験区を造成しました（A図）。試験区は、1区画あたり面積400㎡（20m×20m）で、投入するダム堆積砂の厚さを14cm、28cm、41cmに設定し、計3区画造成しました。また、試験区との比較のため、近傍に同様の面積でダム堆積砂を投入しない対照区を設定しました（B図）。水産試験場では、この試験区の効果を検証するため、アサリの生息状況や成長などについて定期的に調査を行いました。

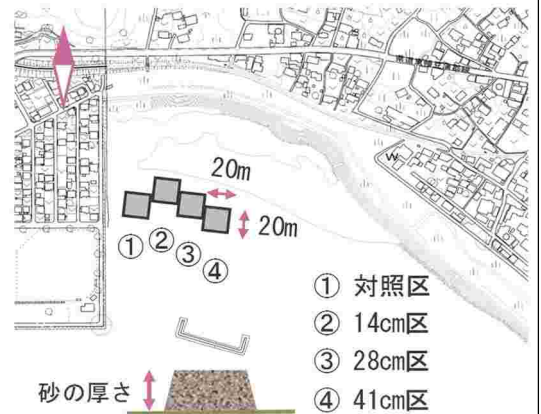
30年7月に行った調査結果によると、アサリは対照区では1㎡あたり24個体確認されたのに対し、試験区ではダム堆積砂が厚いほど多く確認され、ダム堆積砂の厚さが14cm区で32個体、28cm区で776個体、41cm区では10,800個体確認されました（C、D図）。また、確認されたアサリの最大殻長は対照区では12.3mmであったのに対し、14cm区で18.5mm、28cm区で37.9mm、41cm区で39.1mmであり、ダム堆積砂が厚いほど殻長が大きいアサリが確認されました。

ダム堆積砂には砂の他、小石や拳大の石など、大小様々な大きさの礫が多く含まれています。一方、対照区は0.5mm以下の粒の細かい砂質であり、強い波浪などの影響で海底面が動きやすく、アサリの生息に不向きな環境と考えられます。ダム堆積砂に含まれる礫が波浪などによる海底面の動きを抑え、アサリの流出を防いだ結果、対照区よりも多くのアサリが生息・成長できたと推察されました。今後はこれらの調査結果を踏まえ、より効果的な漁場造成手法の開発を進めていきます。

A図 試験区の堆積砂



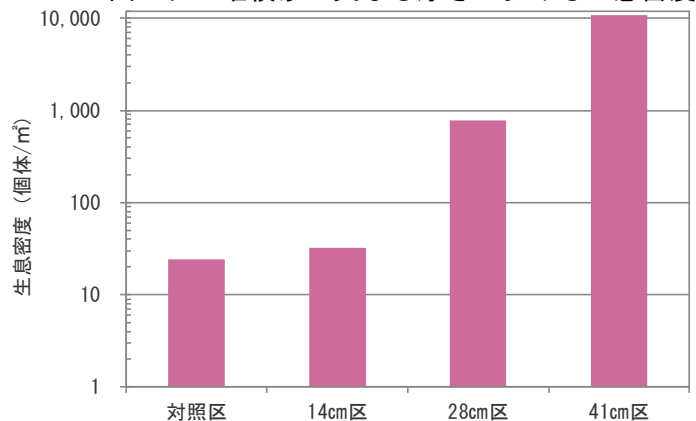
B図 試験区の配置



C図 試験区から採取したアサリ



D図 ダム堆積砂の異なる厚さにおける生息密度



7 時の話題

水産政策の改革について

30年度、適切な資源管理と水産業の成長産業化の両立を目指した水産政策の改革がスタートし、70年ぶりとなる漁業法等の大幅な改正が行われました。その概要について整理します。

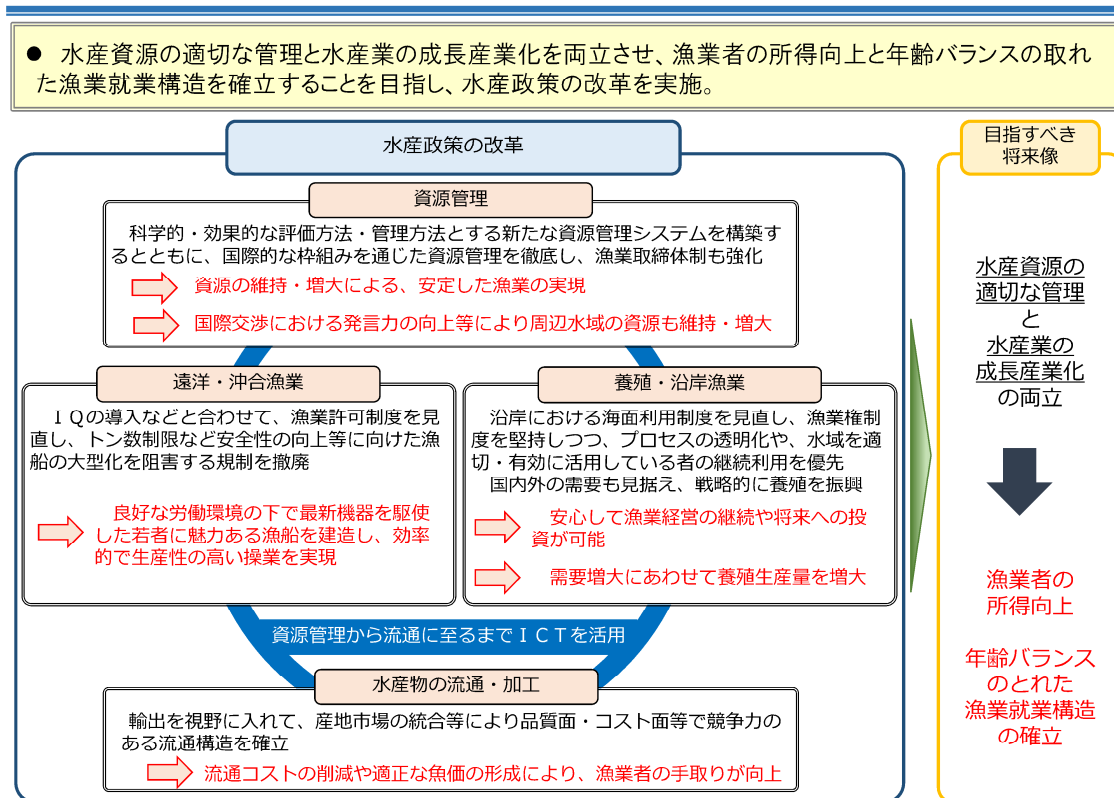
1 主な経緯

- 29年4月、国は新たな「水産基本計画」を策定し、数量管理等による資源管理の充実や漁業の成長産業化等を強力に進めるために必要な施策等の検討が始められました。
- 29年9月、内閣府の規制改革推進会議に水産ワーキンググループが設置され、衰退する日本漁業の成長産業化をテーマに討議が重ねられました。
- 29年12月、国はこれまでの検討結果を踏まえた「水産政策の改革の方向性」を公表、30年6月に「農林水産業・地域の活力創造プラン」を改訂し、水産政策の改革の骨子が固まりました。
- こうした経緯を踏まえて関連法の改正が進められ、改革の根幹となる、漁業法等を改正する法律案が30年の第197回国会において可決され、30年12月14日に公布されました。

2 改革の骨子

今回の改革は、水産資源の適切な管理と水産業の成長産業化を両立させ、漁業者の所得向上とバランスのとれた漁業就業構造を確立することを目指しており、その全体像はA図のとおりとなっています。なお、改正漁業法は、令和2年中の施行が予定されています。

A図 水産政策の改革の全体像



(水産庁ホームページより <http://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/kaikaku/suisankaikaku.html>)

3 改革の主な内容

(1) 新たな資源管理制度の導入

○水産資源の管理は、これまで主体だった漁船のトン数や漁具等の制限(入口規制)から、漁獲可能量(TAC)による管理(出口規制)が主体となります。ただし、魚種に応じて入口規制も組み合わせて管理することとされています。

○準備が整った漁業種類から、漁船等ごとに漁獲割当(IQ)を導入することになります。当面は、大型の大臣許可漁業から導入を進めることとされています。

(2) 漁業許可制度の見直し

○漁業許可を受けた者には、資源管理の状況、生産データ等の報告が義務づけられます。また、IQの導入が進んだ漁業について、漁船の規模に係る制限を定めないこととしています。

(3) 漁業権制度の見直し

○養殖を行うための区画漁業権の免許に係る優先順位制度は廃止され、協業化や新規参入等を促して水面の総合的利用を図ることとされました。ただし、漁協等、既存の漁業権者が適切かつ有効に漁場を活用している場合は、既存権者の漁場利用は確保されます。

(4) 罰則の強化

○省令で定められる特定水産動植物(アワビ、ナマコ、シラスウナギ)の密漁に3年以下の懲役又は3,000万円以下の罰金が課されるなど、罰則が強化されます。

(5) その他

○海区漁業調整委員の漁業者委員の選任は、公選制から知事選任制に変更されます。

○販売事業を行う漁協は、理事のうち、水産物の販売等に関し実践的な能力を有する者を1人以上登用することが必要となります。

4 本県の対応

(1) 新たな資源管理制度の導入に関して

○国は、現在は8魚種(本県4魚種)である漁獲可能量の対象魚種拡大を目指しています。

魚種の追加には、国、県、漁業者による十分な協議が必要であり、即座に追加されるものではありませんが、県としては、資源管理体制を強化して必要なデータを収集し、科学的知見の蓄積を図っています。

(2) 漁業許可や漁業権などの制度改革に関して

○改正漁業法の内容に即し、本県漁業の実態を踏まえて県漁業調整規則を改正します。

本県は地先の沿岸漁業が中心であり、今回の水産政策の改革だけでは対応しきれない現実的な課題もあります。しかし、今回の改革の趣旨を理解し、国・県・漁業者が一体となって、水産業をより良く変えていくスタートラインに立つべきです。新しい制度が漁業現場でどのように活用され、漁業者自らが水産業を成長産業にシフトさせていけるかが重要です。

日間賀島の玄関口（渡船ターミナル）が完成しました

1 事業の目的・背景等

知多半島の沖合 3km に位置する日間賀島は、三河湾と伊勢湾に面した好漁場に恵まれ、しらす船びき網漁業、小型底びき網漁業、採貝や潜水器漁業を中心とした沿岸漁業を基幹産業とする地区です。

また、日間賀島は年間 26 万人の観光客が訪れる「観光の島」でもあり、タコやフグ料理に代表される地産地消に力を入れる一方、体験漁業などブルーツーリズムを推進するなど水産業と観光業が密接に係わってきました。

しかしながら、島の玄関口である西港の船舶離発着施設には待合所がなく、荒天時には利用客に不便をかけるなど、島の玄関口としての十分なホスピタリティが提供できていない状況が長く続いていました。そこで新たに待合所を整備し、住民や観光客の利便性向上を図るとともに、同施設及び周辺で地元水産物の PR イベントを開催することなどにより、水産業と地域の活性化を図ることを目的に、平成 27 年度から産地協議会を立ち上げ、地元において施設の規模や利活用の検討を進め、29 年度から渡船ターミナルの建設が開始されました。

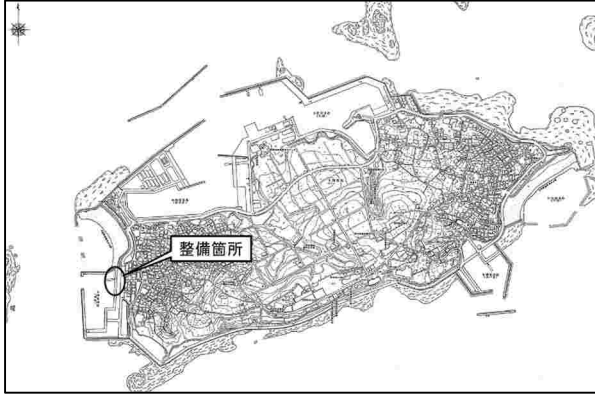
2 施設の活用方針

渡船ターミナルは 31 年 3 月 28 日に竣工記念式典が行われ、4 月 1 日から供用開始されました。日間賀島を訪れる観光客や船舶利用客に対し豊富な海の幸を PR できるよう、施設内に観光案内所や情報コーナーなどを設置し、地元水産物の高付加価値化やブランド力の強化を図っています。島の新たな玄関口の整備を契機にこれまで以上に水産業と観光業が連携し、日間賀島の観光イメージを高め、誘客促進と島内観光消費を拡大させていく計画です。

3 実施事業

- ①実施期間：平成 29～30 年度（2 ヶ年 事業主体：南知多町）
- ②国事業名：浜の活力再生交付金（漁港機能高度化目標）
- ③総事業費：133,584 千円（国 66,792、県 14,025、町 52,767）
- ④事業内容：渡船ターミナル

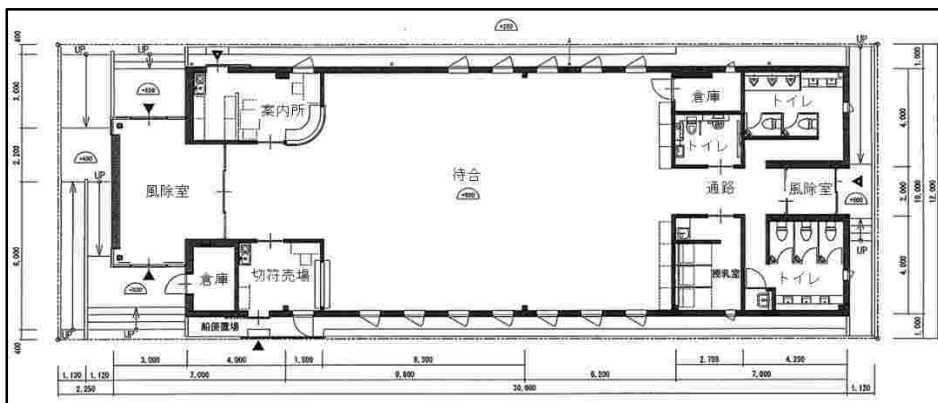
A図 渡船ターミナルの整備箇所



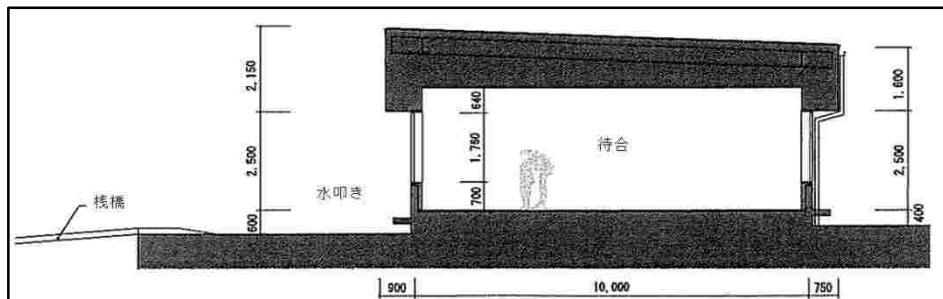
B図 渡船ターミナル (ひまぽ)



C図 渡船ターミナル平面図



D図 渡船ターミナル断面図



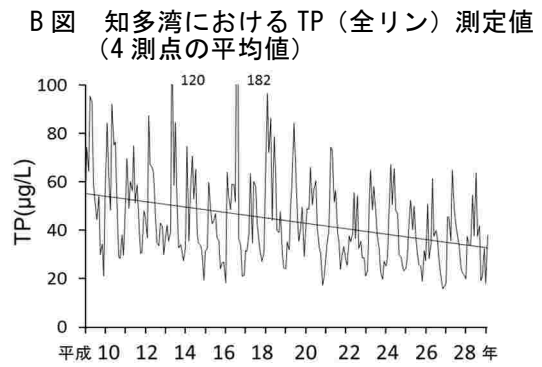
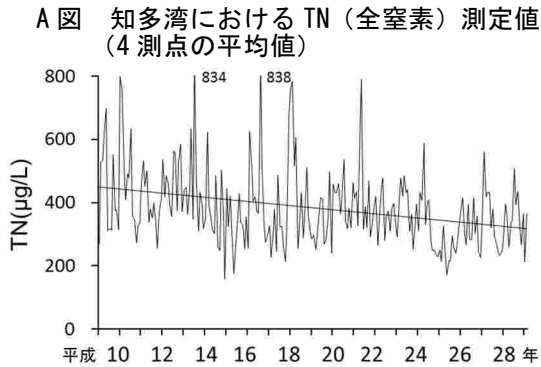
E図 竣工記念式典の様子



三河湾における栄養塩類の低下と回復に向けた取り組み

1 栄養塩類の低下と漁業への影響

三河湾で問題となっている赤潮の発生や海底の貧酸素水塊の拡大は、かつては流入負荷増大に伴う富栄養化に原因があると考えられていました。このため、海域におけるCOD（化学的酸素要求量）、TN（全窒素）、TP（全リン）の環境基準が定められ、その達成のために陸域における水質総量規制が昭和55年から38年にわたって実施されてきました。その結果、三河湾におけるTN、TPは着実に減少しています。例えば、より減少率が大きいとされる三河湾西部の知多湾では、過去20年間でTNは約7割、TPは約6割まで減少しています（A図、B図）。

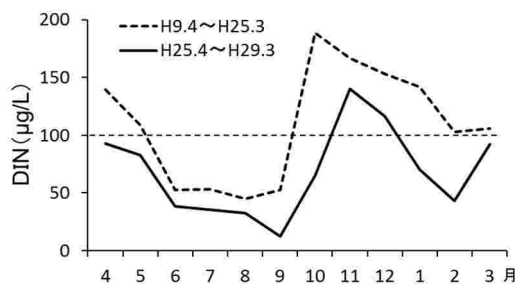


このように、海に流入する窒素やリンは着実に削減され続けてきましたが、赤潮や貧酸素水塊の発生はほとんど解消されていないのが現状です（10、11頁）。

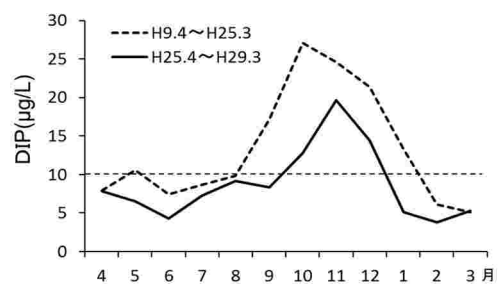
一方、窒素やリンのうち水に溶けている状態の無機態の窒素やリンは、ノリや植物プランクトンの栄養としてとても大切です。それぞれDIN（溶存態無機窒素）、DIP（溶存態無機リン）、総称して「栄養塩類」と呼んでいます。こうした栄養塩類が減少し過ぎた結果、漁業生産に影響が生じてきたとの声が上がっています。

知多湾におけるDINとDIPの月別推移を見ると、平成25～28年度の平均値は、9年～24年度に比べて低く（C、D図）、このためノリ養殖では、ノリの生長に必要な栄養が不足し、一部の漁場で過去と比較して1ヶ月程度の漁期の短縮や、「色落ち」による価格の低下が発生しています。

C図 知多湾におけるDIN（溶存態無機窒素）測定値の月別推移の比較（4測点の平均値）



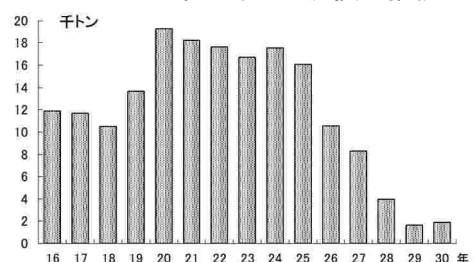
D図 知多湾におけるDIP（溶存態無機リン）測定値の月別推移の比較（4測点の平均値）



（品質のよいノリに必要な栄養塩類の濃度の目安：DIN 100µg/L、DIP 10µg/L、DIPはP0₄-Pと同等とする。）

また、近年はアサリの資源量の減少が著しく、かつて16,000t程度であった漁獲量が、26年以降減少を続け、30年には約1/10となっています（E図）、その要因のひとつとして、アサリ漁場での餌となる植物プランクトン量の減少が指摘されています。

E図 愛知県のあさり漁獲量推移



2 流域下水道の放流水リン濃度増加に係る試験運転

愛知県漁業協同組合連合会は、栄養塩類の低下によりノリ養殖やアサリ漁業などへの影響が見られるとして、29年4月28日に「伊勢・三河湾の漁業生産にとって重要な栄養環境の改善に関する要望書」を県に提出しました。

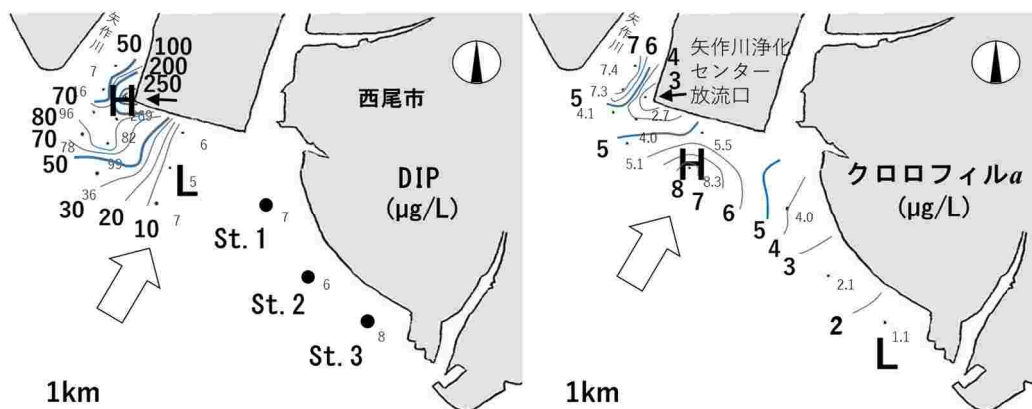
県はこれを受けて、29年度は11～3月、30年度は10～3月に、流域下水道の矢作川浄化センター及び豊川浄化センターにおいて、水質汚濁防止法に定める規制基準（1.0mg/L）の範囲内で下水道の放流水中のリン濃度を増加させる試験運転を実施しました。

3 試験運転による水質、ノリ、アサリへの効果

試験中は、ノリの色調の回復やアサリの身入り（肥満度）の増加など、ノリやアサリへの効果が少しずつ認められています。

矢作川浄化センターでは、DIPが放流口から3～5kmにわたり拡散している様子が確認されるとともに、放流口から少し離れた海域で、DIPの濃度が低く、植物プランクトン量を表すクロロフィルaの濃度の高い海域が観測されました（F図）。これは、放流されたDIPを吸収して植物プランクトンが増殖したものと考えられます。

F図 矢作川地区におけるノリの調査測点（St. 2, 3）、アサリの調査測点（St. 1, 3）及びDIP（左）、クロロフィルa（右）の水平分布（ $\mu\text{g/L}$ ）（31年2月25日）

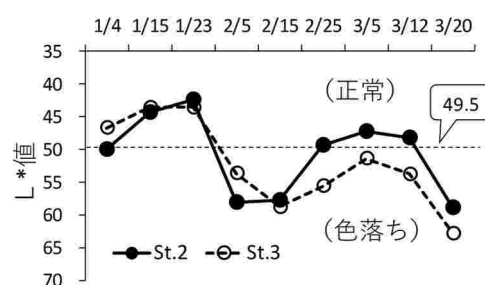


矢作川地区のノリについて、品質を表すL*値（明度を表し、値が低いほど色が黒い。）を比較したところ、2月上・中旬に軽度の色落ちの基準値である49.5以上に上昇しました。しかし、放流口に近いSt. 2では、2月下旬～3月中旬に49.5以下まで戻り、ノリの色調が正常に回復したことが確認されました（F、G図）。

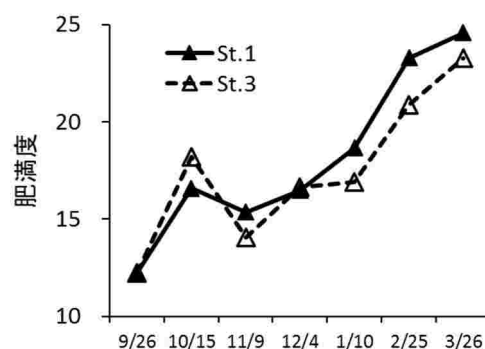
また、矢作川地区に放流したアサリの肥満度を調べたところ、放流口に近いSt. 1は平均18.2とSt. 3の平均17.5よりも高い値を示しました（H図）。漁業者の皆さんからも、ノリやアサリへの良い効果があったとの意見をいただいています。

このように、下水道の放流水リン濃度増加に係る試験運転により、海域では部分的ですがある程度の効果が出ていると考えられました。しかし、効果の把握は始まったばかりであり、栄養塩類の適切な管理により「豊かな海」を実現するには、海域の栄養塩類と漁場生産力の関係を調べるなど、更なるデータの蓄積が必要です。

G図 ノリ色調の変化



H図 矢作川地区のアサリ肥満度の変化



平成 30 年のトリガイの豊漁について

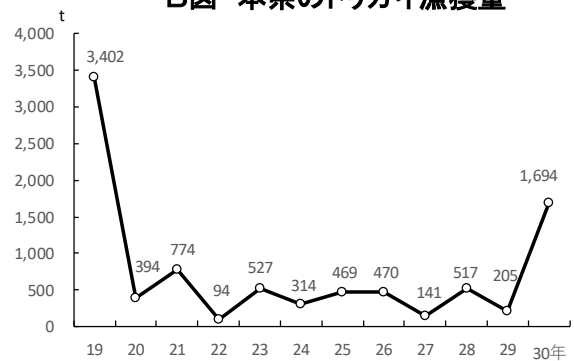
1 愛知県のトリガイ動向

トリガイは春から夏にかけて三河湾で漁獲され、西尾市や蒲郡市、碧南市が主要な水揚地です。近年トリガイの県内漁獲量は 100~500 トン程度で推移していましたが、平成 30 年は 1,694 トン（前年比 825.9%、平年比 470.1%（過去 5 年））と豊漁でした。トリガイは年毎の漁獲量の変動が大きい水産物であるため、その年の資源状況を把握し、資源管理を行っていくことが必要です。水産試験場ではトリガイ浮遊幼生と稚貝の分布調査を行い、漁獲予測を行っています。また、トリガイを漁獲する三河湾貝桁協会は資源管理の取組をしています。今回はそれらの取組について紹介します。

A 図 トリガイ



B 図 本県のトリガイ漁獲量



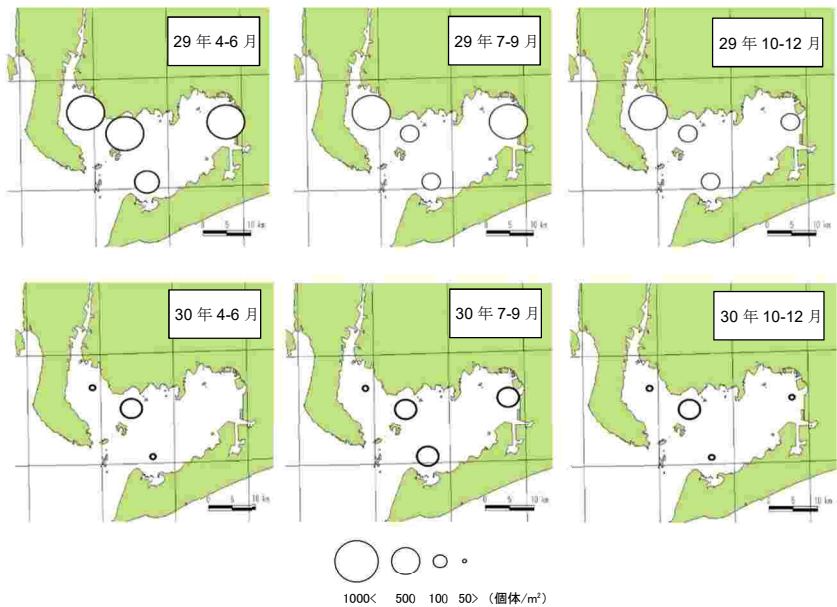
(水産課・水試調べ)

2 豊漁となった要因について

水産試験場では、三河湾のトリガイ資源が形成されるメカニズムを明らかにするため、浮遊幼生の分布調査を 4 月から 12 月まで、稚貝の分布調査を 11 月から翌年 1 月まで行っています。

豊漁であった 30 年の前年 (29 年) の浮遊幼生は、春から秋までの期間を通して三河湾全体で確認でき (C 図)、稚貝は、11 月から確認できました (D 図)。トリガイは 19 年も豊漁でしたが、前年の秋に浮遊幼生が多かったことがその要因と考えられています。今回は前年の秋だけで

C 図 トリガイ浮遊幼生の平均分布状況 (個体/m²)



なく、春から浮遊幼生の発生が多い状況でした。また、三河湾では夏に底生生物に悪影響を与える貧酸素水塊が毎年発生していますが、29 年の夏は三河湾の内、知多湾奥部において貧酸素水塊の規模が小さく、その影響が少なかったため、着底後の稚貝の生残が良く、高い密度が維持され豊漁につながったと考えられました。

D図 トリガイ稚貝の分布状況(個体/1000m²)



3 漁業者による資源管理

三河湾貝桁協会では、トリガイ資源の状況に応じて、禁漁期間や操業時間の設定、漁具・網目の制限を行っています。また、貝桁協会に所属する東幡豆、幡豆、三谷、吉良漁協及び手三貝協会のトリガイを漁獲する漁業者は資源管理計画を策定し、自主的管理措置として出漁日数制限による漁獲努力量の削減に取り組んでいます。漁業者はこのような取組を通して、トリガイ資源の持続的な利用を目指しています。

4 漁獲予測について

30年はトリガイが豊漁で親の資源量が多かったため、産まれてくる浮遊幼生量も多いと予測していました。しかし、浮遊幼生量は調査期間を通して少なく(C図)、稚貝密度も低かったため(D図)、31年の漁獲量は前年を大きく下回りました。豊漁となるには、前年の浮遊幼生が多く、稚貝が着底する海域の貧酸素水塊の規模が小さいことが重要だと考えられるため、今後は浮遊幼生量と貧酸素水塊の動向を組み合わせ、より効果的な資源管理の取り組みにつながるための漁獲予測を行っています。

[資料編]

目次

I 愛知の水産業

1 経済活動別県内純生産	34
2 経済活動別就業者数	34
3 愛知県の漁業・養殖業全国順位	35
4 主要品目別全国順位	36

II 漁業経営

5 階層別地域別海面漁業・養殖業経営体数	37
6 主とする漁業種類別経営体数	38
7 営んだ漁業種類別経営体数	38
8 市町別海面漁業・養殖業経営体数	39
9 内水面養殖業経営体数	39
10 男女別男子年齢別漁業就業者数	39
11 新規漁業就業者数	39
12 高校卒業者の卒後状況	40
13 漁業権免許件数一覧表	40
14 遊漁船業者登録件数	40
15 漁家経済	40
16 漁業近代化資金利子補給承認状況	41
17 漁業振興資金融資状況	41
18 沿岸漁業改善資金融資状況	41
19 地域別海水動力漁船隻数	42
20 海水動力漁船機関種類別隻数、トン数及び馬力数	43
21 農林水産統計による漁船隻数	43

III 漁場と資源

22 海域におけるCODの経年変化	44
23 河川・湖沼における主要環境基準地点のBOD(COD)の経年変化	45
24 海域における全窒素・全燐の年平均値の経年変化	45
25 赤潮の経年変化(月別、水域別)、苦潮発生状況とその漁業被害	46
26 漁港整備計画別事業費実績	47
27 沿岸漁業構造改善事業等実績	47
28 水産振興対策事業実績	48
29 漁場整備事業実績	48

IV 漁業生産

30 漁業総生産	49
31 主要市町別海面漁業・養殖業生産量	49
32 海面漁業種類別地域別漁獲量	50
33 海面漁業魚種別漁獲量	51
34 海面漁業魚種別産出額	52
35 海面漁業種類別魚種別漁獲量	53
36 地域別のり生産枚数（暦年）	54
37 地区別のり生産枚数（養殖年）	55
38 内水面漁業魚種別漁獲量	56
39 内水面漁業魚種別産出額	56
40 内水面養殖業魚種別収獲量	56
41 内水面養殖業魚種別産出額	56
42 観賞魚養殖状況	57
43 しらすうなぎ池入数量	57

V 流通加工

44 中央卸売市場における水産物の取扱数量・金額、平均価格	58
45 水産加工品生産量	58

(付属資料)

46 沿海漁業協同組合及び内水面漁業協同組合の位置図	59
47 平成30年度の主な水産年譜	60
48 愛知県の水産業に関する地勢	60

*使用上の注意

- ◎表によっては、四捨五入のため計と内訳が一致しない場合がある。
- ◎内水面養殖業の総生産量には、観賞魚の生産量を含まない。
- ◎内水面養殖業の総産出額には、観賞魚の産出額を含む。

I 愛知の水産業

1 経済活動別県内純生産

(単位：百万円)

項目	年度					
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
1 産 業	22,336,680	24,099,095	24,922,095	25,030,113	25,754,191	25,501,747
(1) 第 1 次 産 業	124,723	133,900	116,203	101,106	118,313	131,305
農 業	110,434	118,159	103,269	86,551	101,929	114,436
林 業	1,558	1,537	1,165	1,037	1,007	1,030
水 産 業	12,731	14,204	11,769	13,518	15,377	15,839
(2) 第 2 次 産 業	8,408,274	9,981,468	10,521,424	10,820,423	11,361,714	10,995,246
鉱 業	2,414	1,761	2,399	2,601	2,189	1,574
製 造 業	7,175,888	8,743,881	9,174,048	9,410,302	9,954,779	9,558,894
建 設 業	1,229,972	1,235,826	1,344,977	1,407,520	1,404,746	1,434,778
(3) 第 3 次 産 業	13,803,683	13,983,727	14,284,468	14,108,584	14,274,164	14,375,196
電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業	237,992	211,710	185,424	261,048	374,191	279,383
卸 売 ・ 小 売 業	3,775,892	3,890,574	4,063,388	3,806,247	3,794,821	3,834,677
金 融 ・ 保 険 業	902,517	890,386	898,946	877,007	883,292	901,560
不 動 産 業	1,058,760	1,055,700	1,060,571	1,047,715	1,060,263	1,001,538
運 輸 業	1,168,103	1,200,591	1,186,008	1,206,623	1,195,744	1,151,117
情 報 通 信 業	613,349	572,067	576,629	590,659	552,585	616,034
サ ー ビ ス 業	6,047,070	6,162,699	6,313,502	6,319,285	6,413,268	6,590,887
2 政 府 サ ー ビ ス 生 産 者	1,514,225	1,460,888	1,436,620	1,471,856	1,476,575	1,478,831
3 対 家 計 民 間 非 営 利 サ ー ビ ス 生 産 者	473,682	486,652	486,918	494,032	533,813	556,225
合 計	24,324,587	26,046,634	26,845,633	26,996,001	27,764,580	27,536,803

資料：あいちの県民経済計算（県統計課）

2 経済活動別就業者数（従業地ベース）

(単位：人)

項目	年度					
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
1 産 業	3,869,839	3,834,901	3,834,724	3,833,702	3,825,598	3,824,686
(1) 第 1 次 産 業	80,752	79,143	77,307	75,555	74,021	72,479
農 業	75,646	74,139	72,432	70,706	69,274	67,828
林 業	825	822	817	815	812	812
水 産 業	4,281	4,182	4,058	4,034	3,935	3,839
(2) 第 2 次 産 業	1,212,186	1,187,703	1,193,805	1,185,627	1,221,415	1,223,771
鉱 業	956	888	778	722	642	617
製 造 業	907,802	901,089	917,366	919,931	946,294	945,592
建 設 業	303,428	285,726	275,661	264,974	274,479	277,562
(3) 第 3 次 産 業	2,576,901	2,568,055	2,563,612	2,572,520	2,530,162	2,529,436
電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業	24,026	24,096	24,275	23,453	24,129	25,400
卸 売 ・ 小 売 業	782,305	773,009	764,122	755,609	747,438	740,437
金 融 ・ 保 険 業	93,370	91,233	89,721	88,256	89,063	88,759
不 動 産 業	62,308	62,055	61,789	61,515	61,236	60,957
運 輸 業	230,628	236,625	236,538	231,609	237,830	245,111
情 報 通 信 業	79,192	78,166	77,151	76,151	75,171	74,211
サ ー ビ ス 業	1,305,072	1,302,871	1,310,016	1,335,927	1,295,295	1,294,561
2 政 府 サ ー ビ ス 生 産 者	198,283	199,571	200,988	202,532	204,157	205,921
3 対 家 計 民 間 非 営 利 サ ー ビ ス 生 産 者	125,223	130,900	137,118	143,917	151,345	159,451
合 計	4,193,345	4,165,372	4,172,830	4,180,151	4,181,100	4,191,058

資料：あいちの県民経済計算（県統計課）

注）「あいちの県民経済計算」の計数は、最近の年度を中心に推計方法の改善等により改定を行うことがあります。

3 愛知県の漁業・養殖業全国順位 (29年)

(1) 生産量

(単位：t)

	海面漁業	海面養殖業	内水面漁業	内水面養殖業
全国	3,258,020	986,056	25,215	36,839
1位	北海道 738,957	広島 107,243	北海道 7,635	鹿児島 8,653
2位	長崎 317,069	宮城 91,418	青森 4,835	愛知 7,146
3位	茨城 295,345	北海道 82,418	島根 4,077	宮崎 3,914
4位	静岡 202,227	青森 79,531	茨城 2,551	静岡 3,139
5位	宮城 158,328	兵庫 71,077	岩手 717	長野 1,607
	15位 愛知 69,970	19位 愛知 13,746	27位 愛知 35 (123)	

資料：海面漁業生産統計調査、内水面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）

注）内水面漁業における括弧内の数値は県調べ。

海面漁業以外の愛知県順位は秘匿県を除いた参考値である。

(2) 産出額

(単位：億円)

	海面計	海面漁業	海面養殖業
全国	14,607	9,628	4,979
1位	北海道 2,752	北海道 2,443	愛媛 614
2位	長崎 1,057	長崎 679	鹿児島 530
3位	愛媛 851	静岡 579	熊本 381
4位	宮城 819	宮城 563	長崎 378
5位	鹿児島 776	青森 430	北海道 309
6位	青森 641	岩手 298	佐賀 282
7位	静岡 604	三重 291	宮城 256
8位	三重 507	高知 286	大分 238
9位	兵庫 499	兵庫 273	兵庫 226
10位	高知 497	千葉 257	福岡 223
	25位 愛知 177	20位 愛知 126	20位 愛知 51

資料：海面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）

注）内水面産出額の都道府県別統計は公表されていない。

海面漁業以外の愛知県順位は秘匿県を除いた参考値である。

4 主要品目別全国順位

品目	年	順位					全国
		1位	2位	3位	4位	5位	
くるまえばい(t)	24	愛媛 150	愛知 91	大分 51	福岡 46	長崎・熊本 22	492
	25	愛媛 133	愛知 62	大分 50	福岡 41	熊本 35	440
	26	愛媛 95	愛知 59	大分 50	福岡 45	香川 27	377
	27	愛媛 82	愛知 72	大分 35	香川 30	福岡 29	334
	28	愛媛 80	愛知 79	大分 39	福岡 35	香川 29	354
	29	愛媛 69	愛知 64	福岡 46	大分 37	熊本 23	322
あなご類(t)	24	長崎 886	島根 577	兵庫 495	愛媛 429	愛知 413	4,609
	25	長崎 775	島根 626	宮城 537	山口 408	(7位)愛知 313	4,503
	26	長崎 624	島根 459	愛知 456	宮城 449	愛媛 319	4,011
	27	長崎 639	島根 494	宮城 418	愛知 351	茨城 272	3,854
	28	長崎 577	島根 466	宮城 363	愛知 319	愛媛 280	3,606
	29	島根 508	長崎 496	宮城 439	愛知 269	茨城 216	3,422
がざみ類(t)	24	愛知 629	愛媛 296	福岡 282	岡山 204	長崎 163	2,750
	25	愛知 492	福岡 304	愛媛 262	長崎 246	岡山 189	2,783
	26	愛知 341	愛媛 286	福岡 277	長崎 177	宮城 173	2,328
	27	宮城 518	愛知 316	福岡 239	愛媛 204	長崎 90	2,120
	28	宮城 662	愛知 248	愛知 237	愛媛 152	大分 90	2,160
	29	宮城 714	福岡 247	愛知 219	愛媛 121	大分 108	2,232
あさり類(t)	24	愛知 17,562	三重 3,957	静岡 2,479	熊本 1,167	北海道 907	27,300
	25	愛知 16,063	三重 1,976	千葉 1,425	静岡 1,404	北海道 977	23,049
	26	愛知 10,563	静岡 4,127	千葉 2,248	北海道 1,005	三重 446	19,449
	27	愛知 8,282	静岡 3,437	北海道 1,009	千葉 209	熊本 207	13,810
	28	愛知 3,973	静岡 1,901	北海道 1,199	福岡 548	千葉 412	8,967
	29	愛知 1,635	福岡 1,513	北海道 1,312	静岡 968	熊本 730	7,072
板のり(千枚)	24	佐賀 2,139,681	兵庫 1,671,781	福岡 1,412,530	熊本 1,183,528	(6位)愛知 398,591	8,816,303
	25	佐賀 2,092,277	福岡 1,394,960	兵庫 1,146,979	熊本 1,062,324	(6位)愛知 394,118	8,132,540
	26	佐賀 1,669,601	兵庫 1,372,422	福岡 1,169,648	熊本 856,097	愛知 382,303	7,105,725
	27	佐賀 1,772,713	兵庫 1,683,837	福岡 1,222,264	熊本 786,891	(7位)愛知 323,436	7,658,019
	28	佐賀 1,987,892	兵庫 1,517,402	福岡 1,334,265	熊本 1,013,142	(7位)愛知 340,099	7,792,052
	29	佐賀 1,784,825	兵庫 1,484,568	福岡 1,423,840	熊本 1,123,015	(7位)愛知 345,317	7,845,680
うなぎ養殖(t)	24	鹿児島 7,184	愛知 4,081	宮崎 3,111	静岡 1,629	高知 347	17,377
	25	鹿児島 5,747	愛知 3,140	宮崎 2,840	静岡 1,396	三重 263	14,204
	26	鹿児島 6,838	愛知 4,918	宮崎 3,167	静岡 1,490	三重 292	17,627
	27	鹿児島 8,157	愛知 5,116	宮崎 3,348	静岡 1,834	徳島 393	20,119
	28	鹿児島 7,972	愛知 4,742	宮崎 3,255	静岡 1,654	三重 306	18,907
	29	鹿児島 8,562	愛知 5,780	宮崎 3,262	静岡 1,705	高知 603	20,979
あゆ養殖(t)	24	和歌山 948	岐阜 871	愛知 848	滋賀 508	宮崎 431	5,195
	25	愛知 1,063	和歌山 966	岐阜 911	滋賀 488	宮崎 391	5,279
	26	愛知 1,114	和歌山 992	岐阜 984	滋賀 466	栃木 325	5,163
	27	愛知 1,160	和歌山 984	岐阜 897	滋賀 460	栃木 333	5,084
	28	愛知 1,182	和歌山 1,039	岐阜 882	滋賀 504	栃木 330	5,183
	29	愛知 1,156	和歌山 1,034	岐阜 967	滋賀 491	栃木 325	5,053

資料：海面漁業生産統計調査、内水面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）

Ⅱ 漁業経営

5 階層別地域別海面漁業・養殖業経営体数

年	階層 地域	総数	漁船 非使用	無動力船	船外機船	1 t 未満	1 ~ 3 t	3 ~ 5 t	5 ~ 10 t	10 t 以上	小型定置 地びき網	浅海養殖
15	県計	2790	75	1	—	768	312	508	262	296	78	490
	海部	3	x	—	—	x	x	x	x	x	x	3
	知多	1349	2	—	—	152	245	331	123	182	27	287
	西三河	847	x	—	—	x	x	x	x	x	x	x
	東三河	591	26	1	—	325	17	63	47	33	37	42
16	県計	2741	71	—	—	762	319	482	250	309	73	475
	海部	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
	知多	1325	1	—	—	163	247	303	120	185	23	283
	西三河	797	45	—	—	x	x	x	x	x	x	x
	東三河	616	25	—	—	x	x	x	x	x	x	x
17	県計	2700	61	—	—	780	300	486	239	304	75	455
	海部	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
	知多	1302	—	—	—	161	231	309	120	185	23	273
	西三河	764	x	—	—	x	x	x	x	x	x	x
	東三河	631	x	—	—	x	x	x	x	x	x	x
18	県計	2659	63	—	—	775	292	477	230	301	74	447
	海部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	知多	1281	—	—	—	153	227	301	119	185	23	273
	西三河	762	x	—	—	x	x	x	x	x	x	x
	東三河	616	x	—	—	x	x	x	x	x	x	x
20	県計	2530	96	2	776	29	263	438	245	270	47	364
	知多	1199	1	—	152	16	198	272	125	175	20	240
	西三河	736	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
	東三河	595	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
	海部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
25	県計	2348	58	1	780	71	263	394	222	248	44	267
	知多	1104	1	—	189	11	158	234	117	163	20	211
	西三河	695	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
	東三河	549	23	1	245	58	83	27	44	27	15	26
	海部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
30	県計	1924	61	—	683	36	164	323	172	226	43	216
	知多	993	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
	西三河	479	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
	東三河	452	37	—	259	24	27	15	25	23	12	30
	海部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

資料：15～18年は「稼動量調査」、20、25、30年は「漁業センサス」
(農林水産省統計部)

注) 19年以降は漁業センサス年のみの公表(県計のみ)となった。

6 主とする漁業種類別経営体数

区分 \ 年	16	17	18	20	25	30
県 計	2,741	2,700	2,659	2,530	2,348	1,924
沖合底びき網	4	4	4	4	4	4
小型底びき網	581	584	563	539	492	388
まき網	3	3	3	4	-	-
刺網	261	264	251	226	183	193
釣	269	256	260	204	184	171
はえ縄	26	26	26	23	7	7
地びき網	15	19	18
船びき網	116	114	115	106	102	110
小型定置網	58	56	56	47	44	43
その他の網漁業	21	4	5
採貝	657	657	660
採藻	17	25	25
採貝・採藻	747	796	536
潜水器漁業	129	125	124	113	124	125
その他の漁業	130	112	107	132	141	126
のり養殖業	449	421	413	341	233	184
わかめ養殖業	16	26	26	19	31	31
その他養殖業	10	8	8	4	3	1

資料：18年以前は「稼動量調査」、20、25、30年は「漁業センサス」（農林水産省統計部）
 注）19年以降は漁業センサス年のみの公表となった。

7 営んだ漁業種類別経営体数

区分 \ 年	16	17	18	20	25	30
県 計	4,427	4,311	4,215	3,598	3,157	2,593
沖合底びき網	4	4	4	4	4	4
小型底びき網	718	715	683	676	587	451
まき網	4	4	3	4	3	2
刺網	506	477	461	370	289	272
釣	558	540	534	348	272	268
はえ縄	96	94	94	84	63	62
地びき網	17	19	20
船びき網	139	131	130	139	118	129
小型定置網	107	103	100	83	63	61
その他の網漁業	28	25	9
採貝	1,055	1,009	1,026
採藻	90	92	89
採貝・採藻	1,027	981	687
潜水器	142	159	157	138	139	142
その他の漁業	421	402	381	272	267	230
のり養殖業	468	454	426	358	244	191
わかめ養殖業	92	100	99	58	95	82
その他養殖業	10	8	8	9	7	3

資料：18年以前は「稼動量調査」、20、25、30年は「漁業センサス」（農林水産省統計部）
 注）19年以降は漁業センサス年のみの公表となった。

8 市町別海面漁業・養殖業経営体数

年	16	17	18	20	25	30
市町						
県計	2,741	2,700	2,659	2,530	2,348	1,924
弥富市	3	3	-	-	-	-
常滑市	211	210	195	189	171	148
半田市	-	-	-	-	-	1
武豊町	-	-	-	-	-	1
美浜町	131	129	129	117	105	86
南知多町	983	963	957	893	828	757
碧南市	54	53	53	47	60	25
西尾市	60	51	49	52	634	454
一色町	496	477	480	459		
吉良町	87	86	84	79		
幡豆町	99	96	95	98		
刈谷市	1	1	1	1	1	-
蒲郡市	99	94	82	81	66	68
豊橋市	9	13	14	15	-	-
田原市	63	524	520	499	483	384
赤羽根町						
渥美町	445					

資料：18年以前は「稼動量調査」、20、25、30年は「漁業センサス」（農林水産省統計部）

注) 15年に田原町と赤羽根町が合併したため、統計上の区分が田原市となった。
 17年に田原市と渥美町が合併したため、統計上の区分が田原市となった。
 23年に西尾市、一色町、吉良町、幡豆町が合併したため、統計上の区分が西尾市となった。
 19年以降は、漁業センサス年のみの公表となった。

9 内水面養殖業経営体数

年	24	25	26	27	28	29
区分						
ます類	14	14	11	12	12	10
あゆ	16	16	16	16	16	16
こい	16	16	16	14	14	14
うなぎ	140	137	139	136	135	134
きんぎょ	114	112	103	95	91	87
計	300	295	285	273	268	261

資料：県水産課調べ

10 男女別男子年齢別漁業就業者数

年	区分	合計	男子				女子	
			計	15～24才	25～39才	40～59才		60才以上
15		5,304	4,091	178	679	1,467	1,767	1,213
20		4,964	4,015	132	637	1,356	1,890	949
25		4,319	3,555	159	586	1,142	1,668	764
30		3,373	2,937	108	433	1,022	1,374	436

資料：15年は「稼動量調査」、20、25、30年は「漁業センサス」（農林水産省統計部）

11 新規漁業就業者数

年度	海部	知多	西三河	新城設楽	東三河	計	中学校卒	高等学校卒	その他学卒	その他(転職等)
23	0	7	17	0	3	27	4	9	3	11
24	0	21	13	0	6	40	2	9	0	29
25	0	10	16	0	3	29	2	5	0	22
26	1	12	7	0	0	20	1	3	3	13
27	0	22	7	0	3	32	0	3	10	19
28	2	8	3	0	5	18	1	4	1	12
29	0	10	2	2	7	21	1	4	2	14

注) 23年度から調査期間を変更している。

資料：県水産課調べ

12 高校卒業者の卒後状況

年	新卒者 総数	大学等 進学者	就業者						その他	漁業就業者 /全就業者 (%)
			総数	第1次産業			第2次産業	第3次産業 ・その他		
				小計	農業・林業	漁業				
23	60,168	35,464	10,278	48	33	15	6,383	3,847	14,426	0.15
24	60,584	35,471	10,869	58	43	15	6,691	4,120	14,244	0.14
25	62,695	36,553	11,127	34	26	8	6,542	4,551	15,015	0.07
26	61,326	35,861	11,432	50	39	11	6,435	4,947	14,033	0.10
27	63,156	37,139	11,819	35	24	11	6,896	4,888	14,198	0.09
28	63,579	37,350	12,192	53	40	13	7,453	4,686	14,037	0.11
29	65,204	37,728	12,696	45	36	9	7,760	4,891	14,780	0.07
30	64,684	37,655	12,618	40	28	12	7,976	4,602	14,411	0.10

注) 各年3月卒業者

資料: 学校基本調査結果(県統計課)

13 漁業権免許件数一覧表

種類 内訳	共同漁業権				区画 漁業権	合計	
	第1種 第2種	第3種 (つきいそ)	第5種	計			
海面	知多	12	71	-	83	38	121
	西三河	5	30	-	35	21	56
	東三河	19	19	-	38	37	75
	小計	36	120	0	156	96	252
内水面	-	-	23	23	2	25	
県計	36	120	23	179	98	277	

注) 1. 海面第3種共同漁業権については、
つきいそ以外は第1種・第2種の欄に
含めてある。

2. 31年1月1日現在の件数である。

資料: 県水産課調べ

14 遊漁船業者登録件数(30年3月31日現在)

地区	尾張・名古屋市	海部	知多	西三河	東三河	その他	計
遊漁船業者数 (うち漁協所屬業者数)	45 (0)	10 (0)	168 (154)	24 (9)	24 (17)	7 (0)	278 (180)
遊漁船隻数 (うち漁船隻数)	53 (0)	14 (0)	190 (175)	43 (25)	31 (20)	7 (0)	338 (220)

注) その他は、豊田加茂地区、新城設楽地区の合計

資料: 県水産課調べ

15 漁家経済

(単位: 千円)

年	項目	事業 所得	漁労外事業所得				漁労所得									
			漁労 所得	漁労外 事業 所得	漁労外 事業 収入	漁労外 事業 支出	漁労 収入	漁労支出								
								計	雇用 労賃	漁船・ 漁具費	油費	種苗代	修繕費	販売 手数料	減価 償却費	その他 支出
漁船漁業	24	3,263	2,680	583	910	327	8,071	5,391	1,185	214	1,289	-	532	451	615	1,105
	25	2,982	2,892	90	386	296	9,033	6,141	1,443	255	1,577	-	518	520	532	1,296
	26	3,205	3,121	84	108	24	13,947	10,826	2,529	1,138	2,307	-	873	713	883	2,383
	27	3,101	3,002	99	170	71	13,066	10,064	2,379	1,192	1,647	-	985	676	707	2,478
	28	3,812	3,775	37	43	6	11,917	8,142	1,880	642	1,159	-	999	573	624	2,265
	29	3,423	3,142	281	419	138	10,031	6,889	1,966	503	895	1	498	552	670	1,804
のり養殖業	24	6,528	5,857	671	1,630	959	20,163	14,306	2,085	1,412	2,080	91	1,880	1,331	1,564	3,863
	25	3,406	2,885	521	1,568	1,047	15,002	12,117	1,734	1,301	1,933	99	1,088	994	1,393	3,575
	26	7,044	6,373	671	1,579	908	19,429	13,056	1,637	1,294	2,270	95	1,345	1,285	1,166	3,964
	27	8,519	7,751	768	1,556	788	21,883	14,132	1,791	1,318	1,876	101	1,596	1,493	1,196	4,761
	28	8,283	8,227	56	486	430	21,784	13,557	2,103	1,606	1,173	164	1,167	1,417	1,469	4,458
	29	12,896	12,721	175	348	173	33,520	20,799	3,798	1,415	2,063	209	1,677	2,219	2,075	7,343

注) 調査期間は、歴年(1~12月)。

資料: 漁業経営調査(農林水産省統計部)

漁船漁業の28年以前は東海2県の、29年数値は太平洋中区の数値である。
のり養殖業は東海2県の数値である。

16 漁業近代化資金利子補給承認状況

資金種類 承認額	1号資金(漁船)		2号資金		3号資金		4号資金		5号資金		7号資金		共同利用施設					
	20t以上		20t未満		漁船漁具保管 修理施設等	漁場造成 器具等	漁具養殖 いかだ等	種苗購入等		大臣特認								
年度	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額				
		千円		千円		千円		千円		千円		千円		千円				
24	43	627,100	-	-	22	202,900	4	23,920	3	5,130	-	-	11	143,500	-	-	3	251,650
25	75	719,350	-	-	61	539,360	3	48,540	-	-	-	-	9	123,150	-	-	2	8,300
26	53	817,110	-	-	31	372,760	9	75,760	3	7,410	-	-	9	115,900	-	-	1	245,280
27	48	1,131,910	-	-	26	351,160	6	67,840	4	14,200	-	-	9	123,500	-	-	3	575,210
28	60	676,760	-	-	49	524,880	2	11,900	3	10,680	-	-	9	123,500	-	-	2	5,800
29	66	1,000,700	-	-	38	348,930	6	82,850	7	26,640	-	-	10	153,500	-	-	5	388,780
合計	345	4,972,930	-	-	227	2,339,990	30	310,810	20	64,060	-	-	57	783,050	-	-	16	1,475,020

資料：県水産課調べ

17 漁業振興資金融資状況

(単位：千円)

年度	件数	貸付額
24	9	219,000
25	7	196,500
26	6	194,500
27	7	193,000
28	6	184,500
29	5	189,000

資料：県水産課調べ

18 沿岸漁業改善資金融資状況

(単位：千円)

年度	合計				資金種類別内訳											
	年度内融資		年度末貸付残高		経営等改善資金				生活改善資金				青年漁業者等養成確保資金			
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
24	6	86,850	42	325,417	6	86,850	38	283,417	-	-	-	-	-	-	4	42,000
25	5	92,050	42	350,608	4	72,050	37	296,608	-	-	-	-	1	20,000	5	54,000
26	0	0	38	277,676	-	-	33	231,676	-	-	-	-	-	-	5	46,000
27	7	90,768	39	297,765	7	90,768	35	261,989	-	-	-	-	-	-	4	35,776
28	2	23,360	37	245,840	2	23,360	33	218,286	-	-	-	-	-	-	4	27,554
29	2	26,140	31	198,746	2	26,140	28	179,414	-	-	-	-	-	-	3	19,332
合計	22	319,168	-	-	21	299,168	-	-	-	-	-	-	1	20,000	-	-

資料：県水産課調べ

19 地域別海水動力漁船隻数

年	地 域	総数	5t未満	5～10t	10～15t	15t以上
18	全 県	6,145	5,276	429	403	37
	海 部	22	22	-	-	-
	知 多	3,139	2,600	252	274	13
	西 三 河	1,602	1,379	108	104	11
	東 三 河	1,382	1,275	69	25	13
23	全 県	5,440	4,660	367	379	34
	海 部	49	49	-	-	-
	知 多	2,778	2,263	237	264	14
	西 三 河	1,335	1,165	72	90	8
	東 三 河	1,278	1,183	58	25	12
24	全 県	5,315	4,542	359	379	35
	海 部	51	51	-	-	-
	知 多	2,703	2,192	235	261	15
	西 三 河	1,311	1,143	68	92	8
	東 三 河	1,250	1,156	56	26	12
25	全 県	5,125	4,376	348	368	33
	海 部	51	51	-	-	-
	知 多	2,598	2,098	231	254	15
	西 三 河	1,274	1,115	64	88	7
	東 三 河	1,202	1,112	53	26	11
26	全 県	4,965	4,240	331	364	30
	海 部	49	49	-	-	-
	知 多	2,522	2,033	222	253	14
	西 三 河	1,239	1,088	59	85	7
	東 三 河	1,155	1,070	50	26	9
27	全 県	4,831	4,119	321	361	30
	海 部	46	46	-	-	-
	知 多	2,467	1,984	216	253	14
	西 三 河	1,198	1,054	58	80	6
	東 三 河	1,120	1,035	47	28	10
28	全 県	4,680	3,971	319	361	29
	海 部	46	46	-	-	-
	知 多	2,423	1,942	215	252	14
	西 三 河	1,141	999	56	81	5
	東 三 河	1,070	984	48	28	10
29	全 県	4,481	3,783	310	359	29
	海 部	43	43	-	-	-
	知 多	2,365	1,890	210	251	14
	西 三 河	1,040	903	52	80	5
	東 三 河	1,033	947	48	28	10

資料：漁船統計表（水産庁）

20 海水動力漁船機関種類別隻数、トン数及び馬力数

年	機関種類	総 数			5トン未満			5トン以上		
		隻 数	ト ン	馬力数	隻 数	ト ン	馬力数	隻 数	ト ン	馬力数
18	ジーゼル	2,238	13,945	269,695	1,369	4,186	113,087	869	9,760	156,608
	電気点火	3,907	3,216	149,334	3,907	3,216	149,334	-	-	-
	計	6,145	17,161	419,029	5,276	7,401	262,421	869	9,760	156,608
23	ジーゼル	1,915	12,369	293,237	1,135	3,587	110,717	780	8,783	182,520
	電気点火	3,525	2,949	172,677	3,525	2,949	172,677	-	-	-
	計	5,440	15,318	465,914	4,660	6,536	283,394	780	8,783	182,520
24	ジーゼル	1,867	12,235	297,061	1,094	3,493	109,315	773	8,742	187,746
	電気点火	3,448	2,879	175,207	3,448	2,879	175,207	-	-	-
	計	5,315	15,113	472,268	4,542	6,372	284,522	773	8,742	187,746
25	ジーゼル	1,776	11,812	299,728	1,027	3,316	106,478	749	8,495	193,250
	電気点火	3,349	2,798	179,081	3,349	2,798	179,081	-	-	-
	計	5,125	14,609	478,809	4,376	6,114	285,559	749	8,495	193,250
26	ジーゼル	1,706	11,475	305,118	981	3,202	106,390	725	8,273	198,728
	電気点火	3,259	2,741	183,343	3,259	2,741	183,343	-	-	-
	計	4,965	14,216	488,461	4,240	5,943	289,733	725	8,273	198,728
27	ジーゼル	1,652	11,230	310,771	940	3,077	108,264	712	8,153	202,507
	電気点火	3,179	2,692	185,715	3,179	2,692	185,715	-	-	-
	計	4,831	13,922	496,486	4,119	5,769	293,979	712	8,153	202,507
28	ジーゼル	1,596	11,040	320,841	887	2,925	108,803	709	8,115	212,038
	電気点火	3,084	2,621	183,479	3,084	2,621	183,479	-	-	-
	計	4,680	13,661	504,320	3,971	5,546	292,282	709	8,115	212,038
29	ジーゼル	1,535	10,824	327,749	837	2,788	108,953	698	8,036	218,796
	電気点火	2,946	2,522	177,778	2,946	2,522	177,778	-	-	-
	計	4,481	13,347	505,527	3,783	5,311	286,731	698	8,036	218,796

注) 小数第一位を四捨五入することにより、合計値と一致しないことがある。

資料：漁船統計表（水産庁）

21 農林水産統計による漁船隻数

年	総 数	無動力船	船外機付船	動 力 船				
				計	3 t 未満	3 ~ 5 t	5 ~ 10 t	10 t 以上
16	4,559	2	2,485	2,072	526	657	432	457
17	4,339	2	2,334	2,003	482	650	420	451
18	4,308	-	2,335	1,973	471	643	410	449
20	4,426	17	2,621	1,788	406	581	382	419
25	4,021	5	2,299	1,717	496	524	322	375
30	3,154	1	1,900	1,253	248	382	271	352

資料：18年以前は「稼働量調査」、20、25、30年は「漁業センサス」（農林水産省統計部）

注) 使用漁船（ただし運搬船、遊漁船は除く）

19年以降は漁業センサス年次のみ公表となった。

Ⅲ 漁場と資源

22 海域におけるCODの経年変化

(単位：mg/ℓ)

水域区分	水域名	類型	地点名	75%水質値						年平均値					
				24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
伊勢湾	名古屋港(甲)	C	○N-1	7.1	3.5	6.0	5.1	5.3	4.0	6.1	3.5	4.4	4.0	4.6	3.7
			○N-2	4.5	4.4	3.6	4.2	4.5	3.7	3.9	3.9	3.2	3.2	3.5	3.1
			○N-3	3.7	3.7	3.7	3.1	3.6	3.3	3.1	3.4	3.0	2.8	3.1	2.9
			N-10	7.3	3.1	4.5	3.8	3.6	4.3	5.6	2.9	4.0	3.6	3.3	3.7
			N-11	5.3	3.0	6.0	4.3	3.6	4.0	5.2	2.8	4.5	3.6	3.2	3.4
	名古屋港(乙)	B	○N-4	3.6	3.7	3.6	2.6	3.3	3.1	3.1	3.2	3.1	2.3	2.9	2.8
	常滑地先海域	B	○N-5	2.7	3.4	3.7	3.0	3.0	3.5	2.5	2.7	3.0	2.6	2.7	3.2
			N-12	2.6	3.2	2.6	2.9	2.3	5.0	2.4	2.8	2.4	2.5	2.2	3.5
	伊勢湾	A	○N-6	4.0	3.6	3.5	2.7	2.9	3.1	3.1	3.1	2.9	2.3	2.6	2.7
			○N-7	3.0	3.3	3.1	2.8	2.7	3.4	2.5	2.7	2.8	2.3	2.5	3.0
			○N-8	1.9	2.0	2.3	2.1	2.1	3.2	1.9	1.9	1.9	1.8	1.9	2.7
			○N-9	2.1	2.4	2.5	3.0	2.1	2.8	1.8	2.0	2.0	2.2	1.9	2.6
			N-13	1.9	2.6	2.9	2.5	2.2	2.5	1.9	2.1	2.2	2.1	2.0	2.4
衣浦湾	衣浦港	C	○K-1	4.1	4.5	4.9	4.5	3.4	4.3	3.7	3.8	4.0	3.8	3.0	3.9
	衣浦港南部	C	○K-2	4.3	4.6	4.8	4.4	3.3	4.6	3.6	4.2	3.9	3.6	3.1	4.1
			○K-3	4.2	4.5	5.0	4.6	4.2	4.0	3.2	3.4	3.7	3.4	3.2	3.7
	衣浦湾	A	○K-4	3.1	3.2	3.6	3.5	3.0	3.6	2.7	3.0	3.1	2.9	2.6	3.3
			○K-5	2.7	3.1	3.0	2.7	2.3	2.7	2.3	2.5	2.5	2.2	2.2	2.5
			○K-6	3.3	3.2	3.7	2.8	2.3	3.5	2.5	2.7	2.8	2.5	2.2	2.9
			K-7	3.3	3.6	3.7	3.0	2.6	3.2	2.7	3.0	3.0	2.7	2.4	3.0
			K-8	3.0	3.3	3.2	3.1	2.7	3.4	2.5	3.0	3.2	2.9	2.5	3.1
渥美湾	蒲郡地先海域	C	○A-1	4.2	3.9	4.4	4.5	3.3	4.6	3.6	3.6	4.0	3.9	3.1	4.1
			○A-2	4.3	4.0	5.1	4.4	3.6	5.1	3.6	3.8	4.2	5.4	3.5	4.7
	神野・田原地先海域	C	○A-3	6.0	6.2	6.2	6.7	6.3	6.6	5.0	5.1	5.5	5.9	5.3	5.0
			○A-4	4.1	4.0	4.5	4.7	4.1	4.6	3.7	4.0	3.7	4.1	3.6	4.2
			A-11	4.9	3.3	4.2	5.7	4.6	4.2	4.2	3.1	3.9	5.1	4.2	3.8
			A-12	4.5	4.5	5.6	5.8	5.0	4.4	4.1	4.2	4.3	5.6	4.1	4.2
	渥美湾(甲)	B	○A-5	4.1	3.7	3.4	4.2	3.1	4.0	3.3	3.4	3.0	3.5	2.8	3.6
			○A-6	4.1	4.0	4.4	4.2	3.4	4.7	3.5	3.8	3.9	3.9	3.3	4.1
			A-10	4.6	4.0	4.5	4.8	3.7	4.6	3.7	4.0	4.6	4.1	3.5	4.3
			A-13	5.2	3.6	5.1	5.7	5.1	4.9	4.8	3.4	4.4	5.4	4.4	4.5
	渥美湾(乙)	A	○A-7	3.3	4.0	3.6	3.7	3.5	3.8	3.2	3.7	3.2	3.4	3.1	3.6
			○A-8	3.2	3.1	3.2	3.7	3.0	3.7	3.0	3.1	2.8	3.0	2.6	3.3
			○A-9	3.3	3.8	3.4	3.8	3.3	3.7	2.9	3.6	3.8	3.3	2.9	3.5
			A-14	3.1	3.6	3.5	3.2	2.6	3.7	2.6	3.1	3.0	2.8	2.4	3.4

注) 1. 地点名の○印は環境基準地点である。

資料：公共用水域の水質調査（県環境部）

2. 75%水質値は、海域におけるCODの環境基準適合状況を判断するためのものである。

3. 各類型の基準値はA：2mg/ℓ以下、B：3mg/ℓ以下、C：8mg/ℓ以下である。

23 河川・湖沼における主要環境基準地点のBOD（COD）の経年

(単位：mg/ℓ)

河川名	地点名	環境基準	75% 水質値						年平均値					
			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
木曾川	犬山橋	A. 2mg/ℓ	1.0	0.9	0.7	0.6	1.1	0.6	0.9	0.7	0.6	0.6	0.9	0.6
"	濃尾大橋	A. 2 "	1.0	0.9	0.6	0.6	0.7	0.5	0.9	0.8	0.5	0.6	0.8	0.6
日光川	日光大橋	E. 10 "	3.9	4.7	4.8	3.2	3.4	4.3	3.6	3.7	4.4	2.9	3.2	3.4
新川	萱津橋	E. 10 "	4.0	3.2	3.4	3.0	3.4	3.5	3.2	2.9	3.1	2.7	3.0	3.5
五条川	待合橋	E. 10 "	3.4	2.7	3.1	1.5	2.5	2.1	2.2	2.5	2.4	1.2	2.1	2.1
庄内川	枇杷島橋	D. 8 "	4.1	3.3	2.7	2.9	2.7	3.0	3.2	2.8	2.2	2.5	2.4	2.6
矢田川	大森橋	D. 8 "	7.1	6.5	7.1	5.7	7.5	5.1	5.1	6.3	6.2	4.9	5.5	5.0
荒子川	荒子川ポンプ所	E. 10 "	5.6	9.5	7.4	5.8	4.7	5.4	4.8	6.7	6.3	4.8	4.4	4.9
中川	運東海橋	E. 10 "	6.8	7.0	10.0	8.2	9.7	7.6	6.8	7.8	7.8	6.3	8.3	6.3
堀川	港新橋	D. 8 "	4.8	5.8	5.2	4.2	6.5	5.8	4.4	5.0	8.1	3.5	5.8	5.6
境川	境大橋	C. 5 "	3.4	2.8	2.6	2.2	2.3	2.6	3.4	2.5	2.1	2.7	2.1	2.1
逢妻川	境大橋	D. 8 "	3.6	3.7	2.2	3.0	2.8	3.0	3.3	3.1	3.5	3.1	2.0	2.4
矢作川	明治用水頭首下	A. 2 "	0.8	1.3	1.0	0.9	0.9	0.8	0.8	1.1	0.8	0.7	0.8	0.8
"	米津大橋	B. 3 "	0.9	1.4	0.6	0.6	1.0	0.7	0.8	1.2	0.6	0.6	0.9	0.7
矢作川	古川頭首工	C. 5 "	1.4	1.0	2.4	1.7	1.6	1.6	1.2	1.0	1.8	1.4	1.5	1.1
豊川	江島橋	A. 2 "	0.5	1.1	0.9	0.7	0.7	0.7	0.6	1.0	0.7	0.6	0.7	0.7
"	吉田大橋	B. 3 "	0.8	1.6	0.9	0.8	1.0	0.9	0.7	1.2	0.7	0.7	0.8	0.9
梅田川	御厩橋	C. 5 "	2.8	3.2	3.0	3.7	3.7	3.0	2.6	2.9	2.5	3.3	2.9	2.8
油ヶ淵	中央	B. 5 "	7.5	7.7	7.5	7.2	7.4	7.4	6.8	6.9	6.9	6.5	6.9	6.7

注) 油ヶ淵・中央については、CODの値である。

資料：公共用水域の水質調査（県環境部）

24 海域における全窒素・全磷の年平均値の経年変化

(単位：mg/ℓ)

水域名	類型	地点名	全窒素						全磷					
			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
伊勢湾(イ)	IV	N-2	1.10	0.85	0.83	0.93	0.88	0.85	0.100	0.083	0.086	0.096	0.097	0.095
		N-3	0.60	0.52	0.53	0.60	0.60	0.60	0.065	0.053	0.055	0.066	0.073	0.069
		N-4	0.48	0.44	0.43	0.45	0.37	0.42	0.056	0.044	0.049	0.048	0.048	0.053
伊勢湾(ハ)	III	N-6	0.47	0.41	0.35	0.38	0.34	0.37	0.053	0.042	0.043	0.044	0.050	0.048
伊勢湾(ニ)	II	N-5	0.32	0.25	0.30	0.40	0.32	0.34	0.043	0.029	0.027	0.035	0.033	0.035
		N-7	0.36	0.24	0.33	0.37	0.28	0.34	0.045	0.025	0.028	0.032	0.027	0.032
		N-8	0.29	0.22	0.25	0.28	0.26	0.26	0.034	0.021	0.022	0.024	0.021	0.025
		N-9	0.34	0.23	0.23	0.26	0.26	0.30	0.030	0.019	0.026	0.022	0.016	0.023
		N-13	0.29	0.18	0.23	0.28	0.25	0.28	0.031	0.018	0.018	0.022	0.019	0.021
三河湾(イ)	IV	K-3	0.54	0.37	0.46	0.58	0.51	0.54	0.069	0.062	0.057	0.078	0.064	0.075
三河湾(ロ)	III	A-1	0.34	0.32	0.42	0.42	0.38	0.38	0.043	0.042	0.051	0.043	0.048	0.039
		A-4	0.51	0.50	0.55	0.56	0.46	0.47	0.066	0.054	0.075	0.061	0.052	0.049
		A-5	0.39	0.32	0.32	0.40	0.35	0.39	0.048	0.034	0.033	0.044	0.034	0.037
		A-6	0.39	0.34	0.40	0.44	0.40	0.41	0.048	0.039	0.046	0.049	0.048	0.040
三河湾(ハ)	II	K-4	0.35	0.27	0.38	0.37	0.41	0.38	0.042	0.040	0.039	0.042	0.042	0.041
		K-5	0.33	0.25	0.29	0.30	0.35	0.32	0.038	0.030	0.030	0.032	0.035	0.032
		K-6	0.31	0.21	0.29	0.28	0.27	0.31	0.036	0.027	0.030	0.029	0.026	0.026
		K-8	0.32	0.22	0.29	0.35	0.32	0.34	0.035	0.031	0.032	0.038	0.027	0.031
		A-7	0.33	0.35	0.28	0.36	0.33	0.38	0.040	0.039	0.027	0.035	0.030	0.032
		A-8	0.30	0.24	0.23	0.32	0.29	0.31	0.033	0.025	0.022	0.030	0.026	0.028
		A-9	0.29	0.23	0.32	0.32	0.31	0.35	0.032	0.029	0.040	0.033	0.028	0.032
		A-14	0.32	0.32	0.28	0.37	0.29	0.38	0.032	0.036	0.026	0.030	0.026	0.033

資料：公共用水域の水質調査（県環境部）

25-1 赤潮の経年変化（月別）

年度	月	月												県計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
24	件数	1	5	3	4	2	5	1	1	1	2	1	2	28 (29)
	日数	1	10	11	4	2	12	1	1	3	16	5	15	81 (82)
25	件数	[1] 3	3	4	[2] 3	1	2	[1] 2	0	0	3	[1] 2	0	19 (19)
	日数	7	19	28	15	8	26	5	0	0	21	20	0	149 (149)
26	件数	5	[3] 5	[1] 5	1	5	[2] 5	[1] 4	0	1	[1] 2	1	0	26 (27)
	日数	34	28	31	6	28	23	21	0	18	13	1	0	203 (207)
27	件数	0	4	3	7	9	[2] 5	2	1	[1] 3	[1] 1	0	5	36 (36)
	日数	0	6	4	35	44	17	9	20	20	23	0	6	184 (184)
28	件数	0	4	4	[1] 4	8	[1] 8	[3] 5	1	[1] 2	[1] 1	[1] 1	1	31 (31)
	日数	0	13	21	19	58	22	49	8	22	31	6	1	250 (250)
29	件数	0	5	5	[3] 7	[4] 7	2	4	1	0	2	0	1	27 (27)
	日数	0	26	28	90	75	13	17	3	0	21	0	1	274 (274)

注) 日数は延べ日数

資料：県水産試験場調べ

[]内の数字は前月から引き続いて発生した件数で内数

()内は渥美外海の発生件数を含む件数

25-2 赤潮の経年変化（水域別）

年度	水域	県計	水域区分		
			伊勢湾	知多湾	渥美湾
24	件数	28 (29)	5	7	16
	日数	81 (82)	5	21	55
25	件数	19 (19)	2	4	13
	日数	149 (149)	2	35	112
26	件数	26 (27)	5	8	13
	日数	203 (207)	38	51	114
27	件数	36 (36)	9	14	13
	日数	184 (184)	22	59	103
28	件数	31 (31)	6	8	17
	日数	250 (250)	56	31	163
29	件数	27 (27)	7	7	13
	日数	274 (274)	93	67	114

注) 日数は延べ日数

資料：県水産試験場調べ

()内は渥美外海の発生件数を含む件数

25-3 苦潮発生状況とその漁業被害

年度	発生回数	水域区分			漁業被害
		伊勢湾	知多湾	渥美湾	
24	2 (2)	0	0	2 (2)	あさり操業自粛等
25	2 (1)	0	0	2 (1)	定置網等の入網魚が一部へい死、一部の漁場であさり等へい死
26	2 (1)	0	0	2 (1)	定置網等の入網魚が一部衰弱
27	4 (2)	0	0	4 (2)	魚介類の衰弱、一部の漁場であさり稚貝のへい死
28	14 (5)	0	0	14 (5)	魚介類の衰弱、一部の漁場であさり稚貝のへい死
29	5 (2)	0	0	5 (2)	魚介類の衰弱、一部の漁場であさり稚貝のへい死
30	6 (2)	0	0	6 (2)	魚介類の衰弱、へい死

資料：県水産試験場調べ

注) ()内は魚介類に影響が確認された件数（独立した発生地区ごとに1件とした）

26 漁港整備計画別事業費実績

(単位：百万円)

	年度	水産基盤整備事業				農山漁村地域整備交付金					災害 漁港・海岸	県計
		流通	生産	機能保全	機能強化	漁村再生	漁港環境	漁集環境	水域環境	海岸		
第4次長計	29	0	0	939,024	210,609	157,255	10,000	0	10,000	163,692	0	1,490,580

資料：県水産課調べ

27 沿岸漁業構造改善事業等実績（国庫補助事業）

(1) 漁村コミュニティ基盤整備事業

(単位：千円)

国の事業名	実施年度	事業項目	件数	事業費総額	国費+県費	備考
産地水産業強化支援事業	24~25	渡船場上屋施設整備	1件	102,374	53,957	
水産業強化支援事業	29~30	渡船場上屋施設整備	1件	133,584	80,817	

資料：県水産課調べ

(2) のり養殖経営構造改善事業

(単位：千円)

国の事業名	実施年度	事業項目	件数	事業費総額	国費+県費	備考
産地水産業強化支援事業	24~28	のり共同加工場施設整備	1件	1,712,570	938,723	

資料：県水産課調べ

(3) 水産業競争力強化施設整備事業

(単位：千円)

国の事業名	実施年度	事業項目	件数	事業費総額	国費+県費	備考
水産業競争力強化緊急施設整備事業	28~29	鮮度保持施設整備	1件	672,800	336,400	

資料：県水産課調べ

(4) のり競争力強化対策事業

(単位：千円)

国の事業名	実施年度	事業項目	件数	事業費総額	国費+県費	備考
水産業強化支援事業	29~30	のり共同加工場施設整備	5件	237,575	142,304	

資料：県水産課調べ

(5) 水産業強化対策整備事業

(単位：千円)

国の事業名	実施年度	事業項目	件数	事業費総額	国費+県費	備考
水産業強化支援事業	30	鮮度保持施設	1件	39,550	21,752	

資料：県水産課調べ

28 水産振興対策事業実績（県補助事業）
 漁村活性化総合対策事業実績（29・30年度）

（金額単位：円）

年度	補助対象施設	事業主体	事業実施主体	事業内容	補助対象 事業費	負担区分	
						県費	その他
29	燃料等補給施設	常滑市	鬼崎漁協	給油施設の改修	2,247,000	1,123,000	1,124,000
	水産物荷さばき施設	南知多町	片名漁協	上屋塗装、防鳥ネット	23,150,000	11,575,000	11,575,000
				屋根改良、照明器具LED改良	4,322,600	2,161,000	2,161,600
	水産物鮮度保持施設	西尾市	西三河漁協	冷凍庫トランス改修	4,250,000	2,125,000	2,125,000
				海水ろ過装置ろ材機能強化	3,497,000	1,748,000	1,749,000
				幡豆漁協	3,500,000	1,750,000	1,750,000
	水産物加工処理施設	田原市	渥美漁協	海水浄化装置	4,830,000	2,415,000	2,415,000
	漁船保全修理施設	南知多町	豊浜漁協	上架施設更新	7,480,000	3,740,000	3,740,000
			師崎漁協	上架船台	6,921,000	3,460,000	3,461,000
	運搬施設	南知多町	豊浜漁協	フォークリフト	1,690,000	845,000	845,000
			師崎漁協	フォークリフト	1,420,000	710,000	710,000
			篠島漁協	フォークリフト	1,930,000	965,000	965,000
	種苗生産施設	南知多町	日間賀島漁協	海苔糸状体海水冷却器	2,496,500	1,248,000	1,248,500
種苗生産施設の附帯施設	常滑市	鬼崎漁協	ICTブイ導入	2,694,600	1,100,000	1,594,600	
29年度計					70,428,700	34,965,000	35,463,700
30	漁場の耕耘整地	西尾市	西三河漁協	漁場の耕耘・整地	6,700,000	3,232,000	3,468,000
	水産物荷さばき施設	南知多町	豊浜漁協	魚類移送機	8,890,000	4,224,000	4,666,000
			師崎漁協	海苔出荷場外壁等改修	6,107,000	3,000,000	3,107,000
	水産物鮮度保持施設	美浜町	野間漁協	冷凍施設更新	25,500,000	12,750,000	12,750,000
	水産物加工処理施設	田原市	愛知外海漁協	製氷機更新	11,976,829	5,988,000	5,988,829
	水産物加工処理施設	常滑市	鬼崎漁協	海苔脱水機更新	9,585,000	4,792,000	4,793,000
	運搬施設	南知多町	篠島漁協	フォークリフト	1,930,000	965,000	965,000
30年度計					70,688,829	34,951,000	35,737,829

29 漁場整備事業実績

あさりとさかな漁場総合整備事業（公共）

	年度	箇所数	事業量	事業費 千円	国費 千円	県費 千円	地元 千円	備考			
								年度	地区名	干潟・浅場造成	漁業外海漁場整備
第3次長計	25～28	11	19.9ha 10,301空m3	665,350	325,014	340,336	—	25	愛知県海域・遠州灘	西尾、田原	高松西部、軍艦、高松中部
第4次長計	29～30	5	9.9ha 3,273.1空m3	332,484	162,489	169,995	—	26	#	西尾、田原	高松中部
								27	#	西尾、衣笠	
								28	#	西尾、衣笠	
								30	#	衣笠、田原	

資料：県水産課調べ

IV 漁業生産

30 漁業総生産

項目		年										
		20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
生産量 (t)	海面	漁業	90,301	70,184	81,045	77,478	75,171	81,039	80,949	72,056	77,711	69,970
		養殖業	21,968	19,013	17,564	14,989	15,496	15,338	14,906	12,679	13,330	13,746
		計	112,269	89,197	98,609	92,467	90,667	96,377	95,855	84,735	91,041	83,716
	内水面	漁業	281	272	238	197	178	422	319	165	145	123
		養殖業	7,282	8,566	6,082	6,759	5,114	4,381	6,222	6,485	6,127	7,146
		計	7,563	8,838	6,320	6,956	5,292	4,803	6,541	6,650	6,272	7,269
	合計		119,832	98,035	104,929	99,423	95,959	101,180	102,396	91,385	97,313	90,985
きんぎょ (千尾)		14,933	13,290	11,267	15,646	13,504	11,802	9,195	8,527	8,495	5,987	
産出額 (百万円)	海面	漁業	20,308	16,469	17,420	16,171	18,502	16,504	16,735	17,975	14,406	12,632
		養殖業	5,661	5,054	4,668	4,084	4,453	3,670	4,525	3,950	4,488	5,105
		計	25,969	21,523	22,088	20,256	22,955	20,174	21,261	21,925	18,894	17,737
	内水面	漁業	587	575	430	397	386	508	441	322	328	330
		養殖業	13,666	15,490	11,283	15,246	13,778	12,876	16,480	17,641	19,157	21,531
		計	14,253	16,065	11,713	15,643	14,164	13,384	16,921	17,963	19,485	21,861
	合計		40,222	37,588	33,801	35,899	37,119	33,558	38,182	39,888	38,379	39,598
うち きんぎょ		722	598	475	683	666	587	512	461	430	333	

資料：海面漁業生産統計調査、内水面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）、県水産課調べ

注) 内水面漁業の生産量、きんぎょは県水産課調べ。
内水面漁業・養殖業の産出額は、県水産課が推計。
小数第一位を四捨五入することにより、合計値と一致しないことがある。

31 主要市町別海面漁業・養殖業生産量 (29年)

(単位：t)

区分		海面漁業	海面養殖業
市町			
県計		69,970	13,746
常滑市		347	4,449
美浜町		193	1,877
南知多町		35,403	5,363
その他		—	—
知多計		35,943	11,689
高浜市		—	—
碧南市		14,991	—
西尾市		4,238	1,382
その他		x	—
西三河計		x	1,382
蒲郡市		3,532	—
豊橋市		x	—
田原市		11,253	675
その他		—	—
東三河計		x	675

資料：海面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）

32 海面漁業種類別地域別漁獲量

(単位：t)

年	地域別	沖合底 びき網	小型底 びき網	まき網	刺網	釣	その他 え縄	小型 定置網	船びき網 ばち網	採貝 採藻	その他 漁業	計
20	県計	1,626	23,551	x	592	875	71	358	39,367	17,017	x	90,301
	知多	-	5,224	-	290	865	68	116	32,552	305	1,240	40,662
	西三河	-	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
	東三河	1,626	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
21	県計	1,423	20,656	915	497	880	83	260	28,231	14,264	2,975	70,184
	知多	-	3,651	-	255	871	80	62	23,615	273	1,288	30,094
	西三河	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
	東三河	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
22	県計	1,332	18,961	2,571	475	729	49	x	38,477	15,231	2,942	81,045
	知多	-	3,707	-	254	716	48	86	28,906	233	1,301	35,250
	西三河	-	x	2,571	x	-	-	x	7,834	5,069	x	x
	東三河	1,332	1,644	-	x	13	-	125	1,737	9,928	x	x
23	県計	1,113	18,615	2,511	459	596	x	254	35,183	15,502	x	77,478
	知多	-	3,173	-	235	579	41	77	27,716	262	1,558	33,641
	西三河	-	x	2,511	x	3	x	64	6,183	4,623	x	x
	東三河	1,113	1,722	-	x	14	-	113	1,285	10,618	x	x
24	県計	1,329	18,969	x	466	613	41	240	32,602	16,928	x	75,171
	知多	-	3,495	-	236	594	36	73	27,102	372	1,953	33,861
	西三河	-	13,873	x	x	4	5	51	4,405	6,124	x	x
	東三河	1,329	1,604	-	x	16	-	115	1,095	10,432	x	x
25	県計	1,045	18,056	x	498	624	27	218	41,433	14,953	x	81,039
	知多	-	3,507	-	224	605	24	58	32,385	411	1,881	39,095
	西三河	-	13,427	x	198	2	2	53	7,535	5,670	x	x
	東三河	1,045	1,122	-	76	17	-	106	1,512	8,872	x	x
26	県計	861	12,328	x	505	x	49	259	47,954	13,268	3,493	80,949
	知多	-	2,910	-	229	629	47	69	37,086	393	1,927	43,290
	西三河	-	8,354	x	235	1	2	51	9,584	4,644	x	x
	東三河	861	1,063	-	41	x	-	140	1,283	8,232	x	x
27	県計	1,053	12,034	x	526	730	64	264	39,209	13,175	x	72,056
	知多	-	2,743	-	184	689	60	73	31,281	378	x	x
	西三河	-	8,127	x	268	2	2	46	6,756	3,737	x	x
	東三河	1,053	1,164	-	75	39	-	144	1,173	9,059	x	x
28	県計	1,376	9,349	x	641	756	46	270	47,590	12,408	2,452	77,711
	知多	-	2,685	-	288	720	45	95	36,176	370	1,426	41,805
	西三河	-	5,641	x	x	1	1	42	9,991	1,909	x	x
	東三河	1,376	1,023	-	x	36	-	132	1,423	10,130	x	x
29	県計	1,427	6,800	x	606	773	47	276	43,238	10,801	2,443	69,970
	知多	-	2,198	-	416	738	46	140	30,639	234	1,531	35,943
	西三河	-	3,718	x	x	1	1	17	11,257	351	x	x
	東三河	1,427	884	-	x	35	-	119	1,342	10,214	x	x

資料：海面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）

33 海面漁業魚種別漁獲量

(単位：t)

魚種		年										
		20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
魚類	主な浮魚	このしろ	585	244	539	982	274	385	253	179	112	122
		まいわし	1,786	59	2,481	4,229	1,141	1,263	5,927	11,904	18,764	30,209
		かたくちいわし	23,916	21,307	19,482	17,404	15,168	28,829	27,386	14,848	22,570	11,246
		しらす	11,495	5,334	5,382	6,492	7,433	6,229	8,936	11,445	8,445	5,039
		あじ類	671	721	507	373	476	433	314	258	241	231
		さば類	193	224	283	120	166	168	314	208	208	228
		いかなご	4,352	1,267	11,589	6,777	8,209	4,827	6,230	2,247	-	-
	主な底魚	ひらめ	144	175	141	135	167	112	133	186	182	176
		かれい類	1,112	1,032	875	836	675	611	627	603	391	341
		あなご類	764	613	535	415	413	313	456	351	319	269
		にぎす類	661	599	536	331	556	418	377	419	419	426
		まだい	274	299	250	260	247	219	325	419	551	595
		くろだい・へだい	355	330	313	306	324	319	409	414	351	356
		すずき類	554	636	529	515	516	563	542	598	629	458
		とらふぐ※	81	129	69	63	63	36	61	82	57	69
あおめえそ※	-	-	501	451	427	351	307	399	460	381		
その他魚類		4,661	3,892	3,074	3,255	3,087	2,644	2,273	2,766	3,158	2,655	
計		51,604	36,861	47,086	42,944	39,342	47,720	54,870	47,326	56,857	52,801	
貝類	あさり類	19,278	18,263	17,635	16,703	17,562	16,063	10,563	8,282	3,973	1,635	
	あわび類	3	2	2	1	3	4	2	2	2	2	
	その他貝類	4,804	3,852	3,520	4,154	5,228	5,756	4,833	5,790	5,231	4,563	
	計	24,085	22,117	21,157	20,858	22,793	21,823	15,398	14,074	9,206	6,200	
水産動物類	いか類	1,036	1,172	966	813	945	864	1,043	683	630	711	
	たこ類	559	428	446	673	604	702	280	414	594	346	
	くるまえび	96	76	77	83	91	62	59	72	79	64	
	よしえび※	-	-	-	30	32	17	13	12	11	18	
	その他えび類	1,170	682	1,281	1,530	694	652	714	731	764	365	
	がざみ類	251	196	457	606	629	492	341	316	248	219	
	その他かに類	66	61	47	48	56	34	39	48	41	47	
	なまこ類※	184	159	169	209	179	130	163	191	150	199	
	しゃこ※	527	414	518	414	377	205	323	266	216	103	
その他水産動物類	35	75	8	26	58	82	44	68	99	45		
計		3,924	3,264	3,969	4,434	3,666	3,240	3,020	2,800	2,831	2,118	
藻類		10,688	7,942	8,833	9,242	9,370	8,256	7,661	7,856	8,817	8,851	
合計		90,301	70,184	81,045	77,478	75,171	81,039	80,949	72,056	77,711	69,970	

資料：海面漁業生産統計調査（農林水産省統計部） ※印の魚種は県調べ

注) 小数第一位を四捨五入することにより、合計値と一致しないことがある。

34 海面漁業魚種別産出額

(単位：百万円)

魚種		年										
		20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
魚類	主な浮魚	このしろ	52	19	43	38	19	30	21	20	15	21
		まいわし	205	12	342	237	120	153	356	631	901	1,297
		かたくちいわし	813	682	487	487	516	951	822	445	745	439
		しらす	3,736	2,624	2,481	2,571	4,400	2,155	3,592	5,219	3,724	2,786
		あじ類	277	311	387	186	213	237	150	151	167	155
		さば類	63	86	61	40	45	56	61	62	81	86
		いかなご	897	267	1,182	583	624	816	910	510	-	-
	主な底魚	ひらめ	139	185	148	141	131	122	135	172	190	197
		かれい類	312	335	294	274	229	210	220	214	144	137
		あなご類	354	328	373	284	281	229	344	206	242	277
		にぎす類	104	102	100	81	90	75	83	84	82	85
	主な内湾魚	まだい	291	313	296	280	295	220	309	344	428	476
		くろだい・へだい	125	142	142	142	150	151	178	166	149	170
		すずき類	308	323	290	309	311	303	296	313	323	264
その他魚類		2,133	1,950	1,816	1,778	1,719	1,536	1,506	1,924	1,974	1,775	
計		9,809	7,679	8,442	7,431	9,143	7,244	8,983	10,461	9,165	8,165	
貝類	あさり類	5,552	5,260	4,973	4,476	4,865	4,610	3,053	2,476	1,260	830	
	あわび類	23	16	8	9	16	18	10	13	10	10	
	その他貝類	2,386	1,528	1,655	1,744	2,116	2,460	2,540	2,883	1,784	1,711	
	計	7,961	6,804	6,636	6,229	6,997	7,088	5,603	5,372	3,054	2,551	
水産動物類	いか類	329	447	372	298	337	306	423	267	258	310	
	たこ類	352	148	303	430	404	445	199	300	399	334	
	くるまえび	441	338	313	336	325	269	263	370	436	380	
	その他えび類	473	400	508	430	356	393	430	407	375	265	
	がざみ類	206	152	301	445	400	337	278	241	203	183	
	その他かに類	28	27	22	21	26	15	18	24	23	25	
	その他水産動物類	548	348	435	478	439	334	454	461	388	278	
	計	2,378	1,859	2,254	2,437	2,287	2,106	2,072	2,071	2,081	1,774	
藻類		160	127	88	74	75	66	77	71	106	142	
合計		20,308	16,469	17,420	16,171	18,502	16,504	16,735	17,975	14,406	12,632	

資料：海面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）

注）小数第一位を四捨五入することにより、合計値と一致しないことがある。

35 海面漁業種類別魚種別漁獲量 (29年)

(単位: t)

漁業種類 魚種	愛知県	うち、主な漁業種類							
		沖合底 びき網	小型底 びき網	船び き網	まき網	刺網	小型 定置網	はえ縄	採貝 採藻
魚 類 計	52,801	1,250	3,087	43,234	x	429	265	47	-
さ め 類	6	1	4	-	x	-	0	-	-
こ の し ろ	122	-	7	25	x	15	77	-	-
ま い わ し	30,209	0	9	27,517	x	1	59	-	-
う る め い わ し	41	-	0	38	x	-	0	-	-
か た く ち い わ し	11,246	-	0	10,331	x	-	0	-	-
し ら す	5,039	-	-	5,039	x	-	-	-	-
あ じ 類	231	14	107	16	x	3	7	-	-
さ ば 類	228	0	19	116	x	0	0	-	-
ぶ り 類	101	-	14	10	x	5	3	0	-
ひ ら め	176	3	142	0	x	5	2	0	-
か れ い 類	341	17	261	0	x	39	7	0	-
に ぎ す 類	426	215	211	-	x	0	0	-	-
あ な ご 類	269	24	103	0	x	7	0	-	-
た ち う お	46	1	25	0	x	0	0	-	-
ま だ い	595	11	487	27	x	20	1	0	-
くろだい・へだい	356	18	256	3	x	26	20	-	-
す ず き 類	458	-	283	34	x	15	29	0	-
い か な ご	-	-	-	-	x	-	-	-	-
ふ ぐ 類	162	7	93	3	x	6	4	45	-
そ の 他 魚 類	2,747	939	1,066	75	x	289	58	2	-
水 産 動 物 類 計	2,118	177	1,470	4	x	135	12	0	-
く る ま え び	64	-	54	-	x	11	0	-	-
そ の 他 え び 類	384	79	261	0	x	41	0	-	-
が ざ み 類	219	0	119	0	x	47	3	-	-
そ の 他 か に 類	47	16	18	0	x	9	1	-	-
す る め い か	81	23	58	-	x	0	-	-	-
そ の 他 い か 類	630	28	580	4	x	8	7	-	-
た こ 類	346	23	225	0	x	15	1	0	-
そ の 他 水 産 動 物 類	347	8	155	-	x	4	-	-	-
貝 類 計	6,200	0	2,242	-	x	42	-	-	1,955
あ さ り 類	1,635	-	72	-	x	-	-	-	1,561
そ の 他 貝 類	4,565	0	2,170	-	x	42	-	-	394
藻 類	8,851	-	0	-	x	-	-	-	8,846
合 計	69,970	1,427	6,800	43,238	x	606	276	47	10,801

注) 小数第一位を四捨五入することにより、合計値と一致しないことがある。資料: 海面漁業生産統計調査 (農林水産省統計部)

36 地域別のり生産枚数（暦年）

年	地 域	生産量					その他 生重量 (t)	産出額 (百万円)
		生換算重量 (単位：t)	板 の り					
			生産枚数 (千枚)	くろのり (千枚)	まぜのり (千枚)	あおのり (千枚)		
24	県 計	15,003	398,591	380,456	4,016	14,119	54	4,042
	知 多	11,794	313,053	313,053	—	—	54	—
	西三河	2,455	65,455	65,455	—	—	—	—
	東三河	755	20,083	1,948	4,016	14,119	—	—
25	県 計	14,836	394,118	374,405	3,175	16,539	55	3,277
	知 多	12,081	320,729	320,729	—	—	55	—
	西三河	1,944	51,845	51,770	75	—	—	—
	東三河	810	21,544	1,905	3,100	16,539	—	—
26	県 計	14,377	382,303	359,883	3,228	19,192	39	4,173
	知 多	11,811	313,913	313,913	—	—	39	—
	西三河	1,706	45,490	45,490	—	—	—	—
	東三河	861	22,901	481	3,228	19,192	—	—
27	県 計	12,173	323,437	310,014	2,307	11,116	42	3,544
	知 多	10,439	277,268	277,268	—	—	42	—
	西三河	1,224	32,649	32,649	—	—	—	—
	東三河	510	13,520	97	2,307	11,116	—	—
28	県 計	12,798	340,099	327,668	3,455	8,975	34	4,107
	知 多	10,961	291,375	x	x	—	34	—
	西三河	1,442	38,457	x	x	—	—	—
	東三河	396	10,266	108	1,183	8,975	—	—
29	県 計	13,228	345,317	334,044	x	x	27	4,817
	知 多	11,312	300,933	x	x	—	27	—
	西三河	1,302	34,709	32,908	1,801	—	—	—
	東三河	615	9,675	x	1,905	x	—	—

注) 1月～12月

資料：海面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）

15年からは、地域別の板のり生産額の統計データは公表されていない。

37 地区別のり生産枚数（養殖年）

地区	年度	経営体数	養殖柵数（柵）			生産枚数（千枚）	生産金額（千円）	1経営体当たり			1柵当たり		100枚当たりの平均単価（円）
			支柱柵	浮流柵	計			柵数（柵）	生産枚数（千枚）	生産金額（千円）	生産枚数（枚）	生産金額（円）	
知多	24	193	18,344	45,405	63,749	329,673	2,815,920	330	1,708	14,590	5,171	44,172	854
	25	179	17,202	43,687	60,889	325,732	2,606,839	340	1,820	14,563	5,350	42,813	800
	26	159	15,620	41,834	57,454	283,549	3,019,064	361	1,612	18,988	4,460	52,547	1,178
	27	150	15,460	40,741	56,201	271,217	3,200,577	375	1,808	21,337	4,826	56,949	1,180
	28	140	15,579	39,739	55,318	299,887	3,904,467	395	2,142	27,889	5,421	70,582	1,302
	29	138	15,527	38,765	54,292	240,811	2,697,109	393	1,745	19,544	4,435	49,678	1,120
西三河	24	29	9,916	720	10,636	55,794	568,610	367	1,924	19,607	5,246	53,461	1,019
	25	26	7,892	520	8,412	46,504	511,360	324	1,789	19,668	5,528	60,789	1,100
	26	21	6,533	0	6,533	35,323	451,112	311	1,682	21,482	5,407	69,051	1,277
	27	21	6,552	0	6,552	34,900	477,380	312	1,662	22,732	5,327	72,860	1,368
	28	21	6,578	0	6,578	37,678	571,658	313	1,794	27,222	5,728	86,905	1,517
	29	19	6,006	0	6,006	32,854	458,037	316	1,729	24,107	5,470	76,263	1,394
東三河	23	14	6,827	744	7,571	20,081	219,124	541	1,434	15,652	2,652	28,943	1,091
	24	14	8,606	696	9,302	22,501	207,338	664	1,607	14,810	2,419	22,290	921
	25	14	8,710	474	9,184	23,035	213,797	656	1,645	15,271	2,508	23,279	928
	26	17	11,500	384	11,884	13,882	125,047	699	817	7,356	1,168	10,522	901
	27	13	9,660	432	10,092	12,611	177,364	776	970	13,643	1,250	17,575	1,406
	28	24	11,364	400	11,764	14,935	369,562	490	622	15,398	1,270	31,415	2,474
県計	24	219	33,804	44,681	78,485	407,968	3,610,614	358	1,863	16,487	5,198	46,004	885
	25	197	33,653	42,218	75,871	395,315	3,632,227	385	2,007	18,438	5,210	47,874	919
	26	197	33,653	42,218	75,871	332,754	3,595,223	385	1,550	18,250	4,026	47,386	1,177
	27	184	31,672	41,173	72,845	318,728	3,855,321	396	1,732	20,953	4,375	52,925	1,210
	28	185	33,521	40,139	73,660	352,500	4,845,687	398	1,905	26,193	4,786	65,785	1,375
	29	182	33,493	39,045	72,538	291,730	3,363,175	399	1,603	18,479	4,022	46,364	1,153

注) 年度は、11月から5月までとした。

生産は、黒生のり、青ばらのり、青生のりも板のり換算して含む。

経営体数は、黒のり及び青のり養殖者の合計

資料：県水産課調べ

38 内水面漁業魚種別漁獲量

(単位：t)

魚種		年					
		24	25	26	27	28	29
魚類	ます類	16	15	15	15	14	13
	あゆ	134	105	106	89	76	69
	こい	2	4	3	3	3	2
	ふなぎ	1	5	4	5	5	5
	その他	5	4	3	4	3	2
貝類(しじみ)		20	289	188	49	44	32
その他水産動物類		0	0	0	0	0	0
計		178	422	319	165	145	123

注) 小数第1位を四捨五入するため、合計と一致しないことがある。資料：県水産課調べ
「貝類(しじみ)」は農林水産統計公表値による。

39 内水面漁業魚種別産出額

(単位：百万円)

魚種		年					
		24	25	26	27	28	29
魚類	ます類	39	38	36	39	28	28
	あゆ	325	276	281	247	266	279
	こい	1	2	1	1	2	1
	ふなぎ	0	2	1	2	3	3
	その他	13	10	7	5	3	1
貝類(しじみ)		13	180	115	28	26	19
その他水産動物類		0	0	0	0	0	0
計		391	508	441	322	328	330

注) 小数第1位を四捨五入するため、合計と一致しないことがある。資料：県水産課が全国平均単価をもとに推計

40 内水面養殖業魚種別収穫量

(単位：t)

魚種		年					
		24	25	26	27	28	29
ます類	185	178	190	210	203	211	
あゆ	848	1,063	1,114	1,160	1,182	1,156	
こい	—	—	—	—	—	—	
うなぎ	4,081	3,140	4,918	5,116	4,742	5,780	
その他食用	
計	5,114	4,381	6,222	6,485	6,127	7,146	

資料：内水面漁業生産統計調査(農林水産省統計部)

41 内水面養殖業魚種別産出額

(単位：百万円)

魚種		年					
		24	25	26	27	28	29
ます類	189	182	200	344	348	332	
あゆ	1,259	1,760	1,895	2,058	2,081	1,671	
こい	—	—	—	—	—	—	
うなぎ	11,664	10,347	13,873	14,778	16,298	19,195	
その他食用	
きんぎょ	666	587	512	437	430	333	
計	13,778	12,876	16,480	17,617	19,157	21,531	

注) きんぎょは県水産課調べ。その他は、県水産課が全国平均単価をもとに推計。
きんぎょは前年12月1日から当年11月30日までの集計値。

42 観賞魚養殖状況

魚種		年					
		24	25	26	27	28	29
きんぎよ	経営体数	114	112	103	95	91	87
	養殖面積(ha)	76	74	70	66	64	60
	販売量(千尾)	13,504	11,802	9,195	8,527	8,495	5,987

資料：県水産課調べ

注) 年は前年12月1日から当年11月30日までを示す。

43 しらすうなぎ池入数量

地区		年度							
		23	24	25	26	27	28	29	30
県内産	海部	4	7	8	2	2	2	1	2
	碧海	8	9	4	11	92	66	16	0
	西三河	245	264	112	361	510	539	642	351
	東三河	12	20	5	89	31	23	134	21
	その他	0	0	0	0	0
	計	269	301	129	463	635	630	794	375
県外産	海部	26	45	31	61	45	52	53	16
	碧海	180	235	125	306	181	241	289	210
	西三河	1,105	1,369	817	2,453	2,412	2,217	2,475	1,313
	東三河	272	175	151	313	302	379	258	219
	その他	25	1	0	3	14
	計	1,583	1,824	1,123	3,157	2,941	2,889	3,078	1,773
外国産	海部	0	0	0	0	0	0	0	0
	碧海	228	128	127	133	45	71	66	72
	西三河	3,606	1,669	1,394	2,580	765	1,134	825	723
	東三河	53	10	32	45	0	0	0	18
	その他	0	34	28	30	0
	計	3,887	1,807	1,553	2,758	844	1,233	921	813
県計	海部	30	52	38	63	47	54	54	18
	碧海	416	372	256	450	318	378	371	282
	西三河	4,956	3,301	2,323	5,394	3,687	3,891	3,943	2,387
	東三河	337	205	188	447	333	401	392	258
	その他	25	35	28	33	14
	うち異種うなぎ	100	0	55	0	0
	計	5,739	3,931	2,805	6,378	4,420	4,752	4,793	2,960

資料：県水産課調べ

注) 26年度からの年度表記は前年12月から当年5月とする。
 その他地区については、26年度から調査実施。
 26年度からは異種うなぎを含む数値。25年度以前は不明。
 小数第一位を四捨五入することにより、合計値と一致しないことがある。

V 流通加工

44 中央卸売市場における水産物の取扱数量・金額、平均価格

取扱数量：t
取扱金額：百万円
平均価格：円/kg

年		24	25	26	27	28	29
区分	取扱数量						
	取扱金額						
	平均価格						
生鮮水産物	取扱数量	76,069	72,845	70,510	67,899	63,578	59,332
	取扱金額	58,141	57,563	59,314	60,619	59,056	57,270
	平均価格	764	790	841	893	929	965
冷凍水産物	取扱数量	27,756	26,845	24,320	23,728	22,466	20,344
	取扱金額	26,147	27,240	27,877	28,325	27,209	27,103
	平均価格	942	1,015	1,146	1,194	1,211	1,332
加工水産物	取扱数量	36,718	35,902	35,416	34,004	33,297	31,483
	取扱金額	30,816	29,766	30,699	30,930	30,595	30,793
	平均価格	839	829	867	910	919	978
加工食料品	取扱数量	16,318	14,775	14,270	14,594	14,062	13,550
	取扱金額	8,066	7,540	7,558	7,773	7,730	7,570
	平均価格	494	510	530	533	550	559
計	取扱数量	156,861	150,367	144,517	140,226	133,402	124,709
	取扱金額	123,170	122,109	125,447	127,647	124,589	122,736
	平均価格	785	812	868	910	934	984

資料：名古屋市中央卸売市場年報（名古屋市）

45 水産加工品生産量

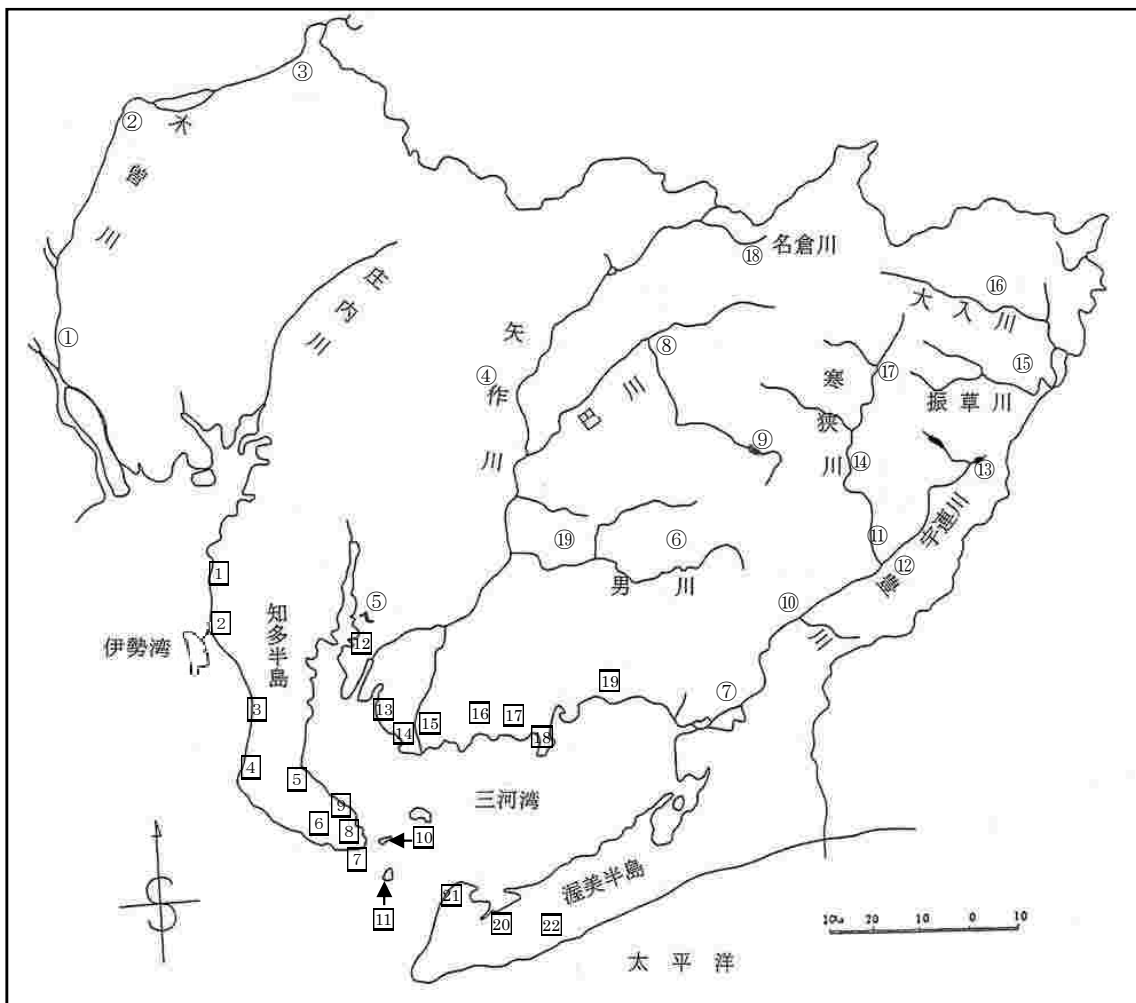
（単位：t）

年		24	25	26	27	28	29
ねり製品		23,399	20,543	18,154	16,958	18,601	13,531
かまぼこ類		23,399	20,543	18,154	16,958	18,601	13,531
冷凍食品		12,896	15,789	13,171	11,264	10,626	10,982
素干し製品		40	63	48	48	64	34
塩干し製品		938	778	744	865	715	789
煮干し製品		5,815	5,104	6,402	7,067	5,099	2,601
塩蔵製品		2,423	x	2,350	2,584	2,644	2,612
くん製製品		x	x	x	x	x	x
節製製品		3,162	2,440	x	x	x	2,240
その他食用加工品		11,686	10,498	9,950	10,819	10,444	10,534
焼・味付のり（千枚）		712,404	631,751	637,368	682,003	670,112	654,121
冷凍水産物		12,023	10,426	11,011	8,780	11,952	13,668

資料：水産加工統計調査（農林水産省統計部）

(付 属 資 料)

46 沿海漁業協同組合及び内水面漁業協同組合の位置図



沿海漁業協同組合

1	鬼崎	11	篠島	21	小中山
2	常滑	12	大浜	22	愛知外海
3	小鈴谷	13	西三河		
4	野間	14	衣崎		
5	美浜町	15	吉田		
6	豊浜	16	幡豆		
7	師崎	17	東幡豆		
8	片名	18	蒲郡		
9	大井	19	三谷		
10	日間賀島	20	渥美		

内水面漁業協同組合

①	立田	⑪	寒狭川下
②	木曾川	⑫	三輪川下
③	愛北	⑬	宇連川
④	矢作川	⑭	寒狭川中部
⑤	油ヶ渚	⑮	振草川
⑥	男川	⑯	大入川
⑦	下豊川	⑰	寒狭川上流
⑧	巴川	⑱	名倉川
⑨	三河湖	⑲	岡崎市
⑩	豊川上		

47 平成30年度（平成30年4月～平成31年3月）の主な水産年譜

年	月	日	内 容
30.	4.	13	浜の活力再生広域プラン（蒲郡広域地区）承認
	4.	13	浜の活力再生広域プラン（知多北部地区）承認
	6.	8	愛知県淡水養殖漁業協同組合が知事に県産絹姫サーモンをPR （於名古屋市・知事公館）
	6.	9	愛知の水産研究活動報告会（於名古屋市・水産会館）
	6.	23	金魚の学校（於弥富市・市総合社会教育センター）
	7.	10	藻類貝類養殖技術修練会（於西尾市・西尾市一色町公民館）
	7.	16	「あいちのおさかなスポットARスタンプラリー」キックオフイベント （於常滑市・イオンモール常滑）
	7.	31	少年少女水産教室（於蒲郡市・水産試験場）
	10.	9	愛知県漁業士協議会が知事を表敬訪問（於名古屋市・知事公館）
	10.	16	うなぎ供養・放流祭（於西尾市）
	10.	27	水産試験場公開デー（於蒲郡市・水産試験場）
	10.	28	金魚日本一大会（於弥富市・海南こどもの国）
	10.	30	漁業調査船「海幸丸」竣工式（於南知多町・水産試験場漁業生産研究所）
	11.	23～24	あいちの農林水産フェア（於名古屋市・金山総合駅）
	11.	29	山下三千男氏（愛知県漁連会長）大日本水産会水産功績者表彰
	12.	8	第14回 水産海洋地域研究集会「伊勢・三河湾の環境と漁業を考える」 （於三重県津市・三重県総合博物館）
	12.	25	浜の活力再生プラン（西尾地区）承認
31.	2.	28	平成30年度水産試験場研究発表会（於蒲郡市・水産試験場）
	3.	27	浜の活力再生プラン（南知多地区第2期）承認
	3.	29	浜の活力再生プラン（碧南地区第2期）承認

48 愛知県の水産業に関する地勢

項 目	数 量	出 典
海 岸 線 総 延 長	596 km	海岸統計 平成30年度版（国土交通省河川局）
法 河 川 延 長	2,974km	県建設局（31年4月1日現在）
伊 勢 湾 面 積	1,738 km ²	伊勢湾、三河湾及び東京湾の形態と汚染負荷 （西条・宇野木、1979）
三 河 湾 面 積	604 km ²	

動向調査資料 No.174 水産業の動き

令和元年12月発行

愛知県農業水産局水産課

〒460-8501

名古屋市中区三の丸三丁目1-2

電話 (052) 961-2111 (代表) 内線 3783・3786
(052) 954-6458 (ダイヤルイン)

FAX (052) 951-1645

E-mail suisan@pref.aichi.lg.jp

Home page <http://www.pref.aichi.jp/suisan/>



この用紙は、間伐材印刷用紙です。



あいちの四季の魚

